

応用心理測定研究会

第2回研究会



日時：2018年11月24日(土) 14:00~16:40

場所：京都学園大学太秦キャンパス N202

応用心理測定研究会 第2回研究会

日時：2018年11月24日(土) 14:00～16:40

会場：京都学園大学太秦キャンパス N202

発表プログラム

No.	開始～終了 ¹⁾	発表者	演題
	14:00～14:05		開会の挨拶
1.	14:05～14:20	山田 忍 和歌山県立医科大学 保健看護学部	臨床の問題とつながる研究
2.	14:20～14:35	山本 理恵 京都学園大学 教育開発センター	学生支援尺度の作成
3.	14:35～14:50	三保 紀裕 京都学園大学 経済経営学部	インターンシップの予期的社会化に係る効果と 大学教育における有効性
	14:50～15:05		休憩
4.	15:05～15:20	小高 恵 太成学院大学 人間学部	日々の母娘関係と情動性の関連について —動的因子分析による時系列研究—
5.	15:20～15:35	西川 一二 京都大学大学院 教育学研究科	インターネット調査で心理尺度を用いてもいいのか？ —自尊心尺度と知的好奇心尺度を用いたインターネット調査結果から—
6.	15:35～15:50	佐名 隆徳 千葉県東上総 児童相談所	状態空間モデルによる心理療法効果の測定と予測
	15:50～16:05		休憩
7.	16:05～16:20	紺田 広明 福岡大学 教育開発支援機構	中途退学防止に関わる研究に向けて
8.	16:20～16:35	清水 和秋 関西大学 社会学部	StateとTraitの区分 —Authenticityの測定を例として—
	16:35		閉会の挨拶
9.	資料掲載	宮田 延実 人間環境大学 看護学部	地域愛着を育むキャリア教育による地元志向への効果

司会者：三保 紀裕

注1：質疑応答時間は、発表時間の1割程度とする。

臨床の問題とつながる研究

和歌山県立医科大学 保健看護学部
がん看護専門看護師コース
山田 忍

漢方に関する研究

漢方薬を継続的に内服することが困難な要因の抽出
—がん患者とがん以外の患者との比較—

第22回(2017)日本緩和医療学会学術大会発表

研究目的

患者が漢方薬の内服をなぜ拒んでしまうのか、なぜ継続できないのかといった、「漢方薬を継続的に内服することが困難」な要因に関して明らかにする。

がん患者とがん以外の患者の尺度得点および項目得点の比較から、がん患者に特徴的な、漢方薬を内服する、困難な理由を明らかにする。

研究方法

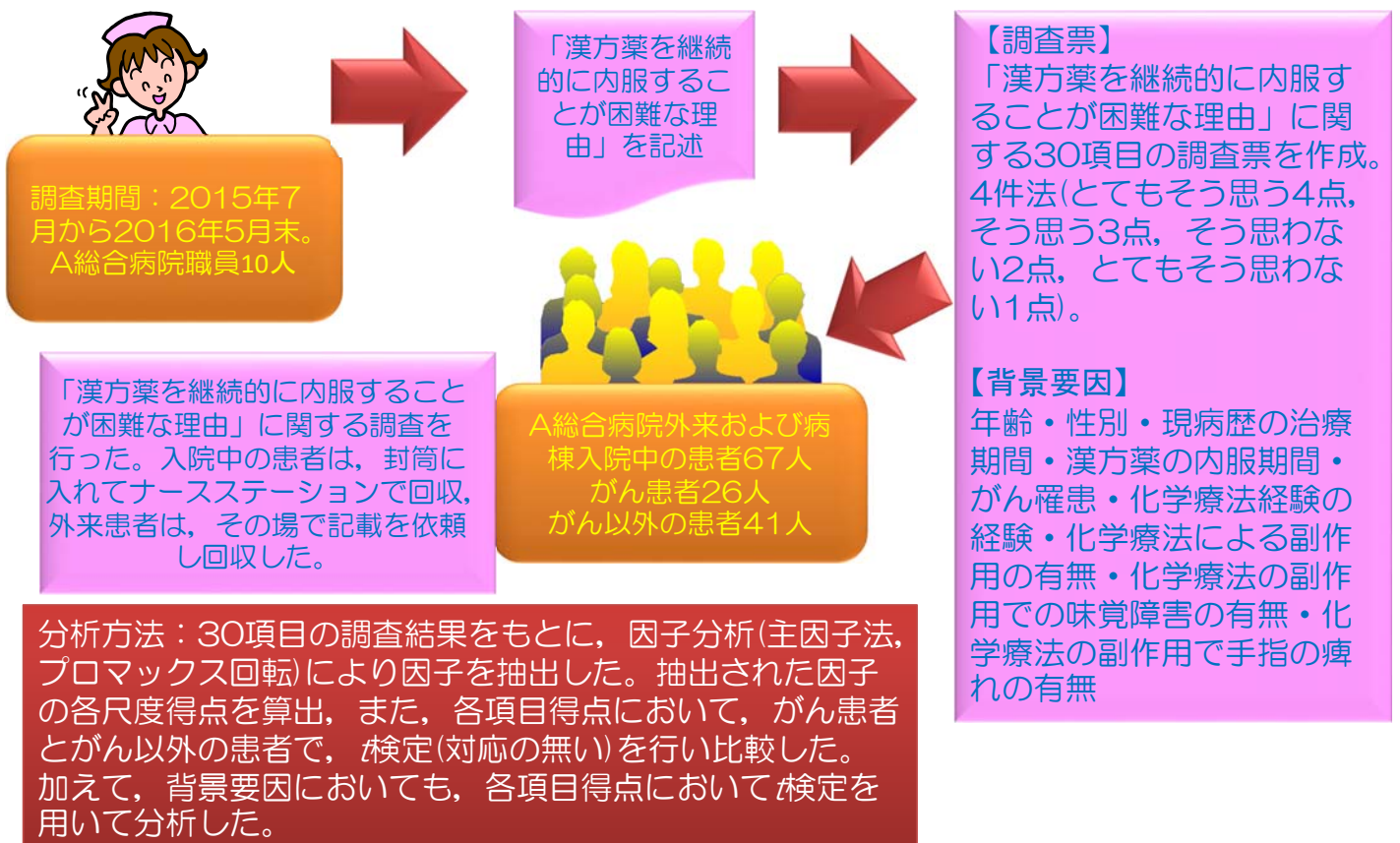


Table2 「漢方薬を内服することが困難な要因」の探索的因子分析と尺度構成

	味わいの悪さ	吐き気を誘発	内服量の多さ	実感できない効果	刺激の強さ	通過の悪さ	共通性	平均値	SD
苦くて飲みにくい	.86	.06	.00	.17	-.11	-.17	.75	2.61	1.01
後味が悪い	.84	.00	-.19	.14	.03	.10	.76	2.88	.91
臭くて飲みにくい	.81	.19	-.11	.08	.02	-.17	.68	2.55	.94
内服後に暫く味が残る	.74	-.19	.28	-.13	.01	.06	.72	2.81	.87
口腔内に溶けずに残る	.70	.03	.10	-.20	.06	.16	.65	2.43	.97
口の中でかたまる	.60	-.09	-.01	-.10	.17	.21	.53	2.25	.88
飲むと吐き気が強くなる	.11	.77	-.04	-.05	-.03	.08	.62	1.64	.77
効果が強すぎる	-.13	.59	-.03	-.05	.00	.43	.49	1.48	.56
げっぷが臭い	.07	.55	.29	-.18	.19	-.07	.58	1.70	.80
口に入れると吐きそうになる	.32	.55	-.03	.06	-.05	.32	.73	1.84	.88
一回の内服の量が多い	.03	.07	.77	-.02	-.14	.02	.55	2.49	.98
内服回数が多い	.04	-.02	.74	-.18	.07	.10	.58	2.12	.90
量が多く持ち歩きにくい	-.10	.41	.72	.06	-.07	-.17	.67	2.03	.80
粉のため水分を多く摂らなければならない	.30	-.21	.53	.10	-.16	.24	.66	2.87	.89
食間の内服が多いため飲み忘れがある	-.10	-.05	.52	.17	.19	-.26	.38	2.09	.90
劇的な効果を実感できない	.12	-.09	-.09	.69	.11	-.03	.54	2.66	.80
予防効果があかどうか不明	-.27	.23	-.09	.65	-.12	.25	.43	2.19	.78
治療効果があるかどうか不明	.01	-.04	-.01	.61	-.16	.16	.36	2.21	.83
直ぐに効いてほしい時に即効性がない	-.04	-.30	.36	.59	.14	-.02	.70	2.81	.87
効果が弱すぎる	.16	-.01	.05	.53	-.02	-.15	.37	2.36	.69
辛くて飲みにくい	.12	-.04	-.16	-.02	.87	.06	.70	1.85	.82
喉に刺さるような違和感がある	.03	.17	.08	-.11	.64	.11	.60	1.72	.88
口の中に沁みる感じがある	-.06	.22	.14	-.07	.40	.06	.34	1.82	.92
喉に詰まって飲みにくい	.12	.16	-.10	.24	.20	.60	.77	2.07	.86
むせてしまう	.14	.17	.12	.21	.07	.40	.58	2.24	.89
口の中に入りきらない	.22	.15	.03	-.16	.00	.24	.18	1.93	1.36
粉のためこぼれ易い	.03	.04	.31	.18	.24	.22	.57	2.54	.86
薬を減らすなら漢方薬から減らそうと思う	.10	.21	.34	.09	-.13	.20	.36	2.28	.98
鼻に臭みが残る	.26	.33	.02	.19	.03	.06	.41	2.12	.88
袋が開け辛い	-.27	.37	.00	.18	.25	.01	.29	1.60	.63
味わいの悪さ	—	.48**	.53**	.40**	.42**	.60**	.81	2.59	.77
吐き気を誘発	.30	—	.44**	.26*	.53**	.59**	.82	1.66	.61
内服量の多さ	.53	.30	—	.46**	.45**	.54**	.81	2.32	.66
実感できない効果	.44	.26	.48	—	.32**	.52**	.84	2.43	.57
刺激の強さ	.39	.38	.54	.43	—	.54**	.82	1.80	.72
通過の悪さ	.42	.14	.42	.23	.34	—	.79	2.16	.79

注1：主因子法の繰り返し法で共通性を推定し、Promax法で因子軸を回転した。
 注2：相関行列の下三角は因子相関行列、上三角は構成した尺度相関行列である。
 注3：尺度得点は、総点を項目数で割っている。
 注4：尺度間相関で**は $p < .01$ 、*は $p < .05$ を意味する。
 注5：尺度の信頼性(α係数)は項目の共通性の列に配置している。

がん患者:26人
 男性11人 女性15人
 年齢平均 42.95(±15.22)
 内服期間 4.96日
 副作用の出現 22人
 味覚障害 17人
 手指の痺れ 13人

がん以外の患者:41人
 男性16人 女性25人
 年齢平均 59.81(±16.22)
 内服期間 11.12日

6因子25項目
味わいの悪さ
 苦くて飲み難い
吐き気を誘発
 飲むと吐き気が強くなる
内服量の多さ
 一回の内服量が多い
実感できない効果
 劇的な効果を実感できない
刺激の強さ
 辛くて飲み難い
通過の悪さ
 喉に詰まって飲みにくい

【結果】



図1 がん患者とがん以外の患者の尺度得点の比較

乳がん患者を対象にした研究

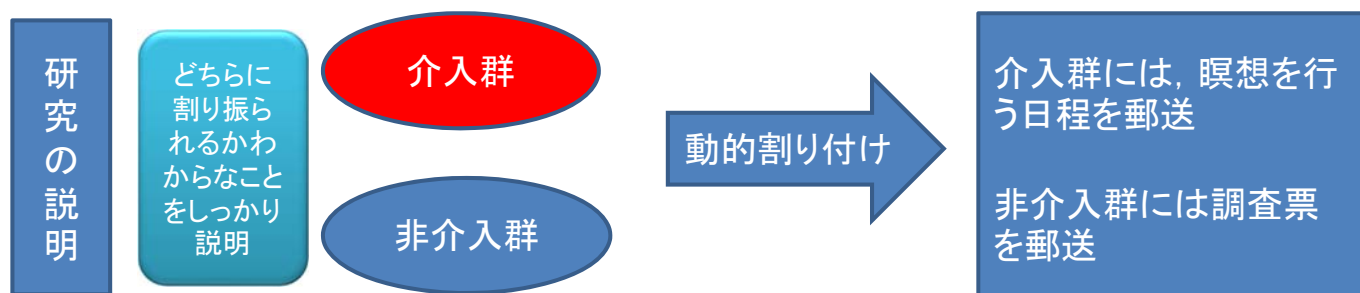
- 乳がん患者へのポジティブ心理学介入 (Positive Psychological Intervention; PPI) 効果の検討
- 助成: 平成29年度和歌山県立医科大学保健看護学部実習施設との共同研究助成
20万円
- 2017年4月－2019年3月

研究の概要

【目的】

ポジティブ心理学介入 (Positive Psychological Intervention; PPI) を、乳がん患者に導入することで、精神的マネージメントを個々の患者が行うことが可能となり、QOLの向上に繋がると予測できる。

【方法】2週間ごとに乳がん患者に4回の「慈悲の瞑想」を行ってもらおう。継続して自宅でもICに録音した内容を聞き、時間があるときに瞑想を行ってもらおう。その変化を4つの尺度(介入前, 介入後4回)を用いて評価する。



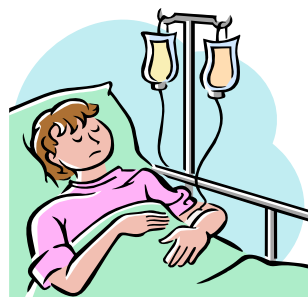
クリーンルーム入室患者を対象にした研究

●クリーンルーム入室患者の不応感尺度(Cleanroom non-Adaptation Scale : CnA-S2)の妥当性の検討

●日本学術振興会科学研究費助成事業 平成30年度
(2018年度) 若手研究
92万円

●2018年8月－2021年4月

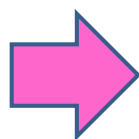
身体的・精神的・社会的・環境的側面から 「適応」していない状況を評価する視点



- ・金銭的な問題
- ・長期療養による休職
- ・社会的役割の歪み
- ・化学療法副作用
- ・治療に対する不安
- ・閉鎖環境での疎外感



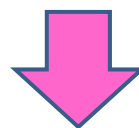
身体的・精神的・社会的・環境
的側面からの「適応」を考える
必要がある。



医療者が患者に感じる「なんとなくおかしい」「なんとなくおかしくなるのでは」という医療者の感覚



患者の疾患への「適応」が出来ていない状態、つまり「**不適応**」な状態として明らかにしたい。



がんに携わる専門教育を受けた看護師の介入
精神科医師のコンサルテーションなど、専門的な
アプローチが可能となる。
患者はがんという疾患の治療に専念でき、QOL
を維持しながら闘病できる。

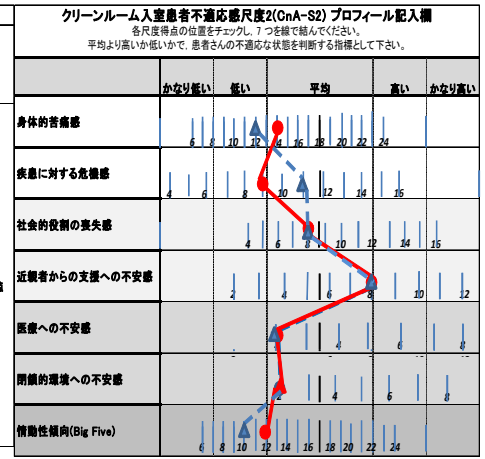
Table S-2 クリーンルーム入室患者不適応尺度短縮版(CnA-S2)

	あてはまる	あつどはえらま	あつどはえらま	あつどはえらま	あてはまらない
1 食欲が低下している	4	3	2	1	
2 家族に迷惑をかけたくないと思っている	4	3	2	1	
3 家族を養っている	4	3	2	1	
4 家族の面会が少ない	4	3	2	1	
5 医療者の指示を受け入れない	4	3	2	1	
6 外の景色が見えない	4	3	2	1	
7 不安になりやすい	4	3	2	1	
8 全身倦怠感がある	4	3	2	1	
9 死ぬかもしれないと思っている	4	3	2	1	
10 仕事上での役割がある	4	3	2	1	
11 身の回りの世話をしてくれる家族がいない	4	3	2	1	
12 医療者の説明を理解できない	4	3	2	1	
13 窓からの採光がない	4	3	2	1	
14 心配性な	4	3	2	1	
15 吐き気がある	4	3	2	1	
16 隔離されていると感じている	4	3	2	1	
17 就業していない子供を養育している	4	3	2	1	
18 面会してくれる親しい友人がいない	4	3	2	1	
19 傷つきやすい	4	3	2	1	
20 発熱がある	4	3	2	1	
21 重症感を持っている	4	3	2	1	
22 悔みがちな	4	3	2	1	
23 味覚障害がある	4	3	2	1	
24 入院により職を失う	4	3	2	1	
25 動揺しやすい	4	3	2	1	
26 口内炎がある	4	3	2	1	
27 神経質な	4	3	2	1	

クリーンルーム入室患者不適応尺度短縮版(CnA-S2) 算点表

算点のしかた
①各項目の得点1～4をそのまま記入してください。
②欄に番号1～4の項目の得点を合計して、1つの尺度得点とします。
③それぞれ得点の尺度得点を記入してください。
④プロフィール欄に、1つの尺度得点の位置をチェックし、7つを線で結んでください。

項目番号	1	2	3	4	得点
身体的苦痛感 項目番号	1	8	15	22	25
疾患に対する危機感 項目番号	2	9	16	23	
社会的役割の喪失感 項目番号	3	10	17	24	
近親者からの支援への不安感 項目番号	4	11	18		
医療への不安感 項目番号	5	12			
閉鎖的環境への不安感 項目番号	6	13			
情動性傾向(Big Five) 項目番号	7	14	19	26	27



プロフィール記入後の看護師間での確認内容

- ・CnA-S2の項目内容は解り易かったか。
- ・CnA-S2を勤務中に使用するのは大変であったか。
- ・CnA-S2を使用してみて、患者さんの状況を理解できたか。
- ・CnA-S2の様な看護師が客観的に記載する尺度(他記式)は、有用であるか。
- ・7因子「身体的苦痛感」「疾患に対する危機感」「社会的役割の喪失感」「近親者からの支援への不安感」「医療への不安感」「閉鎖的環境への不安感」「情動性傾向(Big Five)」に関して、プロフィールの相違点はどこであったか。その理由はどういったことであるか。
- ・7因子に関して、どのような看護介入が提案できるか。

研究結果

CnA-Sの様な他記式尺度の有用性

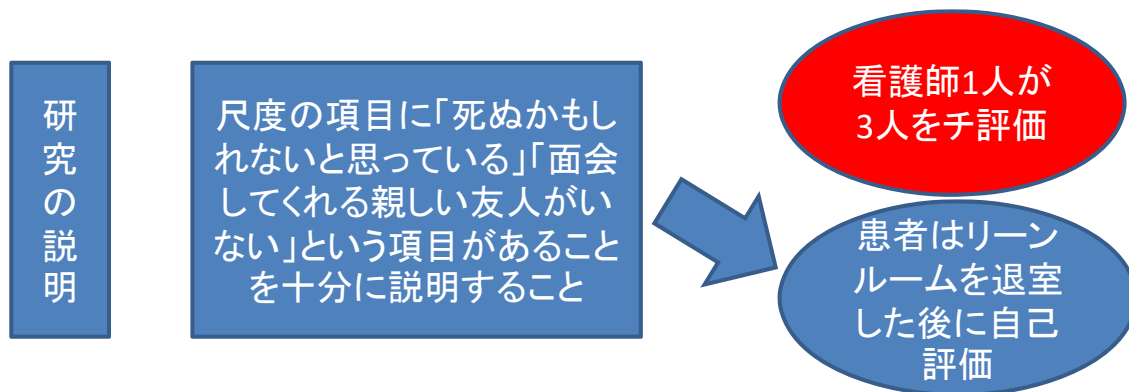
看護師だけでなく、患者にもしてもらおうという意見が3人あった。特に、「情動性傾向」に関して、看護師で判断しにくい、患者さんにしてもらってもよいのではないかという意見があった。看護師が記入するほうが良いという意見では、しんどい患者さんに自記式してもらおうことが申し訳ないという意見があった。

研究の概要

【目的】

医療者の記入による臨床評価に留まっている研究を発展させ、医療者と患者が尺度を使用しての評価の相違点を検討し内容の妥当性を患者の意見をもとに検討したいと考える。CnA-S2(山田, 2013)を患者と医療者が使用し、尺度得点の相違、内容の評価を行うことで、尺度の妥当性を更に高めることを目的とする。

【方法】看護師30人、クリーンルームに入室し治療を終了した患者90人を対象に、看護師がCnA-S2で評価した患者を紐付けし、調査を行う。最終的に両者の違いを比較し尺度得点の比較から妥当性を検討、内容についても検討する。





2018.11.24
第2回 応用心理測定研究会

学生支援尺度（仮）の作成

京都学園大学 教育開発センター
山本理恵



問題

専修学校等を含む高等教育機関への進学率は80.6%，大学・短期大学への進学率は54.8%（平成29年度）。（文部科学省，2017）

高等教育機関は多くの若者が人生の一時期を過ごす場所となった（加野，2011）。

学生評価・入試方法の多様化
→様々な背景の学生が大学で学べる機会





問題



一方で・・・

・大学生活への不適應に伴う休学や中途退学の増加(文部科学省, 2014)

・基礎学力不足, 学習態度・学習習慣が身についておらず, 授業についていけないなどの学力面での適應の困難, 大学での人間関係や社会生活における適應の困難(谷島, 2005)。

・大学生の生活習慣を意識する機会の少なさ。生活習慣の悪化により精神的健康が低下→大学生活への不適應を助長(佐々木, 2009)。

・大学生活への不適應につながる問題は学力面だけではなく, 人間関係や日常生活の問題まで幅広く存在している(野口・園田, 2018)。



問題



・青年期は人格形成の途上にあり, 学業や進路に関する課題に主体的に取り組み, 課外活動や対人関係でも社会的な責任をより求められる状況に直面するなかで, 強いストレスを抱える学生は現れても不思議ではない。不適應に陥った際には, 早期の発見や対応が必要であることから, 大学においても教員による学生の支援が果たす意義は大きい(石田ほか, 2009)。

・大学生の不適應状態の背景に必ず「不安」がある。学生の日常における不安水準を詳細に分析できれば不適應の早期発見・予防可能(藤井, 1998)。

・大学生のストレス, 不安感, 抑うつには, 適切な「ソーシャルサポート」が有効(片受・大貫, 2014; 片受, 2016)。

⇒学生への支援・援助をしていく必要

⇒学生への支援には, 学生の適應状態を把握が必要

⇒適應状態を測定できる尺度を作成(本研究の目的)





方法



1. 尺度項目収集(“適応”に関するもの 39尺度1017項目)
2. 尺度項目分類
 - ①適応要因・適応状態・適応結果
 - ②(適応状態を)
学習・対人関係・生活／適応・適応感
3. 尺度項目から, 学習・対人関係・生活それぞれの領域において, 大学生生活への適応に必要な要素を探る
4. 尺度の構成
5. 調査実施
6. 分析
7. 尺度の再構成



尺度項目の分類①



「適応」に関する尺度・項目には,

学校生活への適応の要因になりうるもの

例. 個人の特性, 傾向, 価値観, 環境・・・など

学校生活への適応状態を測定しうるもの

学習, 対人関係, 大学生生活←学生支援ができる部分

学校生活への適応(不適応)の結果として起こりうるもの

例. ストレス反応, 生きがい感, アイデンティティ形成・・・など

※(暫定)適応状態:446項目, 適応要因・結果:571項目





尺度項目の分類②



大学生活において適応が必要な領域

広沢(2007)

大学に適応していく過程において、**対人関係面**と**学習面**の2つの側面が重要。入学後半年の時点で、学習面で適応している学生はそうでない学生に比べて成績が良く、大学での学習面だけでなく対人関係にも自信を持つ傾向がある。

谷島(2005)


心理的に未成熟なままで大学に入学し、**人間関係**や**社会生活**に適応できない学生が増加。

 **学習・対人関係・大学生活**

大隅ほか(2013)

大学への適応は、取得単位数や成績などの客観的な指標に表れることもある。学生本人が「うまく適応している」と感じることは、大学生活の多くの領域において肯定的な結果をもたらすと予想される。大学生活全般において満足し、適応していると感じる程度である「適応感」に注目。



 **適応(行動的なもの, できる・できない)**
適応感(感情的なもの, 自信・不安)



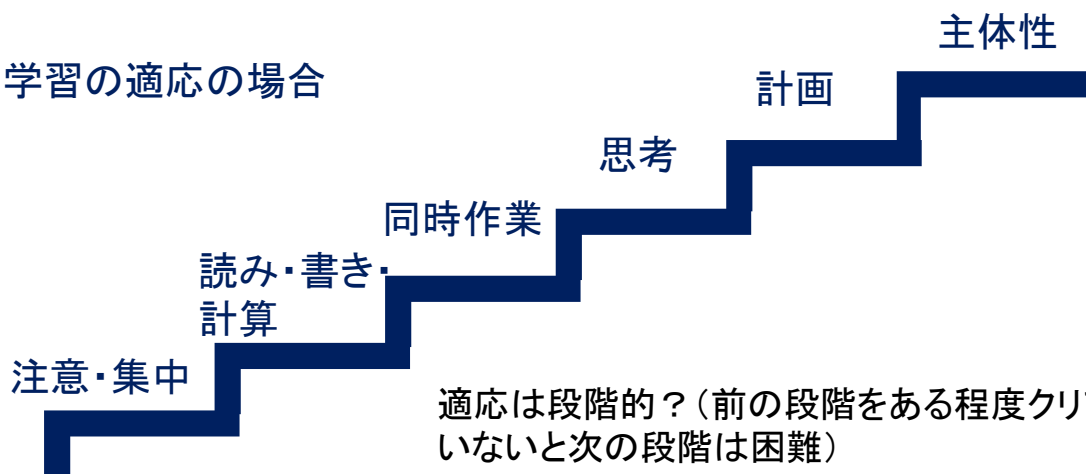
尺度項目の分類②



※補足資料参照

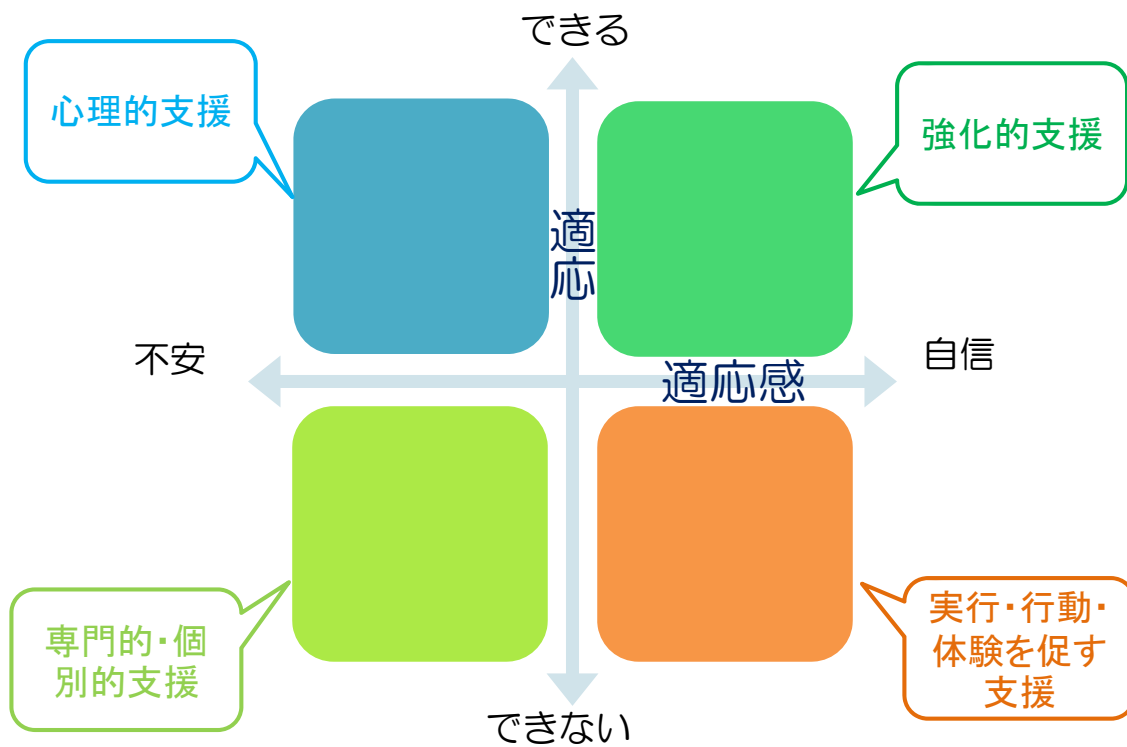
適応の領域	適応の要素(暫定)
学習	注意・集中, 読み・書き・計算, 同時作業, 思考, 計画, 主体性
対人関係	自律, 関心, 想像, コミュニケーション, 協力, 関係構築
生活	自律, 注意・集中, 自己管理, 自己判断, 柔軟性, 自立性

※学習の適応の場合



支援の可能性

・その学生がどの領域のどの段階で困っているか、適応によって支援の方法が異なる



引用文献

- 藤井義久 1998. 大学生生活不安尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 心理学研究, 68, 441-448.
- 広沢俊宗 2007. 大学新入生の適応に関する研究 (1) - 学習面での適応 - 不適応に関する諸変数の検討 - 関西国際大学研究紀要, 8, 121-138.
- 石田弓・堀匡・品川由佳・兒玉憲一・岡本祐子・松下姫歌・大塚泰正 2009. ストレス脆弱性克服に挑む教育科学-ストレス状況において大学生が求める大学教員からの支援- 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要, 8, 170-187.
- 加野芳正 2011. 学生支援は「誰が」, 「何を」支援するのか 高等教育研究叢書; 112 「学生による学生支援活動の現状と課題」 第1章 (pp1-15) .広島大学高等教育研究開発センター
- 片受靖 2016. 新大学生用ソーシャルサポート尺度と精神的健康, 援助要請スキルの関連についての研究 立正大学心理学研究所紀要, 14, 65-70.
- 片受靖・大貫尚子 2014. 大学生用ソーシャルサポート尺度の作成と信頼性・妥当性の検討- 評価的サポートを含む多因子構造の観点から - 立正大学心理学年報, 5, 37-46.
- 野口大貴・園田直子 2018. セルフコントロールの水準と変動の大きさが大学生活への適応感に及ぼす影響 久留米大学心理学研究, 17, 25-37.
- 大隅香苗・小塩真司・小倉正義・渡邊賢二・大崎園生・平石賢二 2013. 大学新入生の大学適応に及ぼす影響要因の検討- 第1志望か否か, 合格可能性, 仲間志向に注目して - 青年心理学研究, 24, 125-136.
- 佐々木浩子 2009. 大学新入生の生活習慣と精神的健康の変化 人間福祉研究, 12, 75-86.
- 谷島弘仁 2005. 大学生における大学への適応に関する研究 文教大学人間科学部『人間科学研究』, 27, 19-27.

・・・ほか

学習における適応

分類	要素(仮)	項目(学習における適応)	尺度名	引用文献
適応	出席	一日の授業がすべて終わる前に帰宅することがある_【登校回避行動】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応	出席	27_授業を休みがちである(学業成績および授業態度)【学業成績および授業態度】	教員からみた大学生不登校リスク	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
適応	出席	欠席しがちな授業がある_【登校回避行動】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応	出席	授業は時間通りにいく*【約束事への遅延】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
適応	出席	授業に遅刻しないようにする_【勤勉的受講態度】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	出席	授業を遅刻しがちである	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応	出席	15_授業やゼミに遅刻することは無い(不規則な日常生活)*【学業成績および授業態度】	教員からみた大学生不登校リスク	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
適応	出席	1ヶ月間、無遅刻・無欠席ですべての授業に出られる_【遂行性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	出席	授業に必要な教科書・資料、ノートなどを毎日持参する_【勤勉的受講態度】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	注意集中	教員の指示を聞き逃すことが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	注意集中	教師の指示を聞き逃すことや、メモをしないとすぐに忘れてしまうことが多い。【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	注意集中	周りの音が気になって講義中に教員の話が頭に入らない。_【修学上の困難】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	注意集中	話を聞き間違ふ。_【修学上の困難】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	注意集中	講義中他のことを考えていて先生の話聞いていないことが多い_【集中性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	注意集中	講義中はいつも集中することができる_【集中性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	注意集中	授業中は講義に集中してとりこんでいる_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	注意集中	本を読んでも頭に入らないことがある_【集中性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	注意集中	レポートや宿題に集中できず期日に間に合わない。_【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	読み	文字や文章を読み間違える。_【読み書き】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	読み	文章を読んで理解するのに時間がかかる。_【修学上の困難】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	読み	本を読むのに時間がかかる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	読み	本を読むときは大事な所に線を引く_【メモ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	読み	読み方のわからない漢字を漢和辞典で調べられる_【辞書活用】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	読み	国語辞典と漢和辞典の使い分けができる_【辞書活用】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	読み	外国語で聞き、話す力_【外国語運用能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	読み	外国語で読み、書く力_【外国語運用能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	書き	黒板に書かれたことはノートに書く_【ノートテイキング】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	書き	誤字、脱字がある。_【読み書き】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	書き	誤字・脱字が多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	書き	手書きで文字を書くのがとても遅い、または文字を上手に書くことができない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	書き	書くスピードが遅い_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	書き	答案を書く前にキーワードをメモする_【メモ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	計算	計算を間違える。_【読み書き】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	同時作業	授業の進み方が速く、読み・書き・計算などの作業についていけない_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	同時作業	講義を聴きながらノートを取ることができない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	同時作業	講義や授業を聴きながらノートを取ることができない。【修学上の困難】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	同時作業	先生の話聞きながらメモをとることができない_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	同時作業	黒板を写しながら、同時に教師の話聴いて理解することができない。【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	同時作業	やらなければいけないことが複数あるときに、うまくこなせない	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応	思考	26_授業内容がわからない【学業ストレス】	大学生用ストレスサー尺度※38項目	菊島勝也(2002)
適応	思考	資料を読んでも大事なポイントがわからない_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	思考	内容の善し悪しや正誤を考えながら読むことがある_【読解】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	講義中に大切なことはノートに書いておく_【ノートテイキング】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	講義中黒板以外の大切なこともノートに取る_【ノートテイキング】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	アイデアが浮かんだ時は必ずメモする_【メモ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	本の並べ方は自分なりに決めている_【資料整理】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	講義で配布された資料を整理している_【資料整理】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	授業で配布された資料などを整理する_【勤勉的受講態度】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	思考	ノートを整理する時は自分なりの工夫をしている_【資料整理】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	感想文とレポートを区別して書き分けている_【論理構成】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	自分の意見と事実を分けて書ける_【論理構成】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	自分の意見を交えてレポートを書くことが難しいと感じる。【修学上の困難】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	思考	自分の意見や感想を言うのが苦手である_【対人場面での緊張】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	思考	本や論文の内容を決められた字数で要約できる_【論理構成】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	本の内容や話の要点を簡条書きにできる_【論理構成】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	聞く人・読む人が分かりやすいように考えを整理して話したり、文章にしたりすることが苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	思考	筋道を立てて人に話すのが得意である_【論理構成】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	思考	新しい作業を習得するのに時間がかかる	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応	思考	現状を分析し、問題点や課題を明らかにすること_【問題解決能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	思考	ものごとを批判的・多面的に考えること_【問題解決能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	思考	多様な情報から適切な情報を取捨選択すること_【問題解決能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	計画	どんな科目を履修すればよいか分からない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	計画	優先順位がつけられない_【選択的判断の難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	計画	「要領が悪い」と言われることがある_【選択的判断の難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	計画	学習計画を立てたことがある_【計画性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	計画	自分の立てた計画通りに学習できる_【計画性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	計画	計画を立てて勉強する_【計画的学習】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	計画	毎日その日の勉強量をこなし、期日までに課題を提出するようにしている*【課題先延ばし】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
適応	計画	本当にやらなければならないとわかっている時は早めに取りかかり、遅れることはない*【課題先延ばし】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
適応	計画	自分で目標を設定し、計画的に行動すること_【主体的行動】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	計画	レポートや宿題を期日までに仕上げられないことが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	計画	筋道を立てて論理的に問題を解決すること_【問題解決能力】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	主体性	私は授業を真面目に受けている。_【学業への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	主体性	私は勉強に積極的である。_【学業への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	主体性	私は、予習や復習を毎日できるよう努力している。_【学業への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	主体性	遊ぶときは遊び、勉強するときは勉強するというけじめがついている。_【学業への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	主体性	私は、部活動や趣味と勉強の両立ができるよう努力している。_【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	主体性	02_教師に言われなくても自分から進んで勉強する*。【学業意欲低下】	意欲低下領域尺度※15項目	下山晴彦(1995)
適応	主体性	次に何をするのか具体的な指示がないとどうすればいいかわからない_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	主体性	課題(作文やレポート)をするときに、具体的にやる事が指示されていればできるが、自分で考えないと書けると全くできなくなる。【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	主体性	次に何をするのかという具体的な指示が事前にないと困ってしまう	自閉症スペクトラム障害の困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応	主体性	授業でわからなかったことは、自分で調べる_【自発的学習】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	主体性	11_勉強で疑問に思ったことはすぐ調べる*。【学業意欲低下】	意欲低下領域尺度※15項目	下山晴彦(1995)
適応	主体性	授業で興味を持ったことについて主体的に勉強する_【自発的学習】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)

学習における適応

分類	要素(仮)	項目(学習における適応)	尺度名	引用文献
適応	主体性	授業とは関係なく、興味を持ったことについて自主的に勉強する_【自発的学習】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村宗・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	主体性	あるテーマについてインターネットで情報収集できる_【リサーチ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	主体性	大学の図書館にない本の探し方を知っている_【リサーチ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	主体性	誕生日にどんな出来事があったかを調べられる_【リサーチ】	学習技術尺度(大学生用簡易版)23項目	広沢俊宗(2009)
適応	主体性	自分の意思で継続的に勉強する_【自発的学習】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村宗・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	主体性	14_必要な単位以外でも、関心のある授業はとるようにしている。【学業意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応	主体性	17_大学で勉強することで自分の関心を深めている*。【学業意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応	主体性	進んで新しい知識・技能を身につけようとする_【主体的行動】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村宗・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	成績	授業の課題の提出が遅れたり、出さなかったりすることがある。【授業意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応	成績	課題はきちんと提出する(学業成績および授業態度)【学業成績および授業態度】	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
適応	成績	授業で出される課題は、期限までに完成させることができる_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	成績	講義で出された課題はきちんと提出している_【遂行性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	成績	講義中に出された宿題はきちんとやっていく_【遂行性】	学習特性尺度(大学生用簡易版)19項目	広沢俊宗(2009)
適応	成績	授業で出された宿題や課題はきちんとする_【勤勉的受講態度】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村宗・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	成績	履修登録した科目は途中で投げ出さない_【勤勉的受講態度】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村宗・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	成績	34_学業上のことで失敗した(成績の低下、単位を落とす、留年するなど)。	大学生用生活体験尺度(CLES)	久田満・丹波郁夫(1987)
適応	成績	学業上のこと(試験、レポートなど)で失敗した。【自己に関するネガティブな出来事】	大学生用日常生活出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応	成績	36_自分の勉強、研究、卒業などがうまく進まない。	大学生用生活体験尺度(CLES)	久田満・丹波郁夫(1987)
適応	成績	単位が思うように取れない_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	出席	11_1時間めの授業にきちんと起きて出席できるかどうか、不安です。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	出席	01_授業に出る気がしない。【授業意欲低下】	意欲低下領域尺度※15項目	下山晴彦(1995)
適応感	出席	授業に参加する意欲が落ちている_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	出席	07_何となく授業をさぼることがある。【授業意欲低下】	意欲低下領域尺度※15項目	下山晴彦(1995)
適応感	出席	一日の授業がすべて終わる帰宅したくなることもある_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	出席	参加したくない授業がある_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	出席	13_実験や実習に参加することに苦痛を感じる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	出席	29_授業中に何かしなければならぬとき、へまをするのではないかと不安になることがあります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	出席	20_授業で発表するとき、声が震えることがあります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	注意集中	ざわざわした教室にいるのが耐えられない。_【感覚】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	注意集中	14_ざわざわした教室にいるのは耐えられない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	注意集中	授業中、集中が続かなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意集中	90分集中して授業を受けることが苦痛である	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	注意集中	気が散りやすくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意集中	人の話を聞いているときに、うわの空になることがあって困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意集中	興味が無いことだと、たとえやらなければいけないことでも集中できなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意集中	学校や仕事の場面で単純なミスが多くて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意集中	35_仕事を手につかない	心理的ストレス反応尺度(PSRS)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応感	読み	文字を読むことが苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	読み	文章を読むとき、隣の行に注意が飛んでしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	計算	計算が苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	同時作業	二つ以上の作業を同時にこなそうとするとすぐ混乱する	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	同時作業	二つ以上の作業を同時にこなそうとすると、混乱してしまう。【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応感	同時作業	同時にいくつもの課題があると混乱してしまう_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	同時作業	「聞きながら書くこと」や、提出期限の近い課題に複数取組むなど、同時にいくつものことをするのは苦手である_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	同時作業	話を聞きながらメモやノートをとるのが苦手な困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	同時作業	授業についていくことができるか不安だ_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	思考	02_授業中、先生の言っている内容がわからなくて、不安になることがあります。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	思考	49_頭の回転が鈍く、考えがまとまらない	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological Stress Response Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応感	思考	宿題をしたり文章を書いたりするとき、自分の考えをまとめるのに苦労することが多い_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	思考	12_自分の意見を交えてレポートを書くことが苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	思考	レポートや作文を書くのが苦手である_【学習上の困り感】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	思考	21_テスト中に時間が残り少なくなると、自分の考えがまとまらなくなります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	思考	12_テストを受けていて、わからない問題に出合ったとき、頭の中が真っ白になってしまうことがあります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	思考	30_テスト中、緊張して自分の力が発揮できません。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	計画	自分ができる課題や仕事の量を把握するのが苦手な困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	計画	課題や仕事をやり遂げることができなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	計画	課題や仕事をぎりぎりまで先のばしにしてしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	計画	授業前に準備やしたくが要領よくできなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	計画	課題や仕事が締め切りに間に合わなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	意欲	授業が楽しかった。_【自己に関するポジティブな出来事】	大学生用日常生活出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応感	意欲	勉強が好きになった。_【自己に関するポジティブな出来事】	大学生用日常生活出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応感	意欲	私は勉強が楽しいと思う。_【学業への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	意欲	できるだけ長く勉強を続けたい_【継続意志】	学習意欲尺度	浅野志津子(2002)
適応感	意欲	常に学びたい気持ちがある_【継続意志】	学習意欲尺度	浅野志津子(2002)
適応感	意欲	13_現在専攻している、あるいは専攻しようとしている研究分野に対する興味が失せた。	大学生用生活体験尺度(CLES: College Life Experiences Scale)	久田満・丹波郁夫(1987)
適応感	意欲	32_できることなら、転学あるいは転部したくて仕方ありません。【大学不適応】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	意欲	14_入学した学部が自分に合っていないような気がして不安です。【大学不適応】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	07_卒業論文がうまく書けるかどうか、不安です。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	03_テストを受けるとき、悪い点をとってしまうのではないかと心配になります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	31_必修科目の成績が“D(不可)”だったらどうしようかと心配になります。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	22_成績のことが気になって仕方がありません。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	13_大学の成績のことを考えると、憂鬱です。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	06_申請した授業の単位がきちんともらえるかどうか心配です。【評価不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	25_留年したらどうしようと、気になります。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	16_4年間で卒業できるかどうか、不安です。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※30項目	藤井義久(1998)
適応感	成績	4年間で大学を卒業できるか心配だ_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)

対人関係における適応

分類	要素(仮)	項目(対人関係における適応)	尺度名	引用文献
適応	自律	自分の感情を上手にコントロールすること【社会的モラル】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	自律	33_カットしやすい	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	自律	突然カットとなってしまう。【衝動性】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	自律	34_衝動的に物品を壊すことがある	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	自律	衝動的に物を投げたり壊そうとしたりする。【衝動性】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	関心	32_クラスメートの顔と名前を一致させることがなかなかできない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	関心	1人でいることが多い【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	人が話していることや、話の流れがわからないことがある【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	皮肉や冗談がわからない【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	皮肉や冗談がわからないことがある	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応	想像	「暗黙のルール」がわからない【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	「空気が読めない」と言われたことがある【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	10_場の雰囲気を読んでそれに合わせるができず、周囲から浮いてしまう。【友人関係を築くことの困難】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	想像	他の人がどんなことをかかっているのかわからない【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	想像	表情やしぐさをみれば、その人の気持ちがなんとなくわかる(R)	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応	想像	思ったことを正直に言ったら、注意されたり怒られたりしたことがある	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応	コミュニケーション	自分が思っていることを人にうまく伝えられる【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	コミュニケーション	グループワークやディスカッションで自分の意見を言う【積極的主張】	学習への取り組み方に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	コミュニケーション	急に質問されたり意見を求められると答えられない【対人場面での緊張】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	コミュニケーション	31_納得するまで質問する等、人から「しつこい」とよく言われる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	コミュニケーション	納得するまで質問する等、人から「しつこい」とよく言われる。【衝動性】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	コミュニケーション	人と会話するときに自分の話ばかりすると指摘される。【衝動性】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	コミュニケーション	友達の雑談に入っていけない。【対人関係】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	コミュニケーション	他の人たちのようにうまく会話ができない【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	コミュニケーション	他の人たちのように、うまく会話ができない	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応	コミュニケーション	人と話す時、自分が話すタイミングがわからない【「裏」のよめなさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	コミュニケーション	08_人と話す時に何を話していいかわからなくなり、思考が止まってしまう。【友人関係を築くことの困難】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	コミュニケーション	初対面の人とも躊躇せずに話すことができる【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	コミュニケーション	初対面の人とどうはなしているのかわからない【対人場面での緊張】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	コミュニケーション	授業や行事で「グループになって」と言われるとどうしていいかわからなくなる【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	協力	他人と協力しながらものごとを進めること【主体的行動】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	協力	自ら先頭に立って行動し、グループをまとめること【主体的行動】	学生の成長感に関する尺度	岡田有司・鳥居朋子・宮村崇・青山佳世・松村初・中野正也・吉岡路(2011)
適応	関係	25_クラスメート等とトラブルになることが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	関係	09_周囲の人から孤立してしまい、友人ができにくい。【友人関係を築くことの困難】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	関係	15_友達ができない【友人ストレス】	大学生用ストレスサー尺度※43項目→38項目	菊島勝也(2002)
適応	関係	21_友人とうち解けられない【友人ストレス】	大学生用ストレスサー尺度※43項目→38項目	菊島勝也(2002)
適応	関係	周りの友人に溶け込めている【環境】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	関係	知り合いになった人と、どのように関わっていけばいいのかわからない【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	関係	クラブやサークルでの人間関係がうまくいかなかった。【対人関係に関するネガティブな出来事】	大学生用日常生活出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応	関係	大学での人間関係になじめない【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	自律	気分の波が激しい【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	自律	気分の波が激しくて、困っている	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	自律	気分の波がかなりある【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	自律	特に何かあったわけではないのに、気分の浮き沈みが激しくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	自律	カットなりやすくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	自律	イライラしやすくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	自律	満員電車や雑踏など人が多いところが耐えられない。【感覚】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	関心	同じクラスの人の顔と名前を覚えるのが苦手だった	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関心	人間にあまり興味が無い	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	想像	暗黙のルールがわからなくて困ることがある	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	想像	24_大学で人が自分のことをどう思っているのか、気になります。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	想像	友達からどう思われているか気になり、不安である。【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	想像	29_他の人が考えていることを理解するのが苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	想像	他の人がどんなことを考えているのかを想像することが苦手だ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	想像	国語で「登場人物の気持ちを答えなさい」といった問題が苦手だった	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	想像	ある人の間違いに気がついたら、どんなことでも教えてあげるの親切なことだと思う	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	想像	悪気はないのに人を傷つけてしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	コミュニケーション	初対面の人とはどうやって話したらいいかわからない	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	コミュニケーション	雑談などとりとめのない話をするのが苦手だ【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	コミュニケーション	雑談などのとりとめのない話をするのは苦手だ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	コミュニケーション	11_何か言っても無視されることが多いようだ	対人的疎外感尺度※27項目→21項目	杉浦健(2000)
適応感	コミュニケーション	52_話すことがいやで、わずらわしく感じられる	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological Stress Reaction Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応感	コミュニケーション	27_人と会話することが苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	コミュニケーション	07_人と会話することが非常に苦手だ。【友人関係を築くことの困難】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応感	コミュニケーション	人と話しているときに、自分がいつ話せばいいかわからず困ってしまう	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	コミュニケーション	30_周囲の人がいっていることをうまく理解していないように感じる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	コミュニケーション	グループ活動などの集団で話し合いをする授業で苦痛を感じる。【対人関係】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	コミュニケーション	授業や行事で「グループになってください」といわれると困ってしまう	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	コミュニケーション	ディスカッションや発表は苦手だ【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	コミュニケーション	人前で話すのが苦手である【対人場面での緊張】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	コミュニケーション	35_先生や職員と話づらい【充実感の乏しさ】	大学生用ストレスサー尺度※43項目→38項目	菊島勝也(2002)
適応感	コミュニケーション	19_大学の先生と話をするとき、とても緊張します。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	協力	33_友だちと一緒に何かをしなければならぬとき、うまく協力できるか不安な気持ちになります。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)

対人関係における適応

分類	要素(仮)	項目(対人関係における適応)	尺度名	引用文献
適応感	協力	グループ活動では居ごちが悪くて困る	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	協力	グループ学習や人と協力して行う活動が苦手である_【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	協力	グループ活動になると居心地が悪い_【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	協力	集団行動が苦手で困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	協力	人と一緒に行動することが苦手である_【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	関係	新しい友人関係を作るのが苦手だ_【集団でのコミュニケーションの難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	関係	友達とのつきあい方がわからないと感じる。_【対人関係】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	関係	友達がいなくて寂しい	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関係	友達が少ないことが気になっている	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関係	進学やクラス替えのときに新しい友人を作るのは苦手だ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関係	進学やクラス替えなどで周りの状況が変わるときに恐怖を感じる	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関係	周りから孤立していると感じる。_【対人関係】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	関係	37_周りから孤立していると感じる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	関係	孤立していると感じている	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	関係	15_サークルで先輩たちとうまくつき合えるか心配です。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	関係	対人関係をうまくやっけていけるか心配だ_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	関係	人間関係がうまくいかなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	関係	大学でよい仲間が作れそうな気がする_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	関係	この大学には自分を受け入れてくれる場所があると思う_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	関係	大学にいて、なんとなく疎外感を感じる_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	関係	18_大学のなかで自分の居場所がないと感じる。【大学意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応感	関係	01_自分の居場所がないように感じる	対人的疎外感尺度※27項目→21項目	杉浦健(2000)
適応感		28_先生が近くにいると気になって仕方がありません。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感		01_先生に“研究室まで来るように”と呼ばれたら何を言われるかとても気になります。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感		場違いなことをしてしまって困ることがある	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)

大学生活における適応

分類	要素(仮)	項目(大学生活における適応)	尺度名	引用文献
適応	自律	うろろしてしまう	大学生のためのADHD特徴尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応	自律	じっとしていられない	大学生のためのADHD特徴尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応	自律	行動が止まって固まってしまうことがある【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	自律	44_行動に落ち着きがない	心理的ストレス反応尺度(PSRS:Psychological Stress Reaction Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応	自律	53_むやみに動きまわり, じっとしていられない	心理的ストレス反応尺度(PSRS:Psychological Stress Reaction Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応	注意	周りの音が気になってしまう【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	注意	大切な話を聞き逃す。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	注意	10_大学からの連絡事項を見落としてしまうことが多い。【授業意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応	注意	20_掲示物や配付物に気がつかない, もしくは忘れてしまうことが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	注意	諸手続の期日や課題の提出日を忘れてしまう。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	判断	22_学業, サークル, アルバイトなどから何を優先すべきかを判断することが難しい	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	判断	いくつもの選択肢があると一つに決められない【選択的判断の難しさ】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	判断	やるべきことよりもやりたいことを優先してしまう。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	判断	自分をサポートしてくれる部署がどこにあるのか分からない【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	管理	06_よく眠れて朝は爽快な気分で起きられる。*【張りのなさ】	アパシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
適応	管理	15_朝起きて夜眠る生活のリズムが乱れている。【張りのなさ】	アパシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
適応	管理	04_朝寝坊などで授業に遅れることが多い。【授業意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
適応	管理	19_約束した時間に遅れることが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	管理	約束やミーティングの時間に, よく遅れる【約束事への遅延】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
適応	管理	約束をすっぽかすことがある	大学生のためのADHD特徴尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応	管理	約束を忘れてしまう。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	管理	26_約束を守れなかったり, 忘れてしまうことが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	管理	18_物忘れ, 紛失物が多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	管理	ものをなくしてしまう。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	管理	スケジュールの管理ができない。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	管理	03_スケジュール管理が苦手で, 締め切りを守れないことがとても多い。【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応	管理	17_諸手続きの期日を忘れてしまうことが多い	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	管理	計画的に物事を進めることができない。【不注意】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	管理	家庭生活と大学生活をうまく両立できている【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	管理	日々の日課は負担なくこなしている【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	柔軟性	自分の中で変えられないルールがある【固執的】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	柔軟性	一度こうと決めたら, なかなか変更できない【固執的】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	柔軟性	没頭できたり, やめられない趣味がある【固執的】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応	柔軟性	28_思い込みが激しいとよく人から言われる	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応	柔軟性	思い込みが激しいと人から言われる。【衝動的】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応	意欲	私は, 部活動に意欲的に取り組んでいる。【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	意欲	私は, 部活動に自主的に参加している。【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応	意欲	なんとなく大学に行かないことがある【登校回避行動】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応	意欲	大学を休みがちである【登校回避行動】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応	意欲	バイト・サークル活動・ボランティアなどの課外活動に楽しく参加している【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	意欲	熱中していることや好きなことができて【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応	意欲	将来に役立つことを大学生活の中でするために計画を立てている【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	自律	衝動的に行動してしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	自律	しゃべることを我慢できなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	自律	行動が止まって固まってしまう, 困ることがある	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	自律	大学に行きたいけれどもなぜか行けないことがある【登校回避行動】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	注意	48_すぐあることが頭にうかんできて, 注意が乱される	心理的ストレス反応尺度(PSRS:Psychological Stress Reaction Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応感	注意	ぼんやりしてしまうことがあって困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意	よく居眠りをしてしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意	他のものが目に入ると元々やっていたことを忘れてしまって困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	注意	他のことが目に入らないくらい何かに夢中になりすぎて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	朝起きられなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	生活のリズムが乱されるのは苦痛だ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	管理	よく遅刻してしまい困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	提出物の締め切りや期限を忘れることがあり困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	忘れ物が多くて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	もの忘れが多くて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	16_整理整頓が苦手だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	管理	よくものをなくして困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	管理	いつもやらなければいけないことに追われて, 余裕がない	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	柔軟性	慣れない状況や初めての状況になると不安になる【対人場面での緊張】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	柔軟性	活動の見通しが持てず混乱したり不安になったりする。【不安・抑うつ】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
適応感	柔軟性	ものごとを柔軟に対応することができなくて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	柔軟性	突然予定が変更されると混乱してしまう【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	柔軟性	突然予定が変更されると混乱してしまう	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	柔軟性	06_急な予定変更などがあると, どうしていいかわからなくなってしまう。【友人関係を築くことの困難】【修学上の不器用さ】	発達の修学困難チェックシート10項目版	松下智子・福盛英明・一宮厚(2014)
適応感	柔軟性	15_シラバスと違う授業だったり, 突然予定が変更されると納得できない	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	柔軟性	24_授業と授業の間で時間ができると時間をつぶすのに困る	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
適応感	柔軟性	手を抜くことが苦手だ【固執的】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田倉さやか(2014)
適応感	柔軟性	40_複雑な思考や柔軟な思考ができない	心理的ストレス反応尺度(PSRS:Psychological Stress Reaction Scale)	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
適応感	柔軟性	学校では, 休み時間より授業時間のほうが何をすればよいのかわかりやすいので楽だ	自閉症スペクトラム障害的特徴尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	柔軟性	誤解や早とちりが多くて困る	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
適応感	柔軟性	うそや作り話を見抜くのは苦手だ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
適応感	意欲	大学にある様々な機能・サービスを自分のために活かしていけると思う【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	意欲	23_こんな大学にいたら自分がだめになるのではないかと憂鬱な気分になることがあります。【大学不適応】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	意欲	05_この大学にいと, 何か不安な気持ちになります。【大学不適応】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	意欲	他大学や他学部・他学科に入ればよかったと後悔している【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)

大学生活における適応

分類	要素(仮)	項目(大学生活における適応)	尺度名	引用文献
適応感	意欲	17_大学を退学したいと思うことがあります。【大学不適応】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
適応感	意欲	32_大学にいる意義が見いだせない【充実感の乏しさ】	大学生用ストレスナー尺度※43項目→38項目	菊島勝也(2002)
適応感	意欲	日曜日の夜, 明日大学に行きたくないと思うことがある_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	意欲	朝, 今日は大学に行きたくないと思うことがある_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	意欲	大学をしばらく休みたいと思うことがある_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	意欲	通学するのがおっくうに感じる_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	意欲	34_これまでの学校生活は, 充実していた。【親和性】	大学生用レジリエンス尺度※39項目→25項目	齋藤和貴・岡安孝弘(2010)
適応感	意欲	31_思っていた大学生活ではなかったと思う【充実感の乏しさ】	大学生用ストレスナー尺度※43項目→38項目	菊島勝也(2002)
適応感	意欲	大学に行くのは楽しい(R)_【登校回避感情】	大学生不登校傾向尺度	堀井俊章(2013)
適応感	意欲	大学生活が楽しくなかった。_【大学生活に関するネガティブな出来事】	大学生用日常出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応感	意欲	大学生活が楽しかった。_【対人関係に関するポジティブな出来事】	大学生用日常出来事尺度(40項目)	外山美樹・桜井茂男(1999)
適応感	意欲	大学生活に退屈さを感じる_【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	意欲	大学生活が充実していて満足している_【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	意欲	自分がやりたいと思っていることは, 大学生の数年間を通して色々できそうだ_【活動・参加】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
適応感	意欲	部活動をやることで, 何かをやり遂げているという実感が得られる。_【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	意欲	部活があるから学校が楽しい。_【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	意欲	私は, 部活動に参加することが楽しい。_【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	意欲	私は, 部活動を通じて成長していると感じている。_【部活動への意欲】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
適応感	意欲	15_大学での時間は自分の生活の中で有意義な時間である*。【大学意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)

適応要因になりうる項目例(一部)

分類	項目(適応要因になりうる項目)	尺度名	出典
要因	03_あなたを日頃評価し、認めてくれる人が(情緒的)	「社会的支援」評価	岡本真優・宮松直美・日浦美保・徳川早知子(2005)
要因	05_あなたを信じて、あなたの思った通りにさせてくれる人が(情緒的)	「社会的支援」評価	岡本真優・宮松直美・日浦美保・徳川早知子(2005)
要因	07_お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる人が(情緒的)	「社会的支援」評価	岡本真優・宮松直美・日浦美保・徳川早知子(2005)
要因	わからないことができたとき、質問しやすい人を見つけることが下手である【前に踏み出す力】	ASD傾向学生のための就業力尺度	肥田幸子・堀篤実・鈴木美樹江(2016)
要因	20_自分の悩みを何でも話せる友人がいる。*【味気のなさ】	アバシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
要因	17_人に対して自分の意見や考え方をはっきりと主張する。*【味気のなさ】	アバシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
要因	06_学生生活で打ち込むものがない。【大学意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
要因	09_大学ではいろいろな人と交流がある*。【大学意欲低下】	意欲低下領域尺度※18項目→15項目	下山晴彦(1995)
要因	粘り強く学び続けていくつもりである。【主体性】	学習観(17項目)	鈴木賢男・岡田斉(2015)
要因	何かを真剣に学んでみたいと、常に、感じている。【主体性】	学習観(17項目)	鈴木賢男・岡田斉(2015)
要因	新しいことは、できるだけ学んで吸収したい。【主体性】	学習観(17項目)	鈴木賢男・岡田斉(2015)
要因	いろいろな人と出会えるから【交友志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	多くの人と交わることができるから【交友志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	視野を広げたいから【自己向上志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	自分を高めたいから【自己向上志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	幅広い教養を身につけたいから【自己向上志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	自分の幅を広げたいから【自己向上志向】	学習動機尺度	浅野志津子(2002)
要因	やらなければならない重要な課題があるときは、できるだけ早く取りかかるようにしている*【課題先延ばし】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
要因	ギリギリまで物事に取りかかることを延ばす【課題先延ばし】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
要因	しなければならないこととわかっていても、すぐに始めようとしない【課題先延ばし】	課題先延ばし行動傾向尺度※13項目	藤田正(2005)
要因	02_成績は、平均、もしくは平均以上である(学業成績および授業態度)【学業成績および授業態度】	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	07_同学年のた学生に比べて修得単位数が少ない(学業成績および授業態度)*【学業成績および授業態度】	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	12_同学年のた学生に比べて修得単位数が多すぎる(学業成績および授業態度)	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	22_授業中の私語が多い(学業成績および授業態度)	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	05_眠そうである(不規則な日常生活)	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	10_標準体型から逸脱している(痩せすぎ・太りすぎ)(不規則な日常生活)	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	20_疲れているように見える(不規則な日常生活)	教員からみた大学生不登校リスク※19項目	荒井佐和子・石田弓・大塚泰正・尾形明子・岡本祐子・兒玉憲一(2012)
要因	親は良き理解者だ。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は親から信用されていると思う。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	親を尊敬している。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、家族に受け容れられていると思う。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、家族とよく話をする。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、自分の思っていることを家族にきちんと伝える。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私の家族はばらばらだ。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	家で落ち着ける。【家族関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、先生に親しみや暖かさを感じる。【教師との関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、この学校で相談できる先生がいる。【教師との関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、この学校で気軽に話せる先生がいる。【教師との関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、この学校に好きな先生がいる。【教師との関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
要因	私は、この学校の先生を信頼している。【教師との関係】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)

適応結果として起こりうる項目例(一部)

分類	項目(適応結果として起こりうる項目)	尺度名	出典
結果	自分がなさけなくて嫌になる。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	35_自分はダメな人間だと思いがちである	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
結果	38_将来のことを考えると不安だ	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
結果	34_将来、良い会社に就職できるかどうか、不安です。【日常生活不安】	大学生生活不安尺度※36項目→30項目	藤井義久(1998)
結果	将来のことを考えると不安になる。_【不安・抑うつ】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
結果	「自分はどうせ失敗する」「自分はだめな人間だ」と思うことがある_【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田
結果	13_自分のしていることに自信がない。【自分のなさ】	アバシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
結果	21_何となく大学まで来てしまったという感じがある。【自分のなさ】	アバシー心理性格尺度※24項目→20項目	下山晴彦(1995)
結果	01_自分が自分でなくなってしまうような気がする【自己の見失い】	アイデンティティ形成尺度※16項目→15項目	樽木靖夫・川田裕樹・榎原健太郎・福田八重・大
結果	02_今のままでは次第に自分を失っていきってしまうような気がする【自己の見失い】	アイデンティティ形成尺度※16項目→15項目	樽木靖夫・川田裕樹・榎原健太郎・福田八重・大
結果	03_現在の私には、「自分がない」と感じることがある【自己の見失い】	アイデンティティ形成尺度※16項目→15項目	樽木靖夫・川田裕樹・榎原健太郎・福田八重・大
結果	他の人たちからは自分は場違いなことばかりしていると見られていると思う	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
結果	「自分は普通の人と違う」と感じて困っている	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
結果	今の自分に自信が持てない。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	私はちょっとしたことですぐよくよする。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	何をしても失敗しそうで、心配だ。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	自分自身を好きだと思える。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	自分がこれからどのような人生を送っていくのか楽しみだ_【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	将来やりたいことが定まらない_【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	将来、ちゃんと就職できるかどうか不安だ_【個人】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	自分のもっとできると思うのに、自分の能力をうまく発揮できない	大学生のためのADHD困り感尺度	岩渕未紗・高橋知音(2011)
結果	いつも緊張してリラックスできない。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	昔あった嫌なことを突然思い出してしまうことがある_【過敏性】	困り感尺度	日本福祉大学障害学生支援センター(2014), 田
結果	過去の経験が現在おこっていることのようによみがえり、気持ちが不安定になるこ	自閉症スペクトラム障害的困り感尺度大学生版	山本奈都実・高橋知音(2009)
結果	わけもなく不安になることがある。_【自己肯定感】	高校生活適応感尺度	浅川潔司・森井洋子・古川雅文・上池安昭(2002)
結果	36_気分が沈みがちである	困り具合に関するセルフチェックリスト	佐藤克敏(2007)
結果	03_何かに縛られ自由に動けないようだ	対人的疎外感尺度※27項目→21項目	杉浦健(2000)
結果	20_わけもなく疲労を感じる事がしばしばある	対人的疎外感尺度※27項目→21項目	杉浦健(2000)
結果	01_不機嫌で、怒りっぽい	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	02_悲しい	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	03_心に不安感がある	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	04_怒りを感じる	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	05_泣きたい気分だ	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	気分が沈んでしまう。_【不安・抑うつ】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
結果	自分はダメな人間だと思ってしまう。_【不安・抑うつ】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
結果	気持ちの切り替えがうまく行かない。_【不安・抑うつ】	自己困難認知尺度	佐藤克敏・相澤雅文・郷間英世(2012)
結果	食欲は普通にある_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	寝つきがよくない_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	体調はすぐれている_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	気分が落ち込んで何もしたくない日が続くことがある_【前に踏み出す力】	ASD傾向学生のための就業力尺度	肥田幸子・堀篤実・鈴木美樹江(2016)
結果	何事をするにもおっくうさを感じる_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	身体のだるさを感じる事がよくある_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	05_何かに追い詰められているような感じをよく持つ	対人的疎外感尺度※21項目	杉浦健(2000)
結果	10_何かにせきたてられて生きている感じがする	対人的疎外感尺度※21項目	杉浦健(2000)
結果	15_毎日が緊張の連続で息苦しさを感ずることがある	対人的疎外感尺度※21項目	杉浦健(2000)
結果	私は今の生活に満足感があります_【現状満足感】	大学生の生きがい感スケール31項目	近藤勉・鎌田次郎(1998)
結果	毎日が平和で楽しいと感じています_【現状満足感】	大学生の生きがい感スケール31項目	近藤勉・鎌田次郎(1998)
結果	私は今幸せを感じています_【現状満足感】	大学生の生きがい感スケール31項目	近藤勉・鎌田次郎(1998)
結果	私の毎日は充実していると思います_【現状満足感】	大学生の生きがい感スケール31項目	近藤勉・鎌田次郎(1998)
結果	全ての物ごとが順調に進んでいると思っています_【現状満足感】	大学生の生きがい感スケール31項目	近藤勉・鎌田次郎(1998)
結果	不安を感じることはほとんどない_【心身機能・身体構造】	大学適応感に関する質問項目	高下梓(2011)
結果	51_無気力で、やる気がでない	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	50_どんなことをしてでも事態を変化させ、解放されたいと思う	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	38_未来に希望が持てない	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	41_ささいなことでも充実感がほしいと思う	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)
結果	42_生気がなく、心の張りがない	心理的ストレス反応尺度(PSRS: Psychological S	新名理恵・坂田成輝・矢富直美・本間昭(1990)

2018年11月24日

第2回応用心理測定研究会
in 京都学園大学太秦キャンパス

インターンシップの 予期的社会化に係る効果と 大学教育における有効性

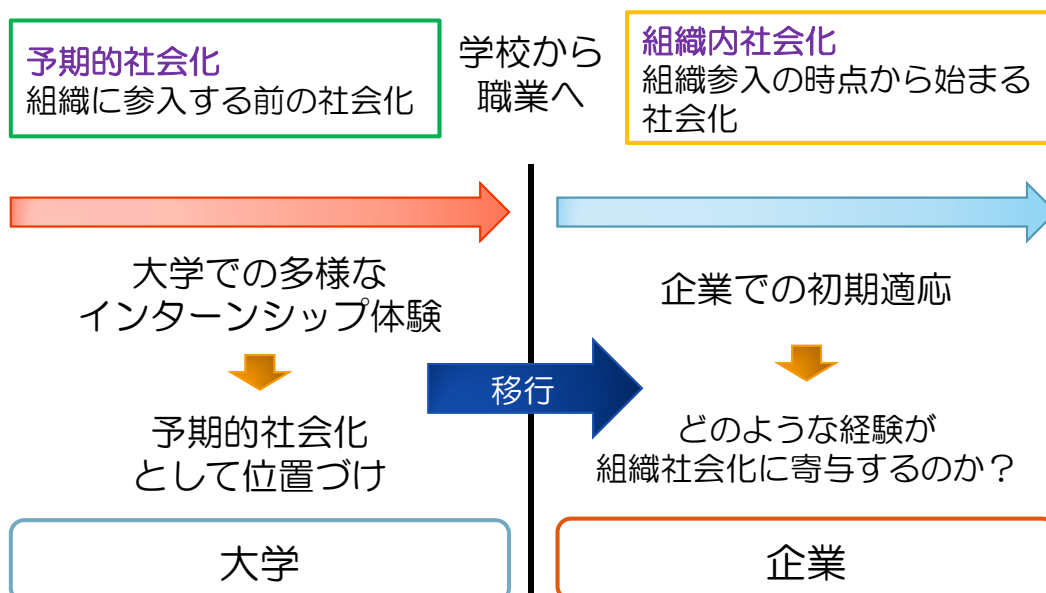
1

三保紀裕（京都学園大学）

前回の報告

組織社会化の観点からみた学生の成長と
企業での初期適応（これからの話）

- インターンシップにおける予期的社会化としての効果とその有効性



2

RESEARCH QUESTION

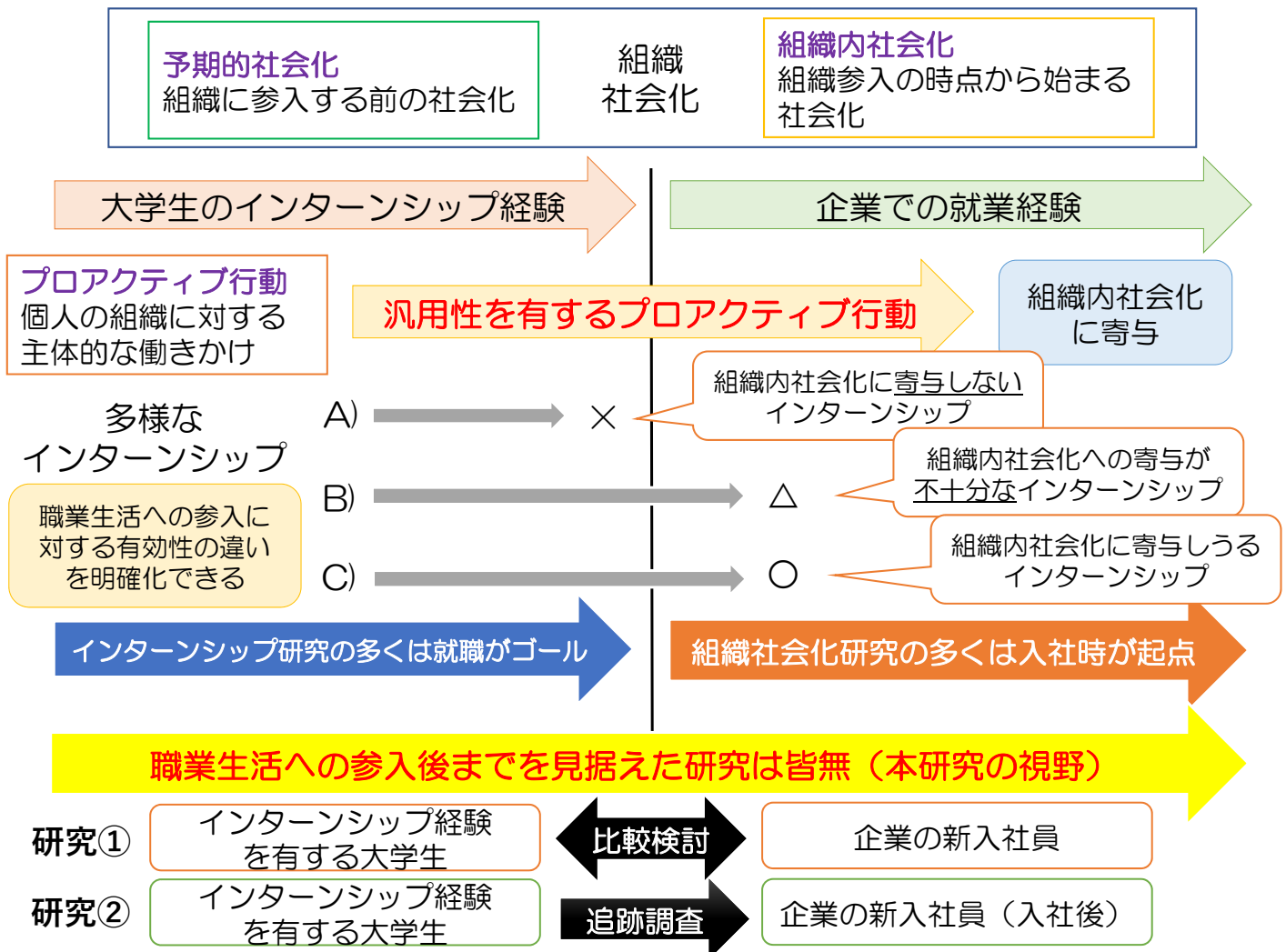
○ そもそもの疑問

- インターンシップは就職後の職業生活に対して、どこまで役立つものなのか？
 - インターンシップ研究の多くは「就職」がゴール
 - 組織社会化研究の多くは入社後が起点



- 就職後の職業生活に対して、インターンシップがどのように効果的に作用しているのかという観点から検討を行っている研究が皆無
- 職業生活への参入後という視点を考慮したい

3



2つの研究キーワード ①

1. インターンシップ

- 定義（古関, 2011）
 - 学生が、在学中に教育の一環として、企業等で一定の業務に従事し、職業人に必要な一般的・専門的な知識や能力を実践的に身につけるため就業体験を行うことおよびその機会を与える制度
- 複数の類型に分類可能（古関, 2011; 渡辺・久保田（編）, 2011）
 - 期間・内容・報酬・運営母体という視点
 - 多くの研究が「短期（1～2週間程度）・見学，仮想体験型（古関, 2011）・無償・大学主体」に焦点化
 - 「円滑な就職」がゴール（高良・金城, 2001; 平尾, 2011; 亀野, 2011など）

5

表 3.1 インターンシップの類型と特徴

	セミナー型	見学・仮想体験型	現場実践型
特徴	主に1日（ワンデーインターンシップ）	2日から3週間程度が多い	2週間から1ヵ月程度が多い
	大企業に多い	大企業に多い	理系研究職、中小・ベンチャー企業に多い
主な実施内容	会社説明、グループでのゲームや作業、社員の体験談紹介や社員との懇談	店舗や工場見学、グループ作業後に成果を発表、合宿、社員との交流会	オフィスでの就業体験、役員や外商への同行、実際の研究・開発・企画への参画
メリット	研究や課外活動とも両立がしやすい	業界や企業への理解が進む	現場に即して詳しく業務を理解できる
	他企業との掛け持ちがしやすい	同じ目標の仲間をつくりやすい	自分の適性と職場のミスマッチを防げる
	受け入れ人数が多く参加しやすい	場合により採用にプラスになる	採用につながりやすい
デメリット	業界、会社への理解の深まりが限定的	現場体験でないため現実とのギャップが生じやすい	他企業との掛け持ちがしづらい
	採用に向けた自己アピールがしづらい	事前の準備が必要となる場合がある	研究や課外活動との両立が難しい
	他の参加者との交流が少ない	人気企業は「狭き門」	人気企業は「狭き門」
昨年の実施企業例	【日興コーディアル証券】1日型。社員からの会社説明と、企業経営者になって収益や占有率を競うボードゲームを体験	【電通】広告の集中講座。グループと個人での演習・発表。合宿も含め1週間。3段階の事前選考を経て36人が参加	【パナソニック】企業説明・見学のあと、研究・開発・製造などの各現場に分かれて3週間の就業体験。最終日に成果報告会
	【バンダイ】事業内容紹介に続き、玩具開発などのテーマでグループワークと発表。1日型を部門ごとに9回実施	【サントリー】「商品開発選手権」と題し、販売促進のアイデアを考案。書類選考後、1ヵ月をかけた決勝戦まで3回の発表を実施	【トヨタ自動車】理系を対象にエンジンや環境技術開発や品質管理などの現場で4週間の就業体験。50人。今年は倍増

出所：読売新聞 2010年6月8日「就活ON!」を引用し、作成。

6

2つの研究キーワード ②

2. 組織社会化

- 定義（高橋, 1993）
 - 組織への参入者が組織の一員となるために、組織の規範・価値・行動様式を受け入れ、職務遂行に必要な技能を習得し、組織に適応していく過程
- 組織参入時点の前後で分類可能（高橋, 2002）
 - 組織参入前の社会化 → 「予期的社会化」
 - 組織参入時点からの社会化 → 「組織内社会化」
 - インターンシップは予期的社会化に影響を与え、組織参入にポジティブな影響を与える（Feldman & Weitz, 1990; Narayanan, Olk, and Fukami, 2010など）

7

研究の枠組み

- インターンシップ研究を進展
 1. インターンシップを組織社会化の観点から捉える（縦断研究）
 2. 大学生と新入社員を比較検討
- これまでの研究
 - 効果指標が就業意識、社会人基礎力、事後満足度など
 - 組織社会化関連の指標を組み込む

8

組織社会化に関わる指標

○ 複数の指標が存在

- 組織社会化 (Chao et al., 1994; Haueter et al., 2003)
- 組織社会化戦術 (小川, 2005; 尾形, 2009など)
- 情報探索行動 (Morrison, 1993, 2002など)

○ プロアクティブ行動への着目

- 個人が自分自身や環境に影響を及ぼすような先見的な行動であり, 未来志向で変革志向の行動 (Grant & Ashford, 2008)

個人を主体的な存在として捉えなおした

9

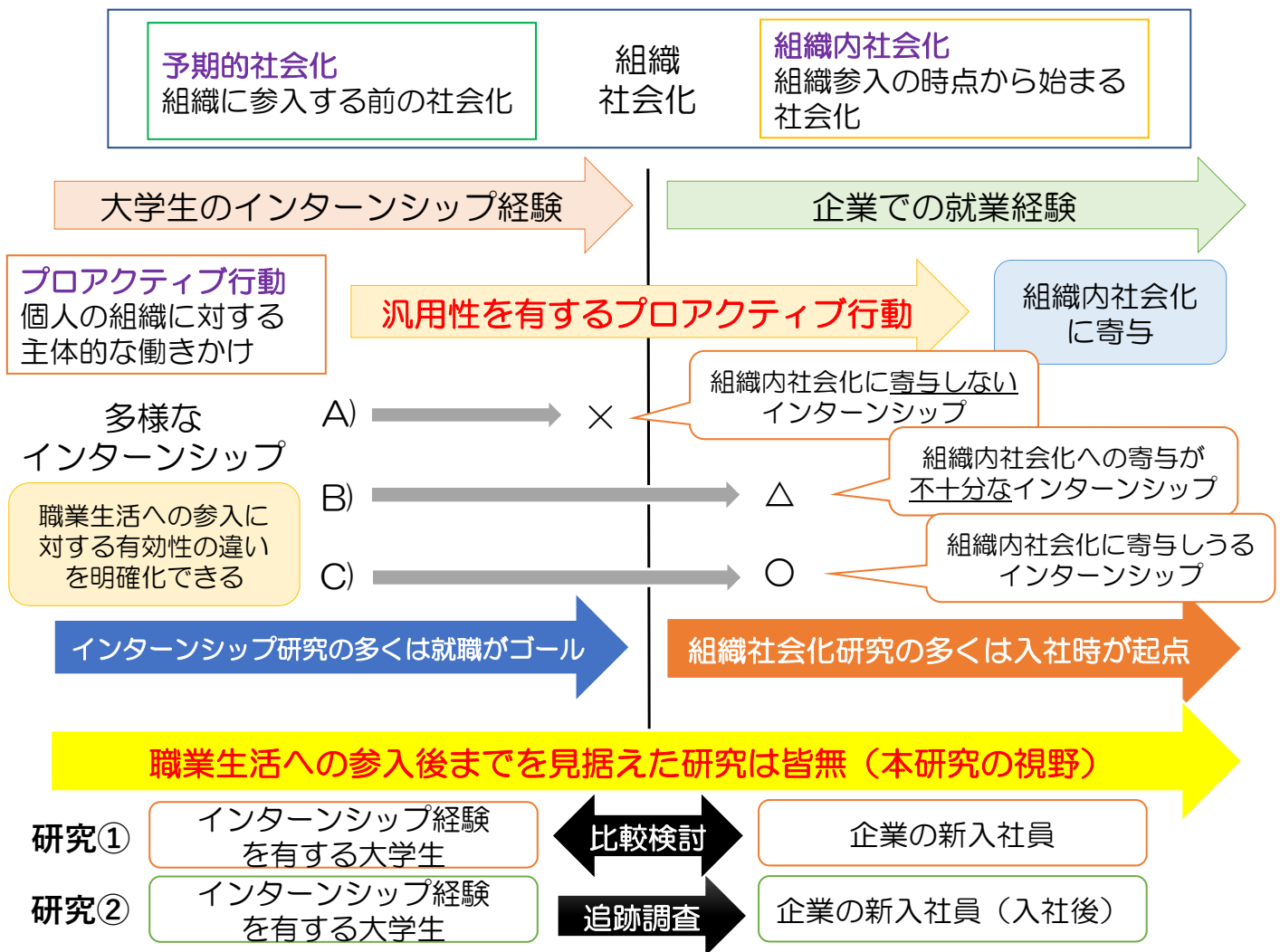
プロアクティブ行動の下位次元

○ 4つの次元 (Ashford & Black, 1996)

1. 意味形成行動
 - 情報探索, フィードバック探索
2. 関係性構築
 - ネットワーキング, 上司との関係性構築
3. 職務変更の交渉
4. ポジティブフレーミング

インターンシップに関わりがあると想定

10



調査の枠組み ①

○ 大学生への調査（インターンシップ経験学生）

- PrePost調査（or Postのみ）

○ 測定変数

- インターンシップ経験，内容，期間
- 職業意思決定，職業基礎力，学びへの意欲
- プロアクティブ行動
 - 情報探索（仕事・役割・組織文化）
 - フィードバック探索
 - ネットワーク構築

調査の枠組み ②

- 新入社員への調査
 - 内定時からの追跡調査 (or 単発調査)
- 測定変数
 - インターンシップ経験の有無, 内容, 期間
 - 職業基礎力, 離職意図, 職場コミットメント
 - プロアクティブ行動
 - 情報探索 (仕事・役割・組織文化)
 - フィードバック探索
 - ネットワーク構築

13

調査の実施状況

- 調査のフィールド
 - 東京・京都・大阪・岡山・広島
 - 8大学, 15企業と交渉中 (一部実施済)
- 今日の報告データ (11/3現在)
 - PrePostの学生データ
 - 2大学179名, いずれも短期IN経験者

データ収集途中

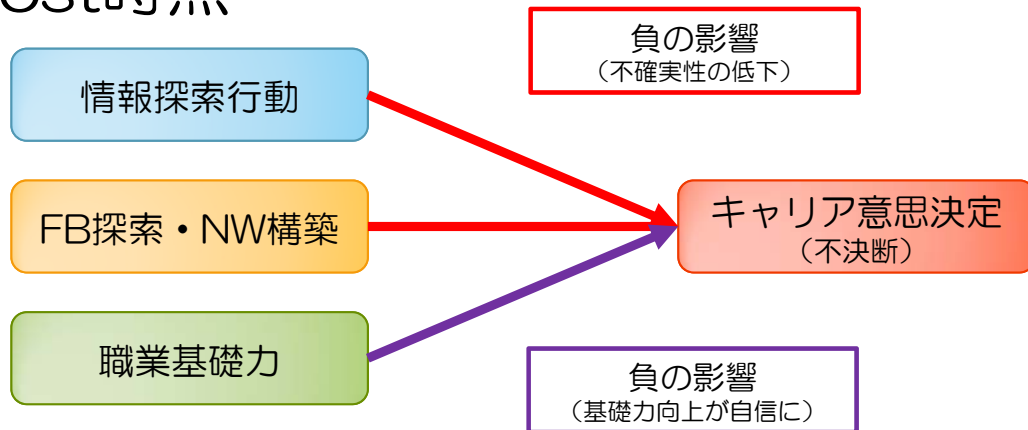
14

IN経験学生に関する仮説

○PrePostの変化

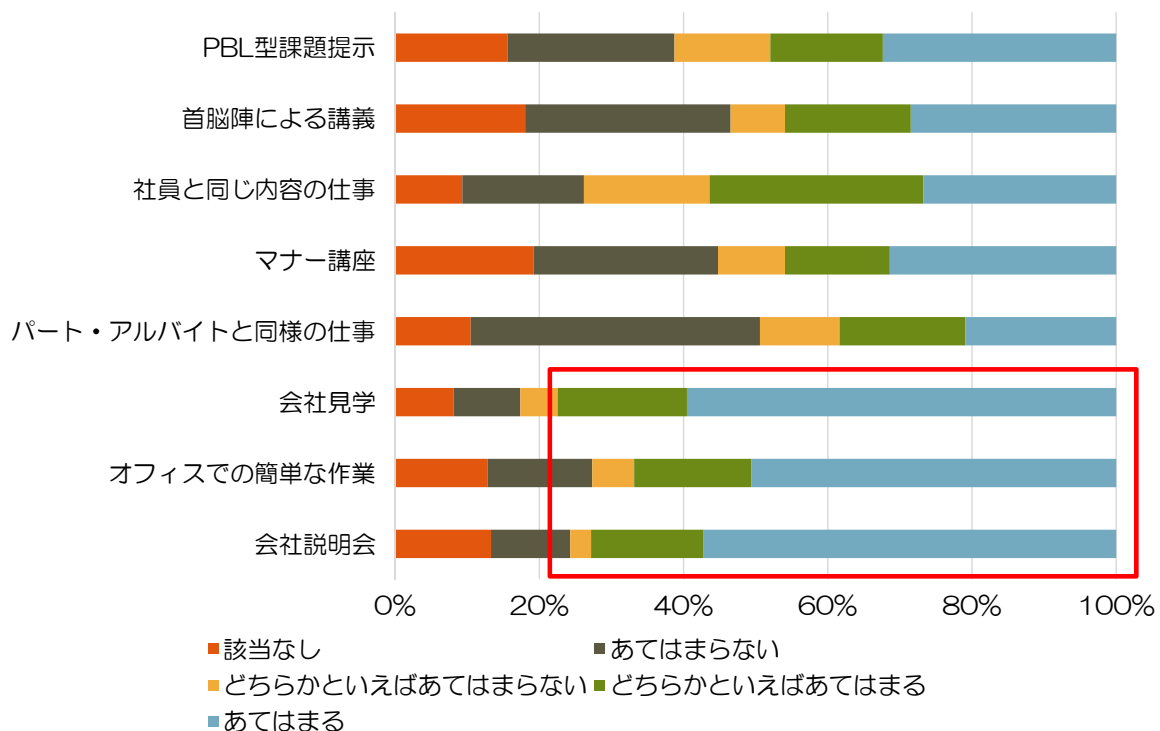
- プロアクティブ行動 → 上昇
- 職業基礎力 → 上昇

○Post時点



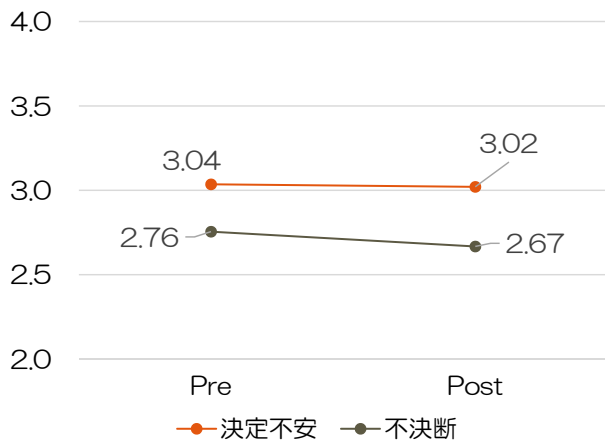
15

経験している実習内容

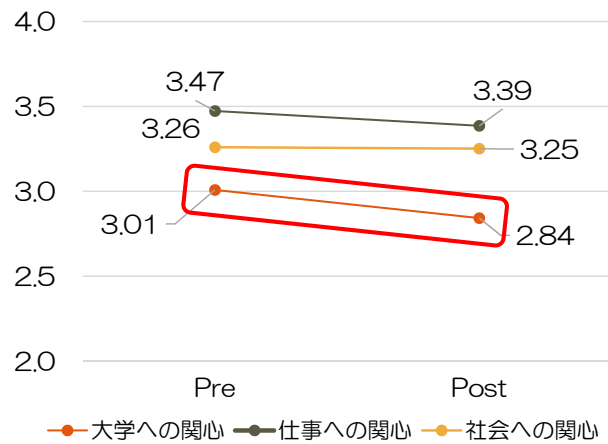


16

PREPOSTの変化 ①

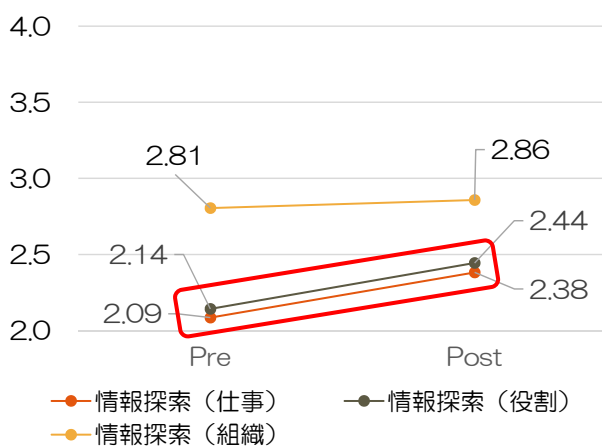


キャリア意思決定

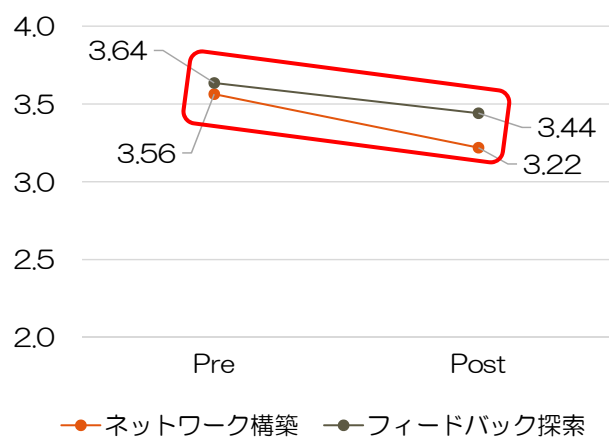


大学・仕事・社会への関心

PREPOSTの変化 ②

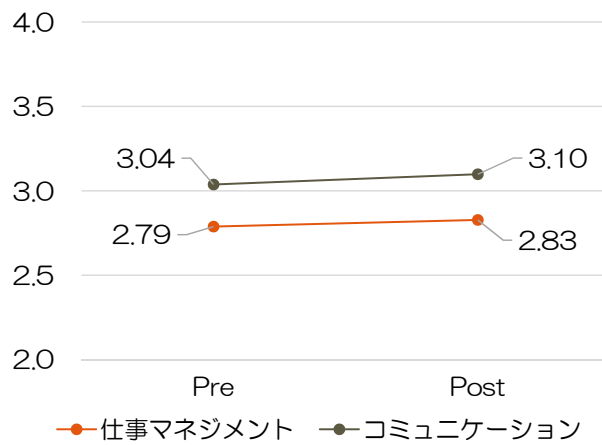


情報探索行動



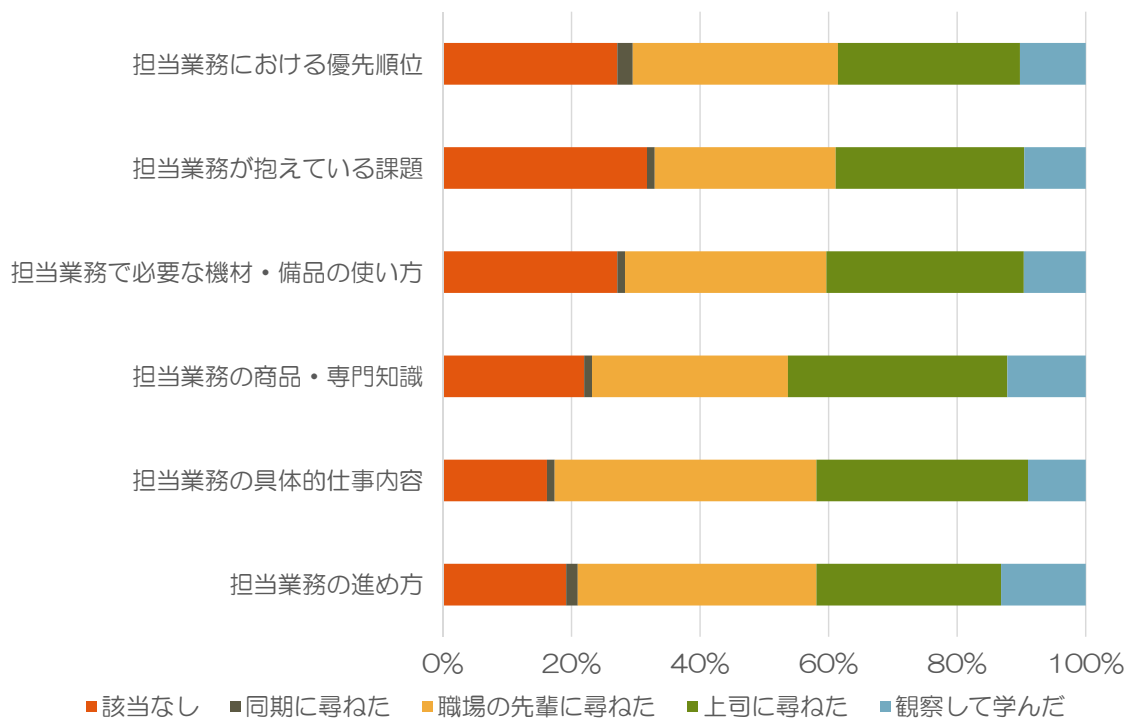
ネットワーク構築
フィードバック探索

PREPOSTの変化 ③

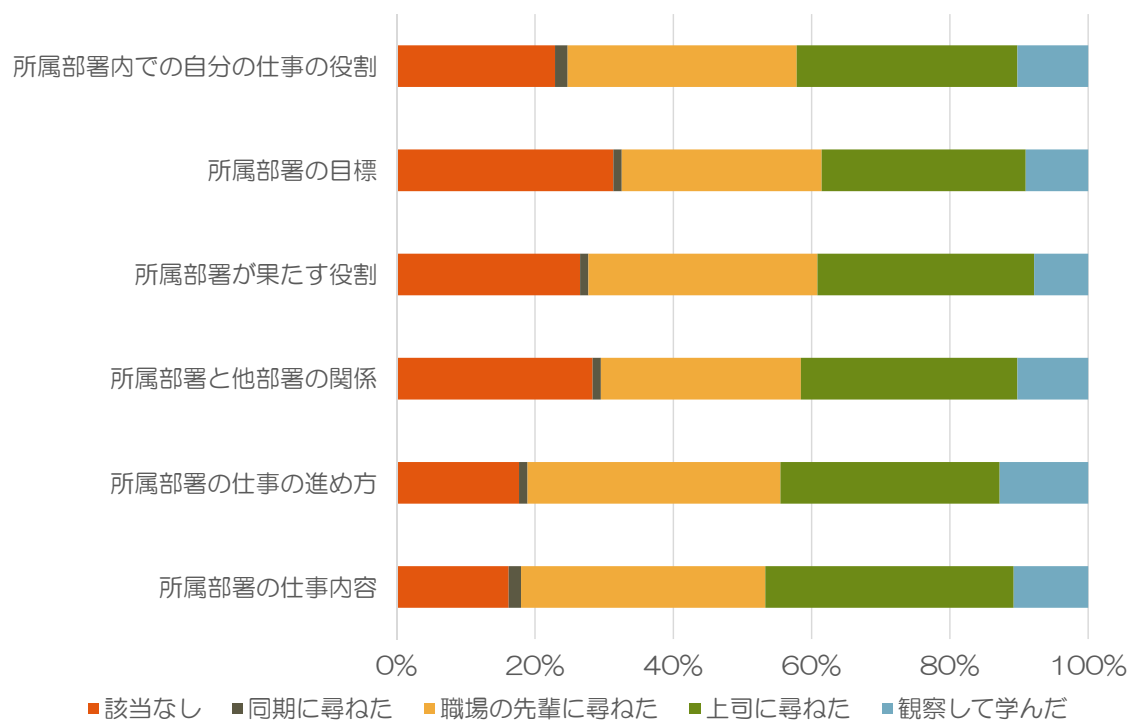


職業基礎力

情報入手先 (仕事)

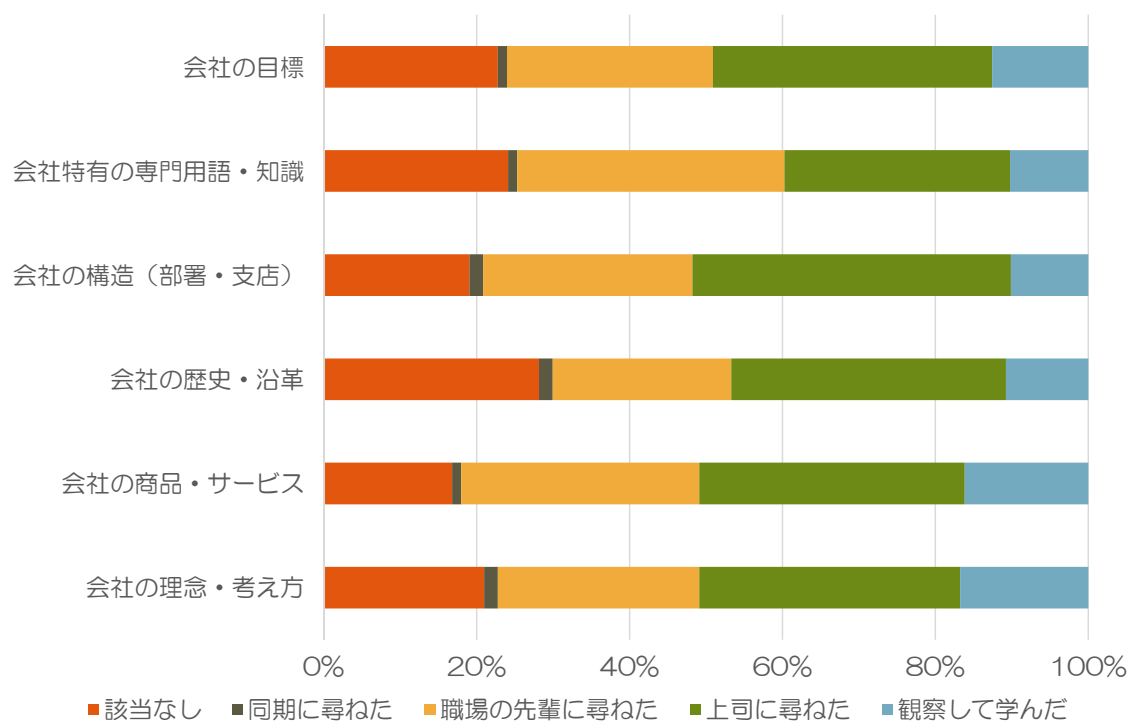


情報入手先（役割）



21

情報入手先（組織）



22

変数間の相関 (Post時点)

	決定不安	不決断	大学への 関心	仕事への 関心	社会への 関心	情報探索 (仕事)	情報探索 (役割)	情報探索 (組織)	ネット ワーク構築	フィード バック探索	仕事マネジ メント	コミュニ ケーション
決定不安	1.00											
不決断	.739**	1.00										
大学への関心	-0.07	-0.09	1.00									
仕事への関心	0.07	-0.06	0.12	1.00								
社会への関心	-0.12	-.187*	.183*	.628**	1.00							
情報探索(仕事)	-0.04	-0.06	0.11	0.08	0.11	1.00						
情報探索(役割)	-0.05	-0.04	.165*	0.14	0.16	.849**	1.00					
情報探索(組織)	-0.12	-0.09	0.12	0.13	0.11	.627**	.688**	1.00				
ネットワーク構築	-0.15	-.245**	.261**	0.12	0.14	.370**	.419**	.331**	1.00			
フィードバック探索	0.06	-0.09	0.14	0.08	0.09	.331**	.379**	.359**	.662**	1.00		
仕事マネジメント	-.255**	-.285**	.223**	0.04	0.05	.194*	.275**	.274**	.416**	.399**	1.00	
コミュニケーション	-.210**	-.312**	0.10	-0.02	-0.03	0.14	.178*	.240**	.269**	.321**	.769**	1.00

23

考察 ① (今回は短期IN限定)

○短期INでみられた傾向

- 会社説明 & 簡単な業務が中心

○PrePostの変化

- 情報探索行動 (仕事・役割) の上昇

- 元々の得点が低すぎる (上昇してもまだ低い)

- 「会社の雰囲気を知る」といった、短期INに良くみられる言及と合致した傾向

新入社員の水準は？
(今後の検討課題)

24

考察 ② (今回は短期IN限定)

○PrePostの変化

- FB探索・NW構築の低下

得点自体は比較的高め

- 機会自体が少なかった？ (短期INの経験内容に起因)

- 職業基礎力は変化なし

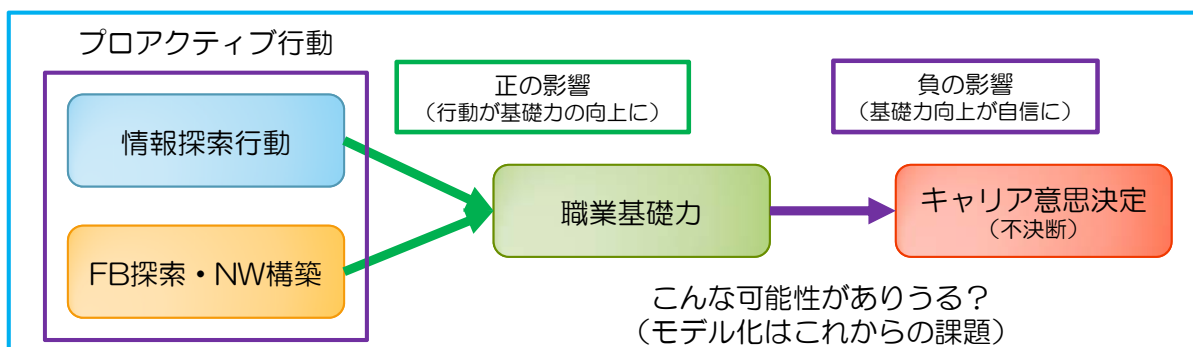
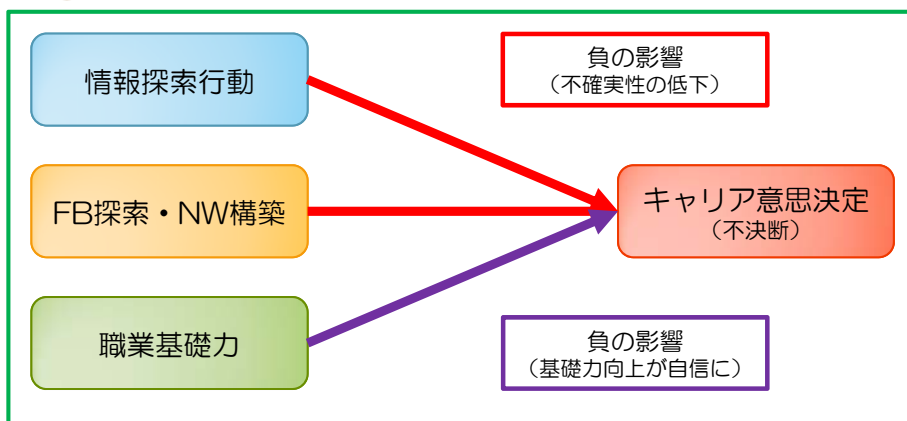
- キャリア意思決定も変化なし

- 短期INレベルの内容ではそう変わらない？

25

考察 ③ (相関から考えられそうなこと)

最初考えていた仮説



26

今後の課題

- というか、正直課題だらけ
 - データが足りなさすぎる！
 - 色々なIN経験のデータが欲しい
 - 新入社員との比較が必須事項（これも足りない）
 - 比較をするには
 - 因子パターン不変性
 - 尺度の因子構造
 - 仮説モデルの精査 etc…

日々の母娘関係と情動性の関連について —動的因子分析による時系列研究—

太成学院大学
小高 恵

問題と目的

親子関係は人間関係形成の基礎の部分でもあり、人と人との関わりの出発点とも考えられ、親との関係は個人のパーソナリティや対人関係と関連があると予想される。

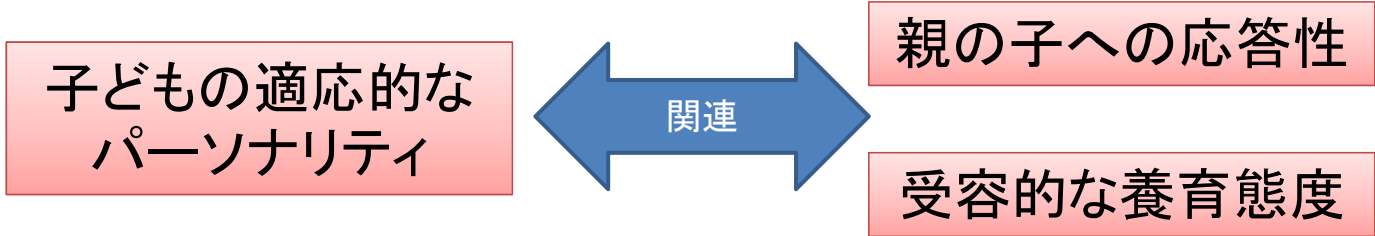
親子関係の基本次元は？

受容—拒否 支配—服従

日々の親子関係の基本次元は？

母娘の親和的コミュニケーション

娘の自己主張



青年のパーソナリティ特性が親の認知に影響している

青年のパーソナリティ特性が母親の養育を引き出している

実際の養育環境が青年のパーソナリティ特性に影響している

因果関係はわからない

時系列で検討してはどうか

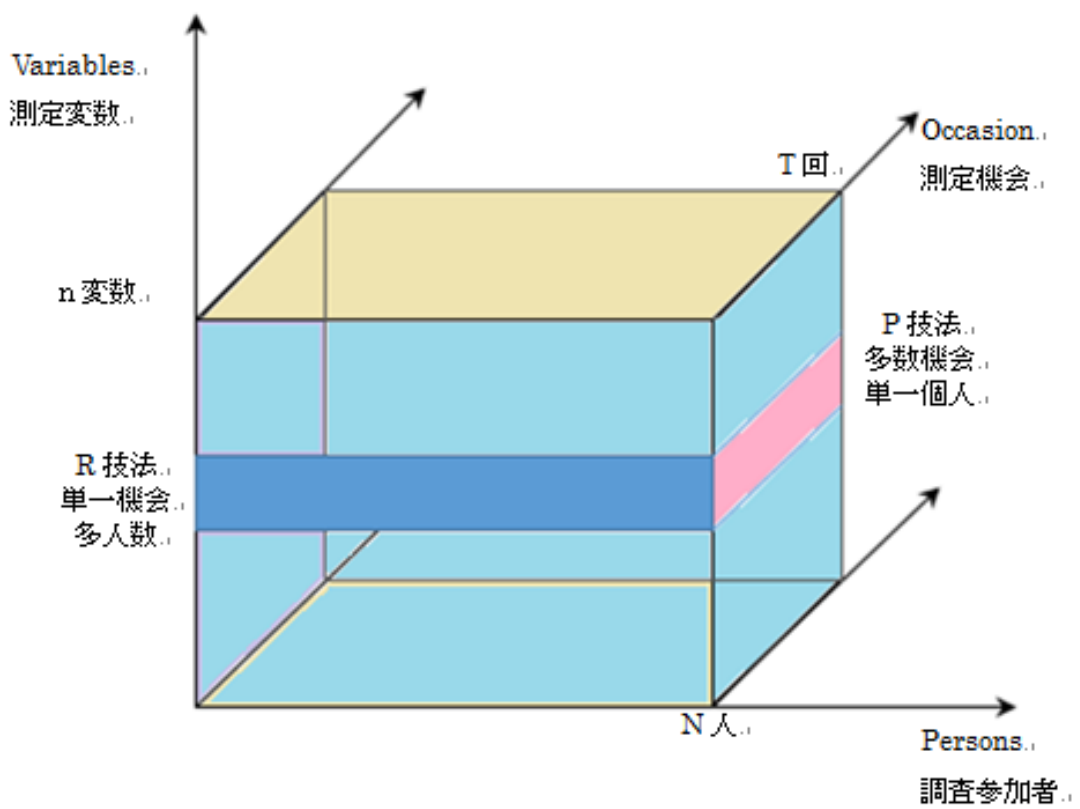


Figure 1 「人 × 変数 × 機会 (N × n × T)」の3次元立方体のデータボックス(紺田, 2010)

方法

分析対象者と測定期間

対象ペア	ID1001		ID1002		ID1004	
	娘	母	娘	母	娘	母
年齢	12	45	13	43	12	43
日数	145		101		144	

分析対象項目 小高・紺田(2017a, 2017b)

母娘

母娘の親和的コミュニケーション(5項目)

娘の自己主張(4項目)

情動性(4項目)

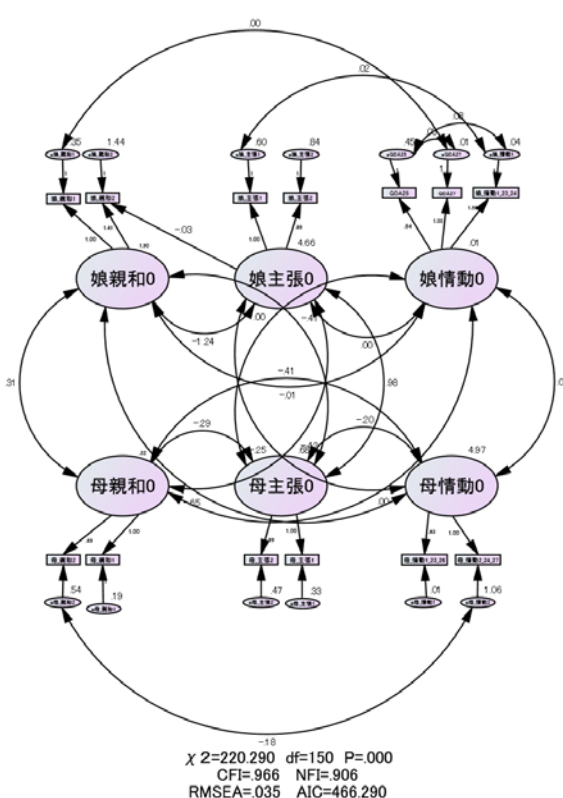
娘の項目

娘_親和1	DA01	お母さんに色々とお話した
娘_親和1	DA17	お母さんは、私に色々気をつけてくれた
娘_親和2	DA02	お母さんの言うことはその通りだと思った
娘_親和2	DA16	お母さんは、私を励ましてくれた
娘_親和2	DA18	お母さんは、私の喜びそうなことをしてくれた
娘_主張1	DA08	お母さんと言ひ合いになった
娘_主張1	DA10	お母さんは口うるさいと感じた
娘_主張2	DA09	お母さんの言動で納得できないことがあった
娘_主張2	DA13	お母さんに口答えした
娘_情動1	QDA23	色々とお悩むことがあった
娘_情動1	QDA24	不安なことがあった
	QDA25	傷つくことがあった
	QDA27	イライラすることがあった

母_親和1	MO02	私の言動に共感してくれた
母_親和1	MO14	私に対して素直であった
母_親和2	MO03	私に感謝の言葉を口にしてくれた
母_親和2	MO05	私のことを理解してくれた
母_親和2	MO06	私の考えに耳を傾けてくれた
母_主張1	MO08	ささいなことから言い合いが始まった
母_主張1	MO10	私から干渉されるのを嫌がった
母_主張2	MO09	私に対して、批判的な言動があった
母_主張2	MO13	私に口答えした
母_情動1	QMO23	色々悩むことがあった
母_情動1	QMO26	一日楽しかった(逆)
母_情動2	QMO24	不安なことがあった
母_情動2	QMO27	イライラすることがあった

分析手続きと結果

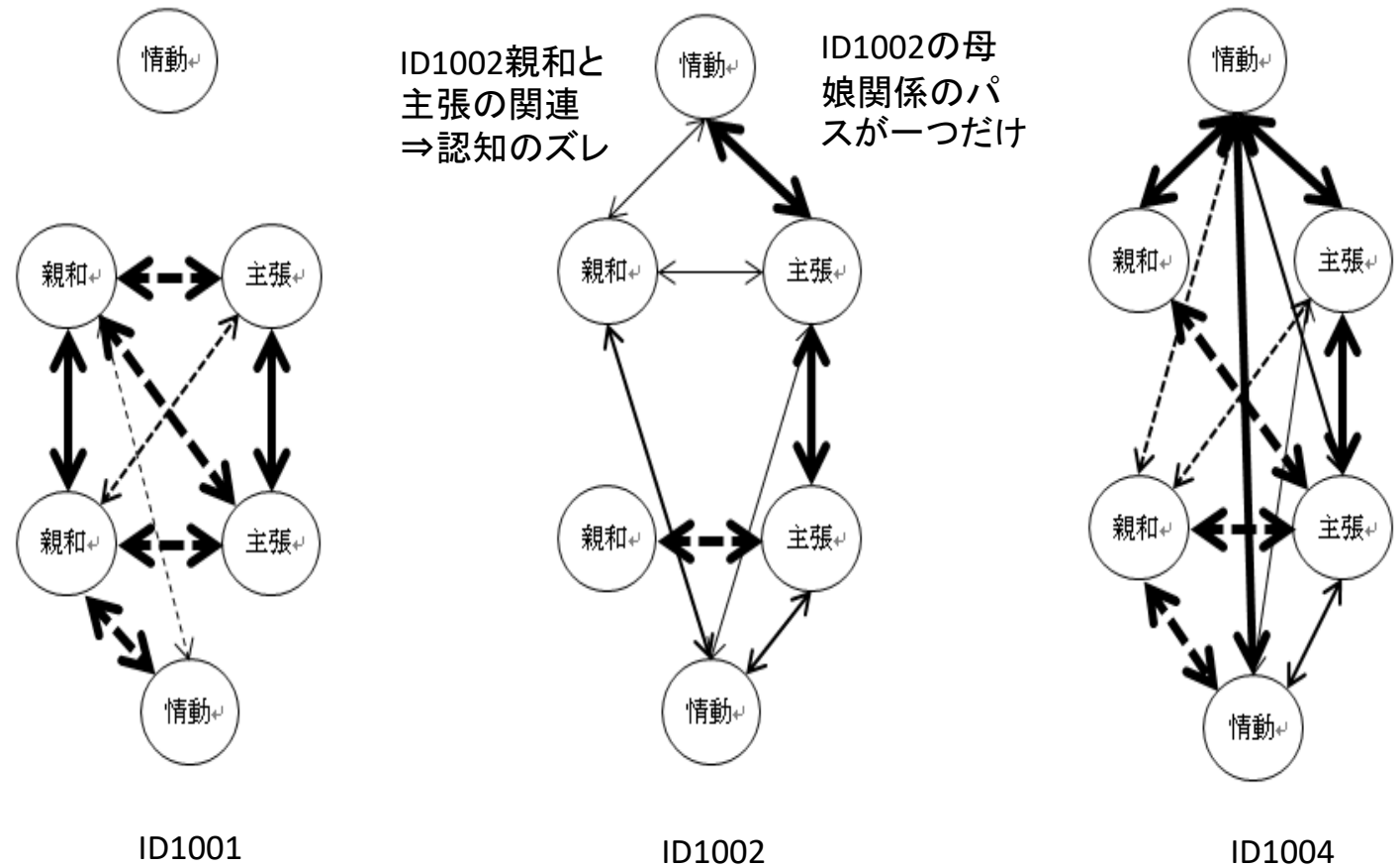
母娘関係と情動性の時間経過を入れないラグ0のモデルの作成



($\chi^2(150) = 220.290, p < .000$,
RMSEA = .035, CFI = .966, AIC = 466.290,
SRMR = .062)

Figure2
情動性と母娘関係の最終
モデル

	ID1001				ID1002				ID1004			
	推定値	標準誤差	標準化推定値	ρ	推定値	標準誤差	標準化推定値	ρ	推定値	標準誤差	標準化推定値	ρ
測定モデル	娘_親和1 <--- 娘親和0	1.00		0.92	1.00		0.50		1.00		0.80	
	娘_親和2 <--- 娘親和0	1.41	0.21	0.84 ***	1.41	0.21	0.62 ***		1.41	0.21	0.76 ***	
	娘_主張1 <--- 娘主張0	1.00		0.94	1.00		0.91		1.00		0.91	
	娘_主張2 <--- 娘主張0	0.89	0.05	0.90 ***	0.89	0.05	0.80 ***		0.89	0.05	0.82 ***	
	娘_親和2 <--- 娘主張0	-0.03	0.08	-0.03	-0.32	0.14	-0.34 *		-0.37	0.10	-0.27 ***	
	QDA25 <--- 娘情動0	0.64	0.10	0.09 ***	0.64	0.10	0.58 ***		0.64	0.10	0.50 ***	
	QDA27 <--- 娘情動0	1.00		0.79	1.00		0.70		1.00		0.66	
	娘_情動1_23_24 <--- 娘情動0	1.56	0.25	0.58 ***	1.56	0.25	0.62 ***		1.56	0.25	0.46 ***	
	母_親和1 <--- 母親和0	1.00		0.79	1.00		0.86		1.00		0.96	
	母_親和2 <--- 母親和0	0.69	0.07	0.47 ***	0.69	0.07	0.60 ***		0.69	0.07	0.68 ***	
	母_主張1 <--- 母主張0	1.00		0.82	1.00		0.88		1.00		0.86	
	母_主張2 <--- 母主張0	0.99	0.07	0.76 ***	0.99	0.07	0.83 ***		0.99	0.07	0.77 ***	
	母_情動2_24_27 <--- 母情動0	1.00		0.91	1.00		0.63		1.00		0.92	
	母_情動1_23_26 <--- 母情動0	0.83	0.06	1.00 ***	0.83	0.06	0.83 ***		0.83	0.06	0.94 ***	
	因子間共分散	娘親和0 <--> 娘主張0	-1.24	0.30	-0.42 ***	1.08	0.53	0.44 *		0.02	0.40	0.01
娘親和0 <--> 娘情動0		-0.01	0.01	-0.08	0.44	0.22	0.40 †		0.86	0.23	0.57 ***	
娘主張0 <--> 娘情動0		-0.01	0.02	-0.02	1.81	0.41	0.69 ***		1.16	0.27	0.57 ***	
母親和0 <--> 母主張0		-0.29	0.06	-0.62 ***	-0.45	0.10	-0.61 ***		-2.28	0.35	-0.77 ***	
母主張0 <--> 母情動0		-0.20	0.18	-0.11	0.22	0.11	0.27 *		1.75	0.44	0.42 ***	
母親和0 <--> 母情動0		-0.41	0.14	-0.33 **	-0.03	0.05	-0.08		-1.04	0.34	-0.29 **	
娘親和0 <--> 母親和0		0.31	0.09	0.40 ***	0.16	0.11	0.27		0.26	0.27	0.10	
娘主張0 <--> 母主張0		0.98	0.20	0.55 ***	1.23	0.37	0.41 ***		3.07	0.49	0.75 ***	
娘情動0 <--> 母情動0		0.00	0.02	0.00	0.08	0.10	0.11		0.98	0.26	0.47 ***	
娘親和0 <--> 母主張0		-0.41	0.12	-0.36 ***	0.05	0.21	0.04		-0.33	0.34	-0.11	
娘親和0 <--> 母情動0		-0.65	0.28	-0.21 *	0.27	0.12	0.39 *		0.33	0.37	0.09	
娘主張0 <--> 母親和0		-0.42	0.14	-0.34 **	-0.20	0.18	-0.13		-2.02	0.37	-0.57 ***	
娘主張0 <--> 母情動0		-0.25	0.42	-0.05	0.35	0.20	0.21 †		1.21	0.47	0.24 *	
娘情動0 <--> 母親和0		0.00	0.01	0.07	-0.08	0.09	-0.13		-0.39	0.17	-0.27 *	
娘情動0 <--> 母主張0		0.00	0.01	-0.05	0.27	0.18	0.20		0.63	0.22	0.37 **	
独自性間共分散	eQDA25 <--> e娘_情動1	0.08	0.02	0.57 ***	0.08	0.02	0.04 ***		0.08	0.02	0.03 ***	
	eQDA25 <--> eQDA27	0.03	0.01	0.69 ***	0.03	0.01	0.03 ***		0.03	0.01	0.03 ***	
	e娘_主張1 <--> e娘_情動1	0.02	0.02	0.10	-1.43	0.44	-0.59 **		-0.08	0.37	-0.03	
	e娘_親和1 <--> eQDA27	0.00	0.01	0.02	-0.72	0.26	-0.37 **		-0.44	0.19	-0.34 *	
	e母_親和2 <--> e母_情動2	-0.18	0.07	-0.24 **	0.02	0.05	0.03		-0.05	0.12	-0.05	



娘の主張が強いと娘が認知しているとき母も娘が主張的であると認知
 母の情動性は、直接的あるいは間接的に母娘関係と関連

Figure3 情動性と母娘関係の関連 (ラグ0)

母娘関係と情動性の時間経過を入れたラグ2モデルの分析

ラグ数の決定・・・偏自己相関係数の有意性検定を行った結果、ラグ1では39変数(13変数×3組)の内29変数が有意であり、ラグ2では7変数が有意であったが、ラグ3では有意な変数は4変数となった。このことは、観測間隔が離れるにつれて系列依存性の強さが減衰していることを示す。本研究ではラグ数を2と定め、動的因子分析を行うことにした。

	ラグ1	ラグ2	ラグ3
ID1001	12	2	1
ID1002	6	0	3
ID1004	11	5	0
	29	7	4

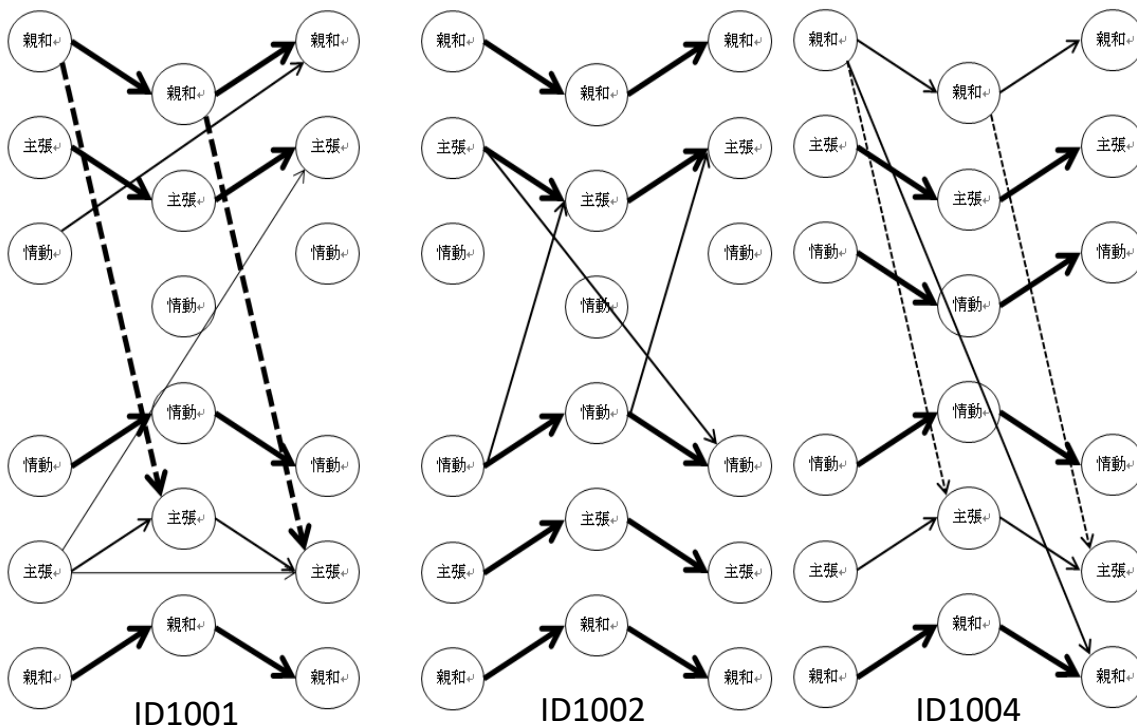
①当日の因子(t因子), 前日の因子(t-1因子)を作成(ラグ1モデル)

Meredith(1993)の因子的不変性の原理に基づいて、ラグ0で引かれた因子と観測変数の因子パターン、独自性の分散、独自性間共分散、因子の分散・共分散を同値として拘束した(清水, 2003)。次に、修正指数を検討しながら同じ因子間のパス(「前日から当日へのパス」の時系列パス)とラグのある因子にパスを引く作業を行いモデルの修正を行った結果、適合度の良いモデルが得られた($\chi^2(391)=1112.210$, $p=.000$ GFI=.834, AGFI=.804, CFI=.954, RMSEA=.025, AIC=1436.210, SRMR=.079)。

②前々日の因子(t-2因子)に拡げたモデルの作成(ラグ2モデル)

同じ因子間に「前日から当日へのパス」, 「前々日から当日へのパス」, 「前々日から前日へのパス」の3種類の時系列パスを引いた。この際、ともに1日の遅れであるラグ1のとは同値拘束した。修正指数を参考にしながら「前々日から当日へのパス」のパスを引く作業を行い、モデルを修正した結果、適合度の良いモデルを推定することができた($\chi^2(2133)=2644.842$, $p=.000$, GFI=.769, AGFI=.747, CFI=.933, RMSEA=.025, AIC=3058.842, SRMR=.079)。これらの指標をみるとCFIについては0.95に至らなかったが、RMSEAとSRMRの2つの指標の基準を満たしており、モデルはほぼ適合していると考えられる。

		ID1001					ID1002				ID1004			
		推定値	標準誤差	標準化 係数	ρ	推定値	標準誤差	標準化 係数	ρ	推定値	標準誤差	標準化 係数	ρ	
ラグ1(娘)	娘親和1 <--- 娘親和2	0.559	0.065	0.488	***	0.951	0.222	0.689	***	0.640	0.085	0.539	***	
	娘主張1 <--- 娘主張2	0.656	0.062	0.548	***	0.321	0.075	0.296	***	0.163	0.058	0.160	**	
	娘情動1 <--- 娘情動2	-0.009	0.074	-0.009		0.134	0.092	0.133		0.608	0.099	0.519	***	
	娘親和0 <--- 娘親和1	0.559	0.065	0.535	***	0.951	0.222	0.813	***	0.640	0.085	0.572	***	
	娘主張0 <--- 娘主張1	0.656	0.062	0.602	***	0.321	0.075	0.316	***	0.163	0.058	0.162	**	
	娘情動0 <--- 娘情動1	-0.009	0.074	-0.009		0.134	0.092	0.133		0.608	0.099	0.554	***	
ラグ2(娘)	娘親和0 <--- 娘親和2	-0.058	0.101	-0.048		0.035	0.492	0.022		0.181	0.147	0.136		
	娘主張0 <--- 娘主張2	-0.104	0.117	-0.080		-0.025	0.117	-0.023		0.114	0.130	0.112		
	娘情動0 <--- 娘情動2	-0.094	0.103	-0.093		0.096	0.137	0.095		0.237	0.192	0.185		
	娘親和0 <--- 娘情動2	3.542	1.260	0.218	**	-0.121	0.189	-0.135		0.028	0.223	0.012		
ラグ1 (娘→母)	母主張1 <--- 娘親和2	-0.180	0.042	-0.253	***	-0.025	0.134	-0.012		-0.196	0.067	-0.127	**	
	母主張0 <--- 娘親和1	-0.180	0.042	-0.270	***	-0.025	0.134	-0.016		-0.196	0.067	-0.149	**	
ラグ2 (娘→母)	母親和0 <--- 娘親和2	-0.033	0.052	-0.066		-0.012	0.129	-0.012		0.209	0.099	0.159	*	
	母情動0 <--- 娘主張2	-0.030	0.102	-0.022		0.095	0.037	0.300	*	-0.047	0.092	-0.043		
ラグ1(母)	母親和1 <--- 母親和2	0.351	0.078	0.331	***	0.371	0.093	0.348	***	0.278	0.059	0.268	***	
	母主張1 <--- 母主張2	0.235	0.073	0.217	**	0.366	0.075	0.343	***	0.211	0.058	0.204	***	
	母情動1 <--- 母情動2	0.528	0.059	0.467	***	0.409	0.120	0.379	***	0.448	0.059	0.409	***	
	母親和0 <--- 母親和1	0.351	0.078	0.343	***	0.371	0.093	0.358	***	0.278	0.059	0.273	***	
	母主張0 <--- 母主張1	0.235	0.073	0.219	**	0.366	0.075	0.359	***	0.211	0.058	0.209	***	
	母情動0 <--- 母情動1	0.528	0.059	0.519	***	0.409	0.120	0.389	***	0.448	0.059	0.444	***	
ラグ2(母)	母親和0 <--- 母親和2	0.127	0.131	0.117		0.160	0.142	0.145		0.011	0.089	0.011		
	母主張0 <--- 母主張2	0.243	0.106	0.209	*	0.077	0.116	0.071		-0.005	0.091	-0.005		
	母情動0 <--- 母情動2	-0.068	0.089	-0.059		-0.124	0.171	-0.109		-0.059	0.091	-0.053		
ラグ1 (母→娘)	娘主張1 <--- 母情動2	-0.040	0.044	-0.039		0.826	0.262	0.213	**	0.010	0.048	0.010		
	娘主張0 <--- 母情動1	-0.040	0.044	-0.041		0.826	0.262	0.227	**	0.010	0.048	0.011		
ラグ2 (母→娘)	娘主張0 <--- 母主張2	0.599	0.268	0.197	*	0.001	0.229	0.001		-0.104	0.169	-0.087		
	娘情動0 <--- 母主張2	-0.004	0.011	-0.040		-0.032	0.123	-0.034		-0.123	0.064	-0.242	†	



母娘関係と母の情動性が次の日に影響を及ぼしていた

ID1001とID1004:「娘の親和因子」から「母の主張因子」へのラグ1のパスが負の値を示した

ID1002:「母の情動因子」から「娘の主張因子」へのラグ1の正の値を示した

Figure4 情動性と母娘関係の時系列モデル (ラグ2)

考察

○アタッチメント理論からの考察

- ・娘の情動性と母娘関係と関連している場合 (ID1002とID1004)

娘の情動性は娘の主張因子と娘の親和因子と正の関連



娘の情動性が高まっている時にアタッチメント対象に母を選択し母を安全基地と利用している可能性がある

- ・母の情動性と母娘関係の親和性について

ID1001とID1004: 母の情動性が高まると直接的あるいは間接的に娘の親和性は低くなる。

ID1002: プラスの関係を示していた⇒母の情動性が高い時、娘は母の様子をみて母と親和的になろうとしていることを意味し「親和」と「主張」の相反する気持ちが同時に生起していることが窺われる。

○青年期の親子関係の「独自性」と「結合性」からの考察

親からの自立に関する理論

分離モデル



統合モデル

結合モデル

結合性の環境の中で青年が自分自身の独自な見解(独自性)を発達させることが重要

娘の情動性が高まった時に娘の主張が高まると同時に娘は母との結合性(親和性)を強くしようとする関係が認められた。

主張因子

親和因子

同時に起こっている可能性

本研究の今後の課題

3組に共通した時系列上の影響過程を認めることはできなかった
本研究で得られた知見を一般化することはできない

「親和因子」と「主張因子」
という共通因子の抽出



母娘関係の独自の因子を捨て去っ
てしまっている可能性がある

法則定立的研究: **共通因子の抽出** **共通した関連**

共通次元で見たときの**個性記述的な結果**



個性記述的な結果をどの
ように捉えればいいのか？

個性記述的な結果 (個々の因子分析)

引用文献

- 紺田広明 (2010). 動的因子分析による個人内変動のモデル化. 関西大学大学院心理学研究科修士論文(未刊行).
- 清水和秋 (2003b). 構造方程式モデリングによる平均構造の解析モデル 関西大学社会学部紀要, **34(2)**, 83-108.
- 清水和秋・山本理恵 (2008). 感情的表現項目によるBig Five測定の半年間隔での安定性と変動 関西大学社会学部紀要, **39(2)**, 35-67.
- 小高 恵・紺田広明. (2017a). 日々の母娘関係の一分析 — 娘の認知する母娘関係の因子比較 — 日本心理学会第 81 回大会発表論文集, 809.
- 小高 恵・紺田広明. (2017b). 日々の母娘関係の一分析 — 母の認知する母娘関係の因子比較 — 日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集, 269.

インターネット調査で 心理尺度を用いてもいいのか？

—自尊心尺度と知的好奇心尺度を用いた
インターネット調査結果から—

京都大学大学院 教育学研究科
西川 一二

インターネットの調査を利点と欠点(大隅, 2006)

利点とされること

- ① 簡便性 (簡単、使いやすい)
- ② 速報性・迅速性(早い)
- ③ 調査経費の低減化、廉価性 (安い)
- ④ 登録者集団の作り方で回答率が上がる
- ⑤ マルチメディア対応の調査票設計
- ⑥ 回答行動の電子的追跡 (トラッキング) が可能

欠点とされること

- ① 目標母集団が曖昧
- ② 登録者集団が不透明
- ③ 回答の代表性が疑わしい
- ④ 一般に回答率が低い
- ⑤ 虚偽、代理など不正回答の混入の可能性
- ⑥ 回答の制御・強制・誘導が起り得ること

インターネット調査と従来型紙面調査による調査結果に違いはあるのか (林, 2016)

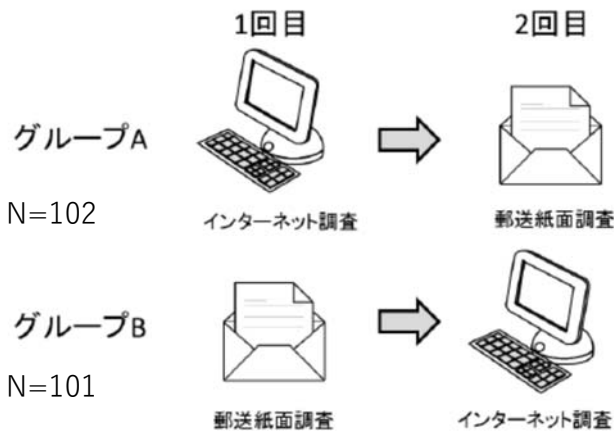


図1. グループおよび調査実施順序

表1. 各心理尺度得点の平均および標準偏差

尺度	郵送紙面調査		インターネット調査	
	M	SD	M	SD
性格5因子				
外向性	8.58	2.62	8.46	2.56
協調性	10.30	1.99	9.98	2.08 **
勤勉性	8.48	2.47	8.49	2.41
神経症傾向	7.66	2.51	7.51	2.40
開放性	8.55	2.50	8.28	2.39 *

インターネット調査と従来型紙面調査では、協調性や開放性得点に差が見られたが、大きな差ではない。

インターネットの調査を利点と欠点(大隅, 2006)

利点とされること

- ① 簡便性 (簡単、使いやすい)
- ② 速報性・迅速性(早い)
- ③ 調査経費の低減化、廉価性 (安い)
- ④ 登録者集団の作り方で回答率が上がる
- ⑤ マルチメディア対応の調査票設計
- ⑥ 回答行動の電子的追跡 (トラッキング) が可能

欠点とされること

- ① 目標母集団が曖昧
- ② 登録者集団が不透明
- ③ 回答の代表性が疑わしい
- ④ 一般に回答率が低い
- ⑤ 虚偽、代理など不正回答の混入の可能性
- ⑥ 回答の制御・強制・誘導が起こり得ること

こういった欠点は、インターネット調査だけではない、社会調査、郵送法調査や大学生を対象とした調査でも考えられる。

インターネット調査の利点を生かすためには、問題点を認識し、対応する事が求められる。

インターネット調査会社

<クロス・マーケティング社>

パネル登録者420万人

—参考価格—

- ・ 1000人調査の場合
50問前後で50万円
※1問10項目単位で見積もられる
フィラー項目やダミー項目
の調整が可能
回答時間データの購入が可能

<マイクロミル社>

パネル登録者1000万人以上

—参考価格—

- ・ 1000人調査の場合
10問で45万 20問で52万
30問で56万 40問で76万
※様々な調査プランがある
フィラー項目やダミー項目
の調整不可
回答時間データを購入も不可

インターネット調査会社

<クロス・マーケティング社>

パネル登録者420万人

—参考価格—

- ・ 1000人調査の場合
50問前後で50万円
※1問10項目単位で見積もられる
フィラー項目やダミー項目
の調整が可能
回答時間データの購入が可能

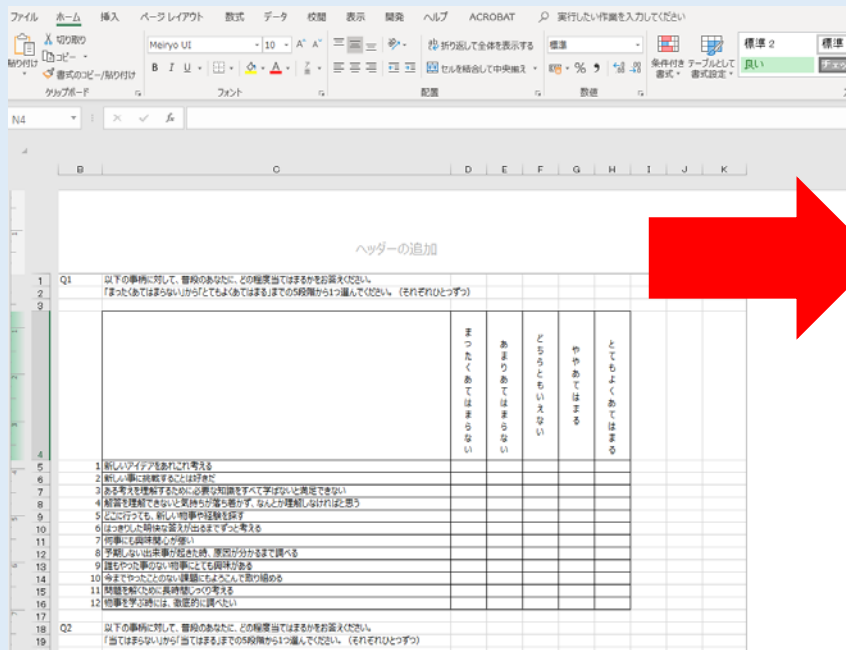
<マイクロミル社>

パネル登録者1000万人以上

—参考価格—

- ・ 1000人調査の場合
10問で45万 20問で52万
30問で56万 40問で76万
※様々な調査プランがある
フィラー項目やダミー項目
の調整不可
回答時間データを購入も不可

インターネット調査の調査票の作成 (クロス・マーケマーケティング社)



Q1
以下の事柄に対して、普段のあなたに、どの程度当てはまるかを答えください。
「まったく当てはまらない」から「とてもよく当てはまる」までの5段階から1つ選んでください。
(それぞれひとつずつ)

	まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらかといえばいい	やや当てはまる	とてもよく当てはまる
1 新しいアイデアをあれこれ考える	10	20	30	40	50
2 新しい事に挑戦することは好きだ	10	20	30	40	50
3 ある考えを理解するために必要な知識をすべて学ばないと満足できない	10	20	30	40	50
4 解答を理解できないと気持ちが落ち着かず、なんとか理解しなければと思う	10	20	30	40	50
5 どこに行っても、新しい物事や経験を探す	10	20	30	40	50
6 はっきりした明快な答えが出るまでずっと考える	10	20	30	40	50
7 何事にも興味関心が強い	10	20	30	40	50
8 予期しない出来事が起きた時、原因が分かるまで調べる	10	20	30	40	50
9 誰もやった事のない物事にとても興味がある	10	20	30	40	50
10 今までやったことのない課題にもよこで取り組める	10	20	30	40	50
11 問題を解くために長時間じっくり考える	10	20	30	40	50
12 物事を学ぶ時には、徹底的に調べたい	10	20	30	40	50

7

調査の実施と調査内容

調査1 (2017年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~80代
各年齢層100名程度)
男：716 女：665 計1382名
268項目

回答時間データを集計

<クリーニングの条件：除外済み>

ストレートライン回答は除外

計**381名**

調査2 (2018年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~70・80
代 各年齢層100名程度)
男：893名 女：897名 計1790名
248項目

回答時間データを集計

<クリーニングの条件：除外済み>

ストレートライン回答 462名

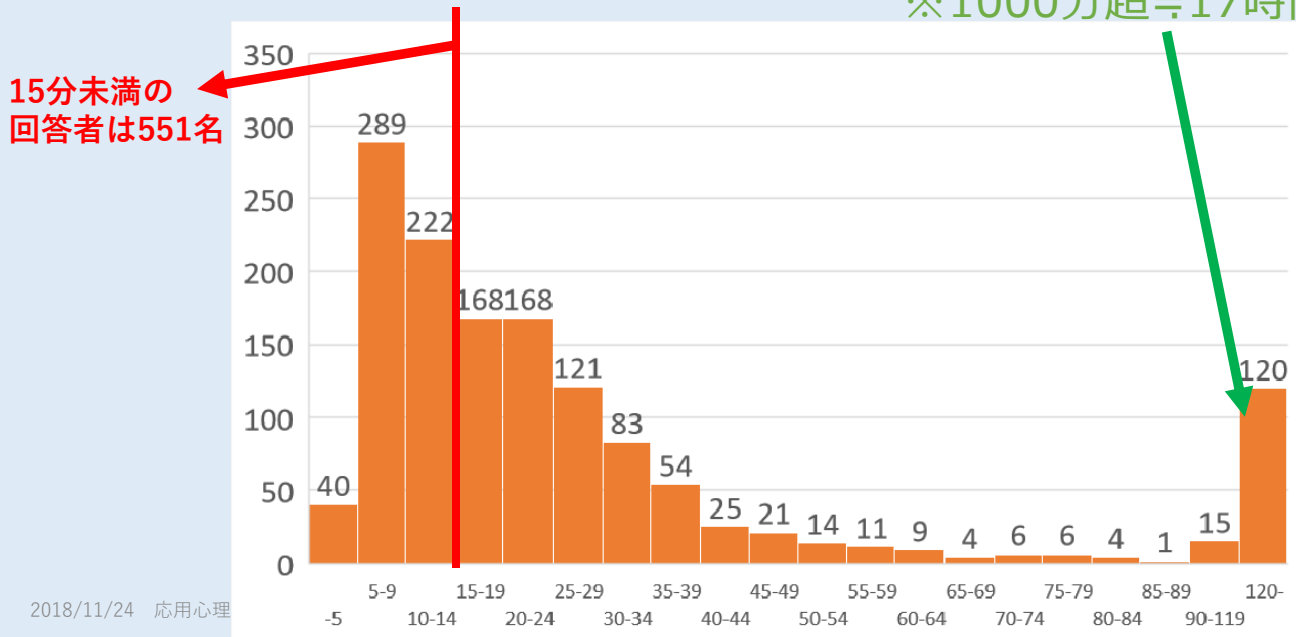
5分未満回答 361名

計**823名**

8

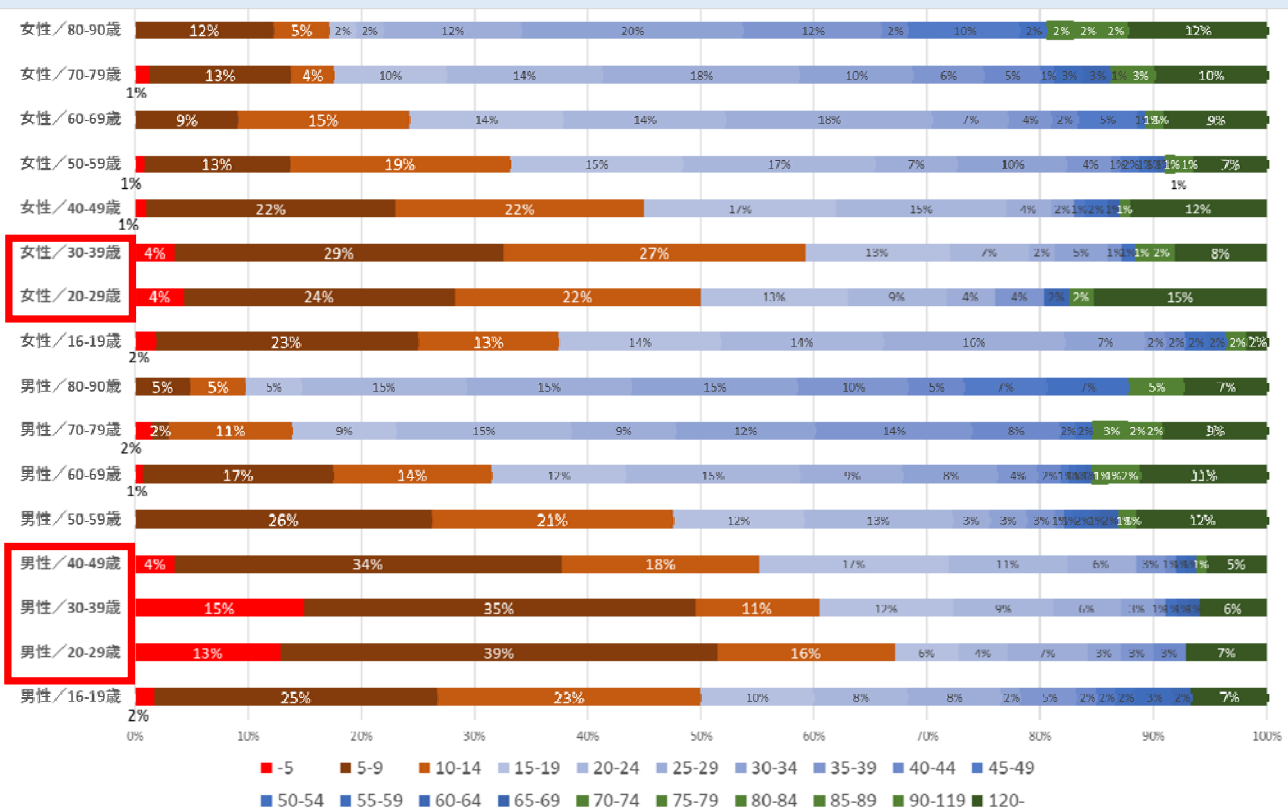
調査 1 (2017年3月) の回答時間 (N=1382)

- 項目数 ~~300~~ → 268項目 回答最大時間 5559分 = 92.65時間 ≒ 約4日
 ※1000分超 ≒ 17時間が51名



2018/11/24 応用心理

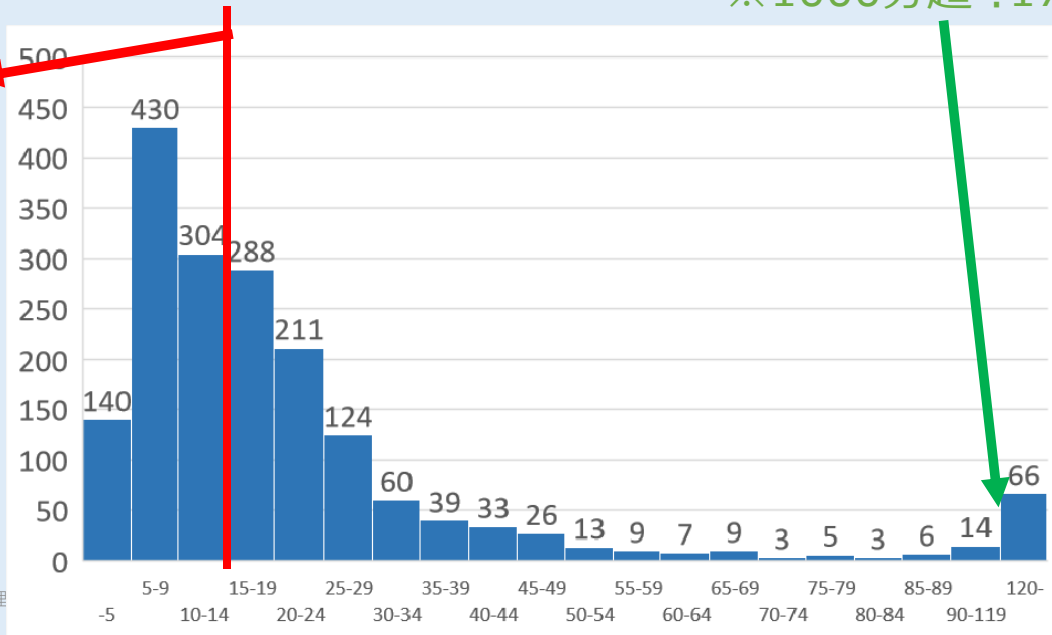
調査 1 (2017年3月) の回答時間と年齢と性別の関係



調査2 (2018年3月) の回答時間 (N=1790)

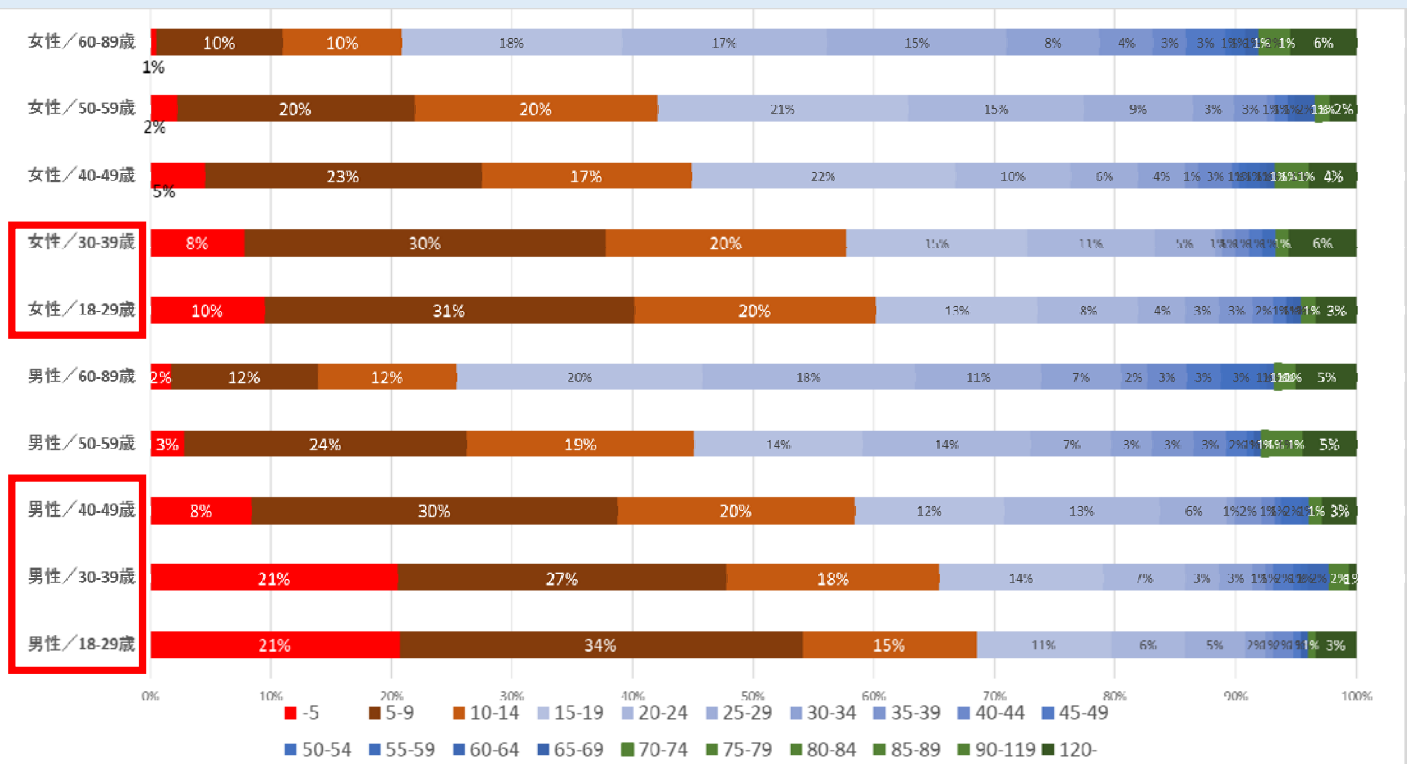
- 項目数 ~~244~~ → 248項目 回答最大時間 4400分 = 92.65時間 ≒ 約3日
 ※1000分超 ≒ 17時間が22名

15分未満の回答者は874名



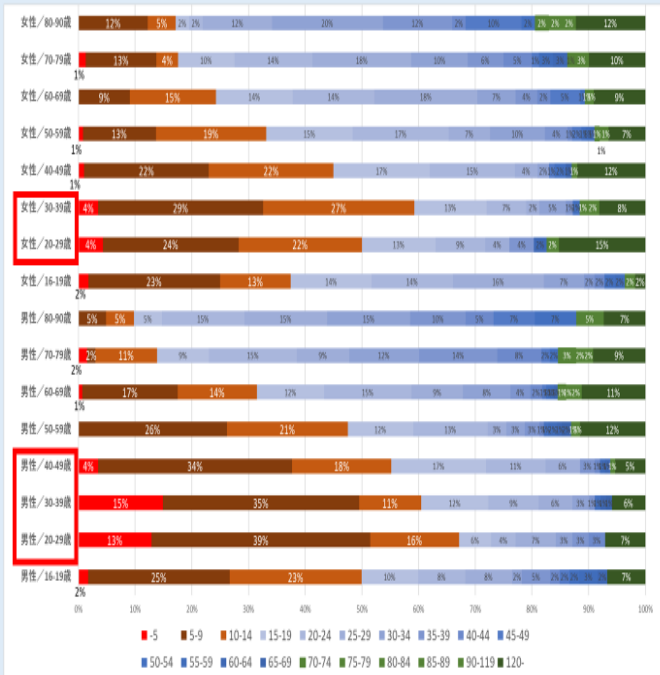
2018/11/24 応用心理

調査2 (2018年3月) の回答時間と年齢と性別の関係

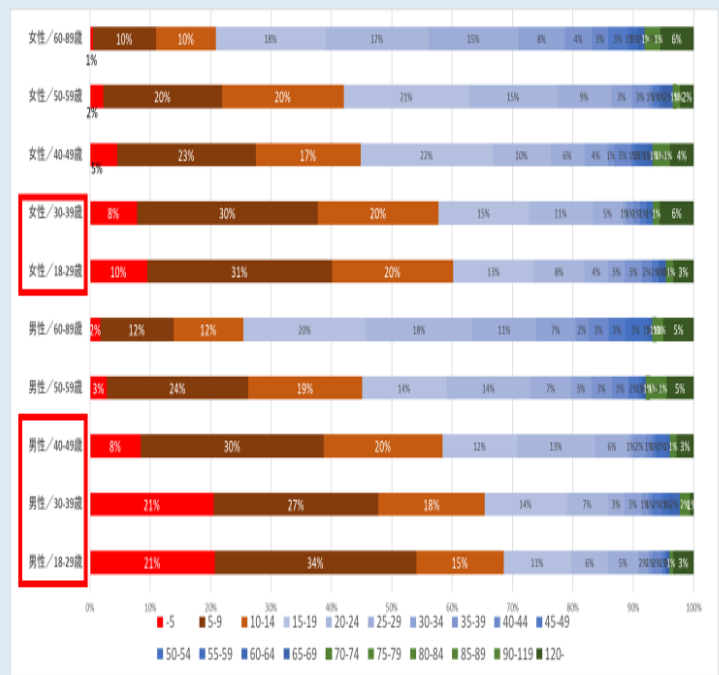


2018/11/24 応用心理測定研究会 第2回研究会 京都学園大学 N202

調査1 (2017年3月) の回答時間と年齢と性別の関係



調査2 (2018年3月) の回答時間と年齢と性別の関係



本研究の目的

200項目以上のインターネット調査において

約10分程度で回答する対象者は、

果たして信頼できるのか？

調査回答時間の目安

調査1 (2017年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~80代
各年齢層100名程度)
男：716 女：665 計1382名
268項目

回答時間データを集計

1項目あたり回答時間を約3秒と計算して
 $268項目 \times 3秒 = 13.4分 \approx 14分$

調査2 (2018年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~70・80
代 各年齢層100名程度)
男：893名 女：897名 計1790名
248項目

回答時間データを集計

1項目あたり回答時間を約3秒と計算して
 $248項目 \times 3秒 = 12.4分 \approx 13分$

本研究の方法

調査1 (2017年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~80代
各年齢層100名程度)
ストレートライン回答(381名)は除外
男：495 女：506 計1001名
268項目

1項目あたり回答時間を約3秒と計算して
 $268項目 \times 3秒 = 13.4分 \approx 14分$
回答時間14分未満を目安にデータを分割
※120分以上(100名)は分析から除外

調査2 (2018年3月)

<クロス・マーケティング社>

調査対象者：19-89歳 (20代~70・80
代 各年齢層100名程度)
ストレートライン回答(462名)は除外
男：661名 女：700名 計1361名
248項目

1項目あたり回答時間を約3秒と計算して
 $248項目 \times 3秒 = 12.4分 \approx 13分$
回答時間13分未満を目安にデータを分割
※120分以上(57名)は分析から除外

調査1,2で使用した心理尺度

1. 知的好奇心尺度 (西川・雨宮,2016)

12項目 2下位尺度 5件法

調査1: 190番目/268項目中

調査2: **10番目**/248項目中

2. Rosenberg 自尊感情尺度 (山本・松井・山成, 1982)

10項目 1下位尺度 5件法 ※逆転項目4項目

調査1: 220番目/268項目中

調査2: 129番目/248項目中

調査1,2で使用した心理尺度

1. 知的好奇心尺度 (西川・雨宮,2016)

12項目 2下位尺度 5件法

調査1: 190番目/268項目中

調査2: **10番目**/248項目中

2. Rosenberg 自尊感情尺度 (山本・松井・山成, 1982)

10項目 1下位尺度 5件法 ※逆転項目4項目

調査1: 220番目/268項目中

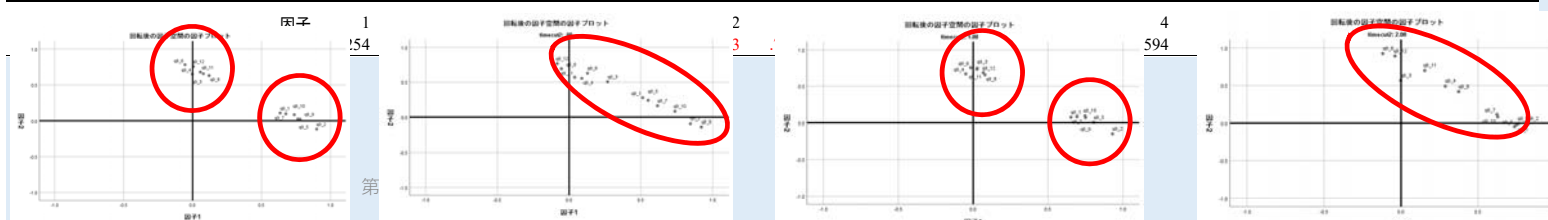
調査2: 129番目/248項目中

調査1：知的好奇心尺度の因子分析結果 (最尤法)

	全数(N=1001)					14分未満(N=284)					15分以上120分未満(N=617)					120分以上(N=100)				
	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD
	拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心			
「いいことに挑戦するのは好きだ	.900	-.116	.678	3.090	.960	.845	-.087	.611	2.930	.864	.931	-.145	.708	3.180	.989	.825	-.012	.667	3.060	.983
「もやったことのない物事にとても興味がある	.780	.022	.632	2.920	.967	.921	-.134	.680	2.890	.883	.751	.072	.640	2.930	.995	.760	-.010	.567	2.960	1.024
「こに行っても、新しいものごとや経験を探す	.763	.024	.608	2.930	.919	.550	.241	.561	2.900	.845	.805	.004	.653	2.940	.948	.736	-.047	.495	2.920	.939
「までやったことのない課題にもよこんで取り かめる	.737	.084	.637	2.990	.934	.737	.083	.644	2.880	.880	.747	.094	.660	3.020	.956	.627	.084	.475	3.080	.929
「事にも興味関心が強い	.676	.097	.558	3.140	.947	.616	.162	.556	2.990	.841	.693	.081	.562	3.210	.974	.622	.114	.501	3.100	1.020
「いいアイデアをあれこれ考える	.635	.108	.509	3.100	.984	.513	.277	.554	2.960	.893	.653	.074	.497	3.160	1.013	.747	-.024	.533	3.070	1.018
「つきりした明快な答えが出るまでずっと考える	-.055	.781	.554	3.110	.886	-.054	.692	.426	2.980	.813	-.017	.754	.552	3.150	.914	-.119	.925	.715	3.190	.884
「のごとを学ぶときには、徹底的に調べたい	.006	.756	.577	3.270	.925	-.083	.766	.498	3.120	.797	.026	.747	.585	3.330	.958	-.040	.892	.746	3.330	1.006
「問題を解くために長時間じっくり考える	.056	.678	.516	3.180	.917	.039	.570	.360	3.020	.800	.067	.686	.536	3.230	.947	.153	.699	.663	3.290	.988
「る考えを理解するために必要な知識をすべて 「ばないと満足できない	.078	.655	.507	2.960	.929	.268	.506	.532	2.930	.814	.025	.733	.562	2.980	.972	-.002	.566	.319	2.920	.971
「答を理解できないと気持ちが落ち着かず、な 「とか理解しなければと思う	-.002	.650	.421	3.330	.895	.088	.555	.389	3.120	.772	-.050	.669	.406	3.410	.937	.287	.491	.522	3.420	.867
「期しない出来事が起きた時、原因が分かるま 「調べ	.119	.630	.515	3.180	.904	.128	.628	.532	3.050	.818	.079	.656	.505	3.230	.922	.374	.418	.535	3.210	.988
因子間相関	.694						.754						.663						.705	
因子 固有値	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	6.254	1.323	.624	.554	.498	6.208	1.073	.746	.625	.558	6.238	1.468	.626	.594	.492	6.333	1.231	.720	.656	.611

調査1：知的好奇心尺度の因子分析結果 (最尤法, Promax回転)

	全数(N=1001)					14分未満(N=284)					15分以上120分未満(N=617)					120分以上(N=100)				
	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD
	拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心			
「いいことに挑戦するのは好きだ	.900	-.116	.678	3.090	.960	.845	-.087	.611	2.930	.864	.931	-.145	.708	3.180	.989	.825	-.012	.667	3.060	.983
「もやったことのない物事にとても興味がある	.780	.022	.632	2.920	.967	.921	-.134	.680	2.890	.883	.751	.072	.640	2.930	.995	.760	-.010	.567	2.960	1.024
「こに行っても、新しいものごとや経験を探す	.763	.024	.608	2.930	.919	.550	.241	.561	2.900	.845	.805	.004	.653	2.940	.948	.736	-.047	.495	2.920	.939
「までやったことのない課題にもよこんで取り かめる	.737	.084	.637	2.990	.934	.737	.083	.644	2.880	.880	.747	.094	.660	3.020	.956	.627	.084	.475	3.080	.929
「事にも興味関心が強い	.676	.097	.558	3.140	.947	.616	.162	.556	2.990	.841	.693	.081	.562	3.210	.974	.622	.114	.501	3.100	1.020
「いいアイデアをあれこれ考える	.635	.108	.509	3.100	.984	.513	.277	.554	2.960	.893	.653	.074	.497	3.160	1.013	.747	-.024	.533	3.070	1.018
「つきりした明快な答えが出るまでずっと考える	-.055	.781	.554	3.110	.886	-.054	.692	.426	2.980	.813	-.017	.754	.552	3.150	.914	-.119	.925	.715	3.190	.884
「のごとを学ぶときには、徹底的に調べたい	.006	.756	.577	3.270	.925	-.083	.766	.498	3.120	.797	.026	.747	.585	3.330	.958	-.040	.892	.746	3.330	1.006
「問題を解くために長時間じっくり考える	.056	.678	.516	3.180	.917	.039	.570	.360	3.020	.800	.067	.686	.536	3.230	.947	.153	.699	.663	3.290	.988
「る考えを理解するために必要な知識をすべて 「ばないと満足できない	.078	.655	.507	2.960	.929	.268	.506	.532	2.930	.814	.025	.733	.562	2.980	.972	-.002	.566	.319	2.920	.971
「答を理解できないと気持ちが落ち着かず、な 「とか理解しなければと思う	-.002	.650	.421	3.330	.895	.088	.555	.389	3.120	.772	-.050	.669	.406	3.410	.937	.287	.491	.522	3.420	.867
「期しない出来事が起きた時、原因が分かるま 「調べ	.119	.630	.515	3.180	.904	.128	.628	.532	3.050	.818	.079	.656	.505	3.230	.922	.374	.418	.535	3.210	.988
因子間相関	.694						.754						.663						.705	

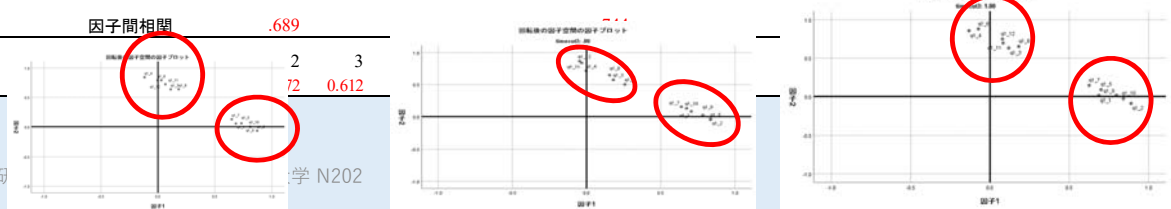


調査2：知的好奇心尺度の因子分析結果（最尤法, Promax回転）

	全数(N=1361)					13分未満(N=480)					14分以上120分未満(N=824)				
	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD
	拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心			
新しい事に挑戦することは好きだ	.871	-.067	.683	3.040	1.008	.836	-.034	.658	3.000	1.001	.889	-.082	.702	3.070	1.011
までやったことのない課題にもよるこんで 取り組める	.810	-.001	.655	2.970	.963	.674	.129	.600	2.980	.938	.841	-.028	.678	2.950	.977
誰もやった事のない物事にとても興味がある	.809	.002	.657	2.920	.972	.784	.022	.641	2.950	.943	.797	.015	.651	2.910	.986
どこに行っても、新しい物事や経験を探す	.733	.057	.598	2.870	.939	.835	-.039	.651	2.900	.919	.700	.089	.579	2.850	.947
新しいアイデアをあれこれ考える	.684	.054	.521	3.040	1.050	.705	.082	.590	2.940	1.032	.686	.014	.484	3.100	1.052
何事にも興味関心が強い	.648	.127	.549	3.040	.965	.639	.154	.578	3.000	.930	.625	.144	.529	3.070	.983
解答を理解できないと気持ちが落ち着か ず、なんとか理解しなければと思う	-.118	.841	.586	3.210	.956	-.003	.714	.507	3.080	.893	-.133	.856	.602	3.280	.984
物事を学ぶ時には、徹底的に調べたい	.029	.791	.659	3.180	.986	-.047	.864	.688	3.010	.957	.079	.749	.643	3.280	.989
はっきりした明快な答えが出るまでずっと 考える	-.003	.790	.621	3.090	.932	.258	.503	.513	3.020	.863	-.073	.879	.694	3.120	.963
問題を解くために長時間じっくり考える	.066	.722	.591	3.170	.974	-.033	.839	.664	3.010	.919	.083	.696	.567	3.260	.995
予期しない出来事が起きた時、原因が分か るまで調べる	.182	.638	.601	3.140	.943	.155	.647	.592	3.050	.897	.181	.651	.610	3.190	.961
ある考えを理解するために必要な知識をす べて学ばないと満足できない	.112	.636	.516	2.980	.954	.180	.574	.515	2.990	.879	.118	.631	.509	2.980	.989
因子間相関			.689					.744					.652		
因子 固有値	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	6.643	1.372	0.612	0.55	0.523	6.886	1.102	0.684	0.527	0.491	6.498	1.517	0.62	0.561	0.553

調査2：知的好奇心尺度の因子分析結果（最尤法, Promax回転）

	全数(N=1361)					13分未満(N=480)					14分以上120分未満(N=824)				
	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD	因子		共通性	平均値	SD
	拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心				拡散的 好奇心	特殊的 好奇心			
新しい事に挑戦することは好きだ	.871	-.067	.683	3.040	1.008	.836	-.034	.658	3.000	1.001	.889	-.082	.702	3.070	1.011
までやったことのない課題にもよるこんで 取り組める	.810	-.001	.655	2.970	.963	.674	.129	.600	2.980	.938	.841	-.028	.678	2.950	.977
誰もやった事のない物事にとても興味がある	.809	.002	.657	2.920	.972	.784	.022	.641	2.950	.943	.797	.015	.651	2.910	.986
どこに行っても、新しい物事や経験を探す	.733	.057	.598	2.870	.939	.835	-.039	.651	2.900	.919	.700	.089	.579	2.850	.947
新しいアイデアをあれこれ考える	.684	.054	.521	3.040	1.050	.705	.082	.590	2.940	1.032	.686	.014	.484	3.100	1.052
何事にも興味関心が強い	.648	.127	.549	3.040	.965	.639	.154	.578	3.000	.930	.625	.144	.529	3.070	.983
解答を理解できないと気持ちが落ち着か ず、なんとか理解しなければと思う	-.118	.841	.586	3.210	.956	-.003	.714	.507	3.080	.893	-.133	.856	.602	3.280	.984
物事を学ぶ時には、徹底的に調べたい	.029	.791	.659	3.180	.986	-.047	.864	.688	3.010	.957	.079	.749	.643	3.280	.989
はっきりした明快な答えが出るまでずっと 考える	-.003	.790	.621	3.090	.932	.258	.503	.513	3.020	.863	-.073	.879	.694	3.120	.963
問題を解くために長時間じっくり考える	.066	.722	.591	3.170	.974	-.033	.839	.664	3.010	.919	.083	.696	.567	3.260	.995
予期しない出来事が起きた時、原因が分か るまで調べる	.182	.638	.601	3.140	.943	.155	.647	.592	3.050	.897	.181	.651	.610	3.190	.961
ある考えを理解するために必要な知識をす べて学ばないと満足できない	.112	.636	.516	2.980	.954	.180	.574	.515	2.990	.879	.118	.631	.509	2.980	.989
因子間相関			.689					.744					.652		



調査1・2：知的好奇心尺度の信頼性分析と確認的因子分析

調査1: 190番目/268項目中	拡散 的好 奇心	特殊 的好 奇心	調査2: 10番目/248項目中	拡散 的好 奇心	特殊 的好 奇心
全数(N=1001)	.899	.862	全数(N=1361)	.902	.896
14分未満(N=284)	.895	.829	13分未満(N=480)	.905	.890
15分以上120分未満(N=617)	.904	.867	14分以上120分未満(N=824)	.898	.898
120分以上(N=100)	.873	.881			

調査1: 190番目/268項目中	CFI	GFI	RMSEA	調査2: 10番目/248項目中	CFI	GFI	RMSEA
全数(N=1001)	.864	.896	.106	全数(N=1361)	.946	.930	.087
14分未満(N=284)	.720	.798	.160	13分未満(N=480)	.934	.907	.097
15分以上120分未満(N=617)	.932	.941	.074	14分以上120分未満(N=824)	.943	.922	.089

まとめ

- 回答時間が13～14分未満の高速回答者による統計分析への影響は、
たとえダミー項目でクリーニングしても
序盤の質問項目には、影響は少ないが、100項目を過ぎた
後半以降の質問項目に、かなりの影響が生じる。
- 特に「3=どちらでもない」を回答する傾向も高くなり（補足資料）、
多因子構造をもつ尺度の因子構造は崩れ、因子間相関も、高くなる。ただし、確認的因子分析の検証から
1項目3秒の回答時間で回答者を統制すれば、
ある程度、改善できるだろう。

調査1,2で使用した心理尺度

1. 知的好奇心尺度 (西川・雨宮, 2016)

12項目 2下位尺度 5件法

調査1: 190番目/268項目中

調査2: **10番目**/248項目中

2. Rosenberg 自尊感情尺度 (山本・松井・山成, 1982)

10項目 1下位尺度 5件法 ※逆転項目4項目

調査1: 220番目/268項目中

調査2: 129番目/248項目中

調査1・2 Rosenberg 自尊感情尺度の信頼性分析

調査1: 220番目/268項目中		調査2: 192番目/248項目中	
全数(N=1001)	.884	全数(N=1361)	.868
14分未満(N=284)	.865	13分未満(N=480)	.848
15分以上120分未満(N=617)	.884	14分以上120分未満(N=824)	.876
120分以上(N=100)	.889		

調査1 Rosenberg 自尊感情尺度の項目間相関

14分未満(N=284)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均値	SD	
少なくとも人並みには、価値のある人間である										3.06	0.911	
色々な良い素質をもっている	0.680									3.01	0.89	
敗北者だと思うことがよくある	-0.290	-0.245								2.89	1.082	
物事を人並みには、うまくやれる	0.549	0.545	-0.236							3.16	0.917	
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.289	-0.233	0.530	-0.105						3.23	0.972	
自分に対して肯定的である	0.493	0.481	-0.312	0.475	-0.147					3.02	0.859	
だいたいにおいて、自分に満足している	0.534	0.524	-0.390	0.494	-0.262	0.637				3.04	0.901	
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	0.281	0.309	0.041	0.326	0.142	0.286	0.281			3.16	0.829	
自分は全くだめな人間だと思うことがある	-0.317	-0.272	0.579	-0.271	0.529	-0.338	-0.391	0.102		3.12	1.053	
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	-0.367	-0.328	0.591	-0.363	0.535	-0.335	-0.427	0.036	0.721	2.91	0.985	
										平均値	SD	
15分以上120分未満(N=617)											3.5	0.969
少なくとも人並みには、価値のある人間である											3.3	0.931
色々な良い素質をもっている	0.689									2.59	1.195	
敗北者だと思うことがよくある	-0.421	-0.374								3.53	0.909	
物事を人並みには、うまくやれる	0.692	0.593	-0.392							3.09	1.064	
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.497	-0.533	0.506	-0.431						3.28	0.963	
自分に対して肯定的である	0.540	0.529	-0.500	0.505	-0.432					3.22	1.053	
だいたいにおいて、自分に満足している	0.563	0.537	-0.501	0.501	-0.455	0.676				3.4	0.905	
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	0.212	0.223	0.038	0.150	-0.035	0.073	0.025			2.71	1.214	
自分は全くだめな人間だと思うことがある	-0.472	-0.443	0.629	-0.468	0.516	-0.502	-0.482	0.033		2.53	1.079	
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	-0.565	-0.497	0.549	-0.548	0.549	-0.505	-0.492	-0.030	0.634			
										平均値	SD	
120分以上(N=100)											0.712	0.99
少なくとも人並みには、価値のある人間である											0.781	1.006
色々な良い素質をもっている	0.661									-0.495	1.208	
敗北者だと思うことがよくある	-0.451	-0.439								0.783	1.037	
物事を人並みには、うまくやれる	0.666	0.709	-0.528							-0.485	1.098	
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.429	-0.552	0.545	-0.447						0.649	0.895	
自分に対して肯定的である	0.569	0.67	-0.503	0.578	-0.611					0.535	1.009	
だいたいにおいて、自分に満足している	0.453	0.538	-0.593	0.516	-0.554	0.594				0.185	1.03	
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	0.106	0.167	0.101	0.137	0.097	0.013	-0.121			-0.517	1.27	
自分は全くだめな人間だと思うことがある	-0.476	-0.444	0.6	-0.573	0.542	-0.414	-0.482	0.047		-0.645	1.15	
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	-0.662	-0.59	0.561	-0.65	0.574	-0.627	-0.532	-0.119	0.68			

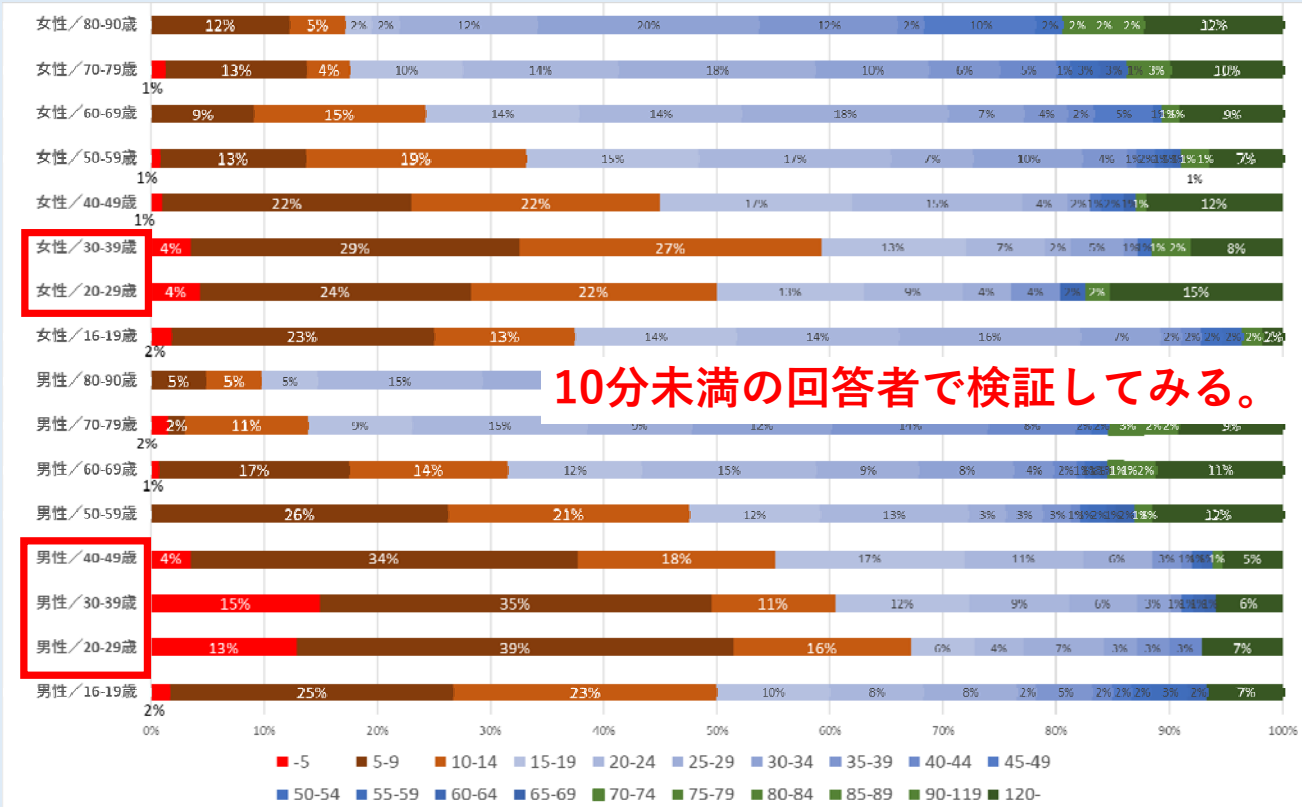
赤字：逆転項目との相関、
14分未満の回答者では、
逆転項目と通常項目との負の相関
が若干弱い

調査2 Rosenberg 自尊感情尺度の項目間相関

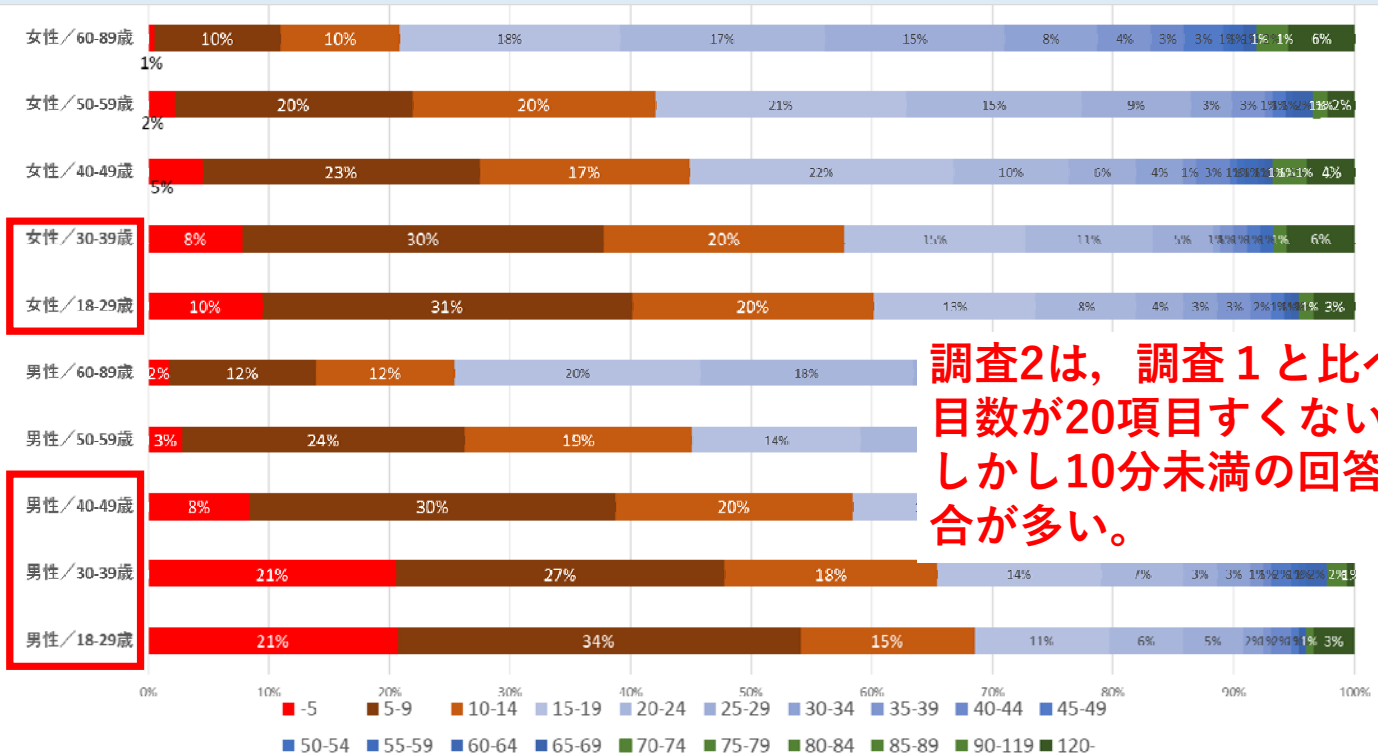
13分未満(N=480)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均値	SD	
少なくとも人並みには、価値のある人間である										3.10	0.955	
色々な良い素質をもっている	0.680									3.11	0.856	
敗北者だと思うことがよくある	-0.290	-0.245								2.98	0.997	
物事を人並みには、うまくやれる	0.549	0.545	-0.236							3.12	0.853	
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.289	-0.233	0.530	-0.105						3.18	0.914	
自分に対して肯定的である	0.493	0.481	-0.312	0.475	-0.147					3.03	0.898	
だいたいにおいて、自分に満足している	0.534	0.524	-0.390	0.494	-0.262	0.637				3.00	0.941	
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	0.281	0.309	0.041	0.326	0.142	0.286	0.281			3.20	0.845	
自分は全くだめな人間だと思うことがある	-0.317	-0.272	0.579	-0.271	0.529	-0.338	-0.391	0.102		3.04	1.022	
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	-0.367	-0.328	0.591	-0.363	0.535	-0.335	-0.427	0.036	0.721	2.93	0.998	
										平均値	SD	
15分以上120分未満(N=824)											3.5	0.969
少なくとも人並みには、価値のある人間である											3.3	0.931
色々な良い素質をもっている	0.711									2.59	1.195	
敗北者だと思うことがよくある	-0.488	-0.427								3.53	0.909	
物事を人並みには、うまくやれる	0.571	0.550	-0.438							3.09	1.064	
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.528	-0.560	0.494	-0.422						3.28	0.963	
自分に対して肯定的である	0.504	0.496	-0.478	0.465	-0.440					3.22	1.053	
だいたいにおいて、自分に満足している	0.470	0.451	-0.509	0.390	-0.454	0.619				3.4	0.905	
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	0.078	0.118	0.174	0.042	0.062	-0.078	-0.102			2.71	1.214	
自分は全くだめな人間だと思うことがある	-0.473	-0.430	0.646	-0.459	0.534	-0.510	-0.494	0.185		2.53	1.079	
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	-0.569	-0.491	0.667	-0.532	0.593	-0.545	-0.497	0.133	0.812			

赤字：逆転項目との相関、
13分未満の回答者では、
逆転項目と通常項目との負の相関
が若干弱い

調査1（2017年3月）の回答時間と年齢と性別の関係



調査2（2018年3月）の回答時間と年齢と性別の関係



調査1・2 Rosenberg 自尊感情尺度の項目間相関

調査1で回答時間10分未満 (N=128) の信頼性と項目間分析 $\alpha = .908$

10分未満 (N=128)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均値	SD
少なくとも人並みには、価値のある人間である										2.980	.803
色々な良い素質をもっている	.533									3.020	.737
敗北者だと思ふことがよくある	-0.095	.048								2.920	.944
物事を人並みには、うまくやれる	.455	.434	-.073							3.120	.780
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.045	-0.084	.371	-0.074						3.130	.817
自分に対して肯定的である	.469	.540	.011	.455	-.026					3.000	.732
だいたいにおいて、自分に満足している	.379	.460	.043	.342	-.046	.523				3.100	.782
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	.131	.136	.230	.192	.168	.254	.326			3.100	.762
自分は全くだめな人間だと思ふことがある	-0.098	-0.027	.432	-0.128	.389	-0.207	-0.285	.012		3.080	.884
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ	.093	.119	.292	-0.018	.354	.088	-0.005	.179	.286	2.950	.730

赤字：逆転項目との相関、
10分未満の回答者では、
逆転項目と通常項目との相関が
ほとんどなし

調査2で回答時間10分未満 (N=314) の信頼性と項目間分析 $\alpha = .782$

10分未満 (N=314)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均値	SD
少なくとも人並みには、価値のある人間である										3.010	.901
色々な良い素質をもっている	.623									3.050	.825
敗北者だと思ふことがよくある	-0.153	-0.098								2.960	.925
物事を人並みには、うまくやれる	.502	.497	-.112							3.050	.812
自分には、自慢できるところがあまりない	-0.101	-0.040	.424	.044						3.110	.849
自分に対して肯定的である	.411	.420	-0.109	.441	.140					3.020	.846
だいたいにおいて、自分に満足している	.449	.435	-0.222	.451	-0.009	.582				2.970	.877
もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	.362	.365	.005	.415	.181	.421	.443			3.090	.812
自分は全くだめな人間だと思ふことがある	-0.145	-0.138	.497	-0.140	.431	-0.121	-0.213	.042		3.010	.904
何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思ふ	-0.205	-0.166	.480	-0.226	.483	-0.096	-0.237	.017	.647	2.970	.897

まとめ

- 高速回答者において、逆転項目と通常項目との負の相関が弱い事は、おそらく、高速回答者の中に、逆転項目だと気づかず回答している者がいるのだろう。

心理尺度以外も含めた逆転項目の扱いには注意が必要！

信頼性と妥当性が確認できている心理尺度であったとしても

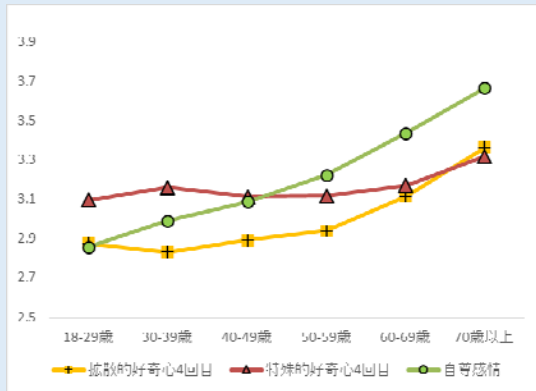
10分未満の超高速回答者の影響で結果が大きく変わる可能性も

- また、全体の項目数を少ないと
超高速回答者の割合が多くなる傾向がある。

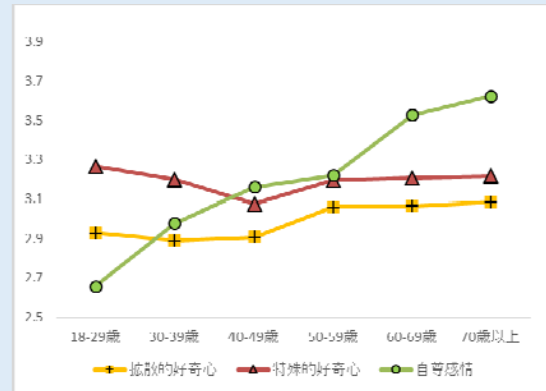
インターネット調査では、回答時間を確認する必要がある

補足：なぜ上昇？

調査2
(15分以上120分未満；N=617)



調査2
(14分以上120分未満；N=824)

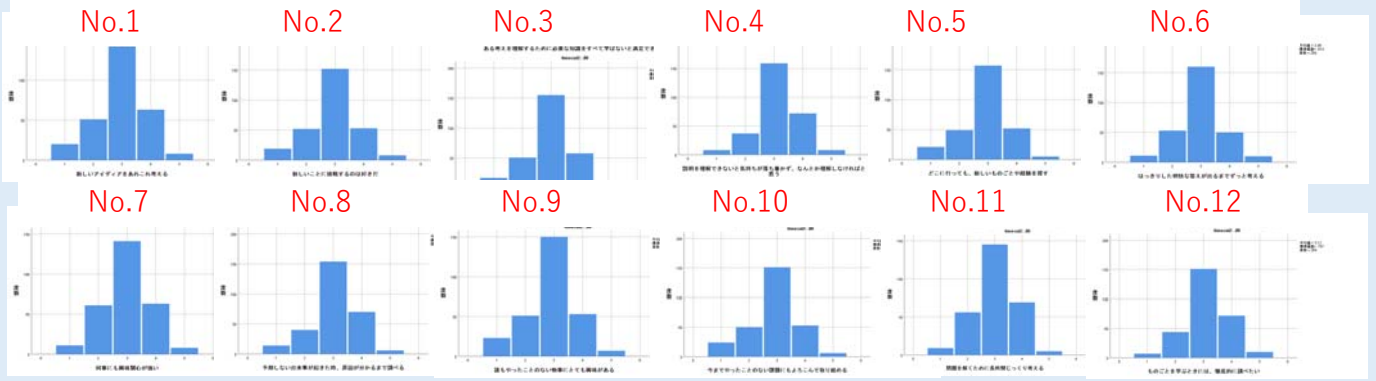


引用分析

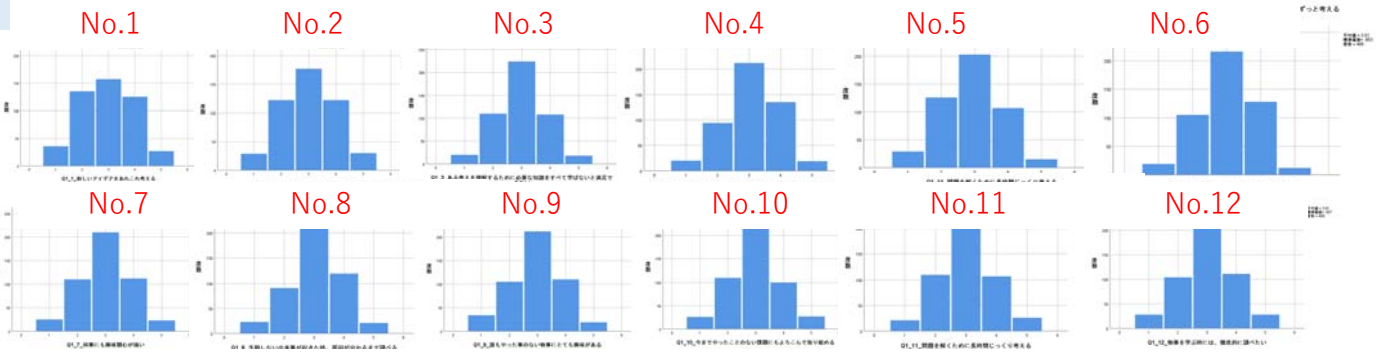
- 西川 一二・雨宮 俊彦 (2015). 知的好奇心尺度の作成—拡散的好奇心と特殊的好奇心— 教育心理学研究, 63, 412-425.
- 大隅 昇 (2002). インターネット調査の適応可能性と限界—データ科学の視点からの考察— 行動計量学, 29, 20-40
- 林 明明(2017) インターネット調査と従来型紙面調査による調査結果に違いはあるのか 電気通信普及財団研究調査報告書, No.32, <http://www.taf.or.jp/grant-a/report/32/01.html>
- 山本 真理子・松井 豊・山成 由紀子(1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.

補足資料:回答時間の早い人の知的好奇心項目の度数分布

調査1: 14分未満の知的好奇心項目の度数分布表 190番目/268項目中



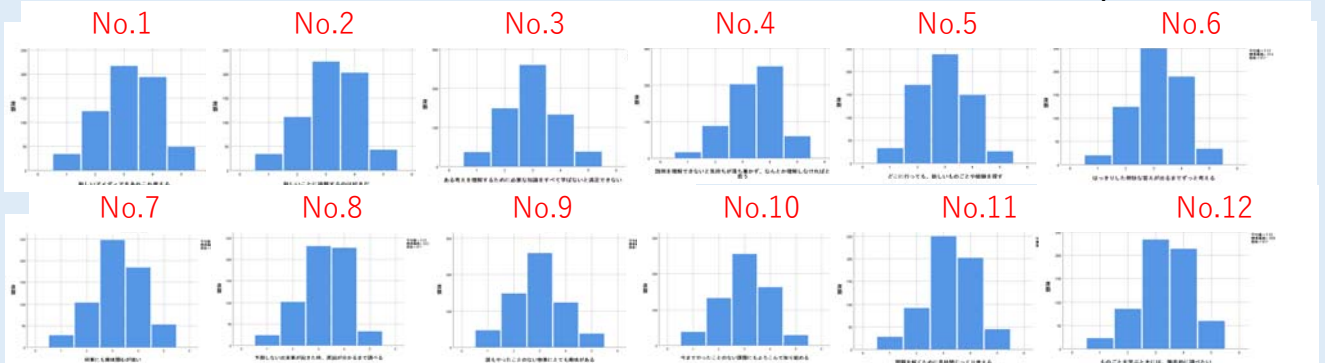
調査2: 13分未満の知的好奇心項目の度数分布表 10番目/248項目中



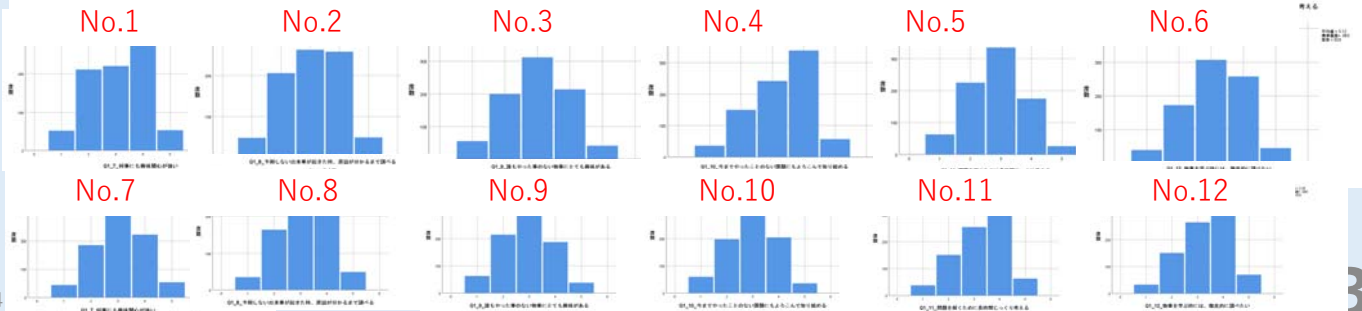
2018/11/24

補足資料:平均的な回答時間の人の知的好奇心項目の度数分布

調査1: 15分以上119分未満の知的好奇心項目の度数分布表 190番目/268項目中



調査2: 13分以上119分未満の知的好奇心項目の度数分布表 10番目/248項目中



2018/11/24

状態空間モデルによる 心理療法効果の測定と予測

千葉県 東上総児童相談所
佐名 隆徳（さめたかのり）

本研究の目的

- 心理療法を行った人が、主観的に「効果がある」と言い張ることの多い現実に嫌気がさして7年半ほど経った。

⇒①「客観的に効果があります」と言いたいと思った

②臨床現場では少ないサンプルで効果検証をしないといけない

③数ヶ月以上心理療法を行うことが多いので、時系列データを作れそう

④単純な時系列解析では柔軟性に欠ける

①～④より、ベイズで状態空間モデルだと思った。

方法

概要

小学生児童4名に対して4日間（4セッション）SST+質問紙を実施

①各セッションの頭に質問紙「自己効力尺度」に記入してもらう、②SSTを実施、③各セッション後に再度同じ質問紙「自己効力尺度」に記入、④これを4日分（SST4回、質問紙8回）繰り返し、SSTによる治療効果を「自己効力尺度」を通して確認

尺度

「児童の自己統制と自己効力との関係(田中・塩見,2000)」内で開発された自己効力尺度の「自己認知された効力」因子の項目を使用。

方法

分析方法

マルコフ連鎖モンテカルロ法(MCMC法)を用いたベイズ推定により母数推定を行った。ここでは8回の質問紙データと、さらに8回先までの95%ベイズ信頼区間を算出する。

仮説

本集団療法を行うたびに自己効力感が向上し、尺度得点が下がるが、日を置けば尺度得点は低下（自己回帰）するが、全体的に徐々に自己効力感は向上していく（予測を含んだ状態空間モデルにより検討）

状態空間モデルとは

- 状態空間モデルでは、時刻とともに与えられたデータの「真の状態」が変化し、その「真の状態」に「観測ノイズ」が加わって観測値が得られる、という考え方をする。
- 状態空間モデルでは、「システムモデル」と「観測モデル」を分けて考える。
- 「システムモデル」：「真の状態」を表す。景気のように見えないもの。
- 「観測モデル」：「システムモデル」 + 「観測ノイズ」。株価のように具体的なもの。

- 本件の**システムモデル**では、時点 t の値 $\mu[t]$ は、2つ前の値（2日目の前半に取ったデータであれば、1日目の前半に取ったデータ）と近いはず $\Rightarrow \mu[t] - \mu[t-2]$ は0に近い小さい値 $\varepsilon_\mu[t]$ になるだろう と考える。
- また、 $\mu[t] - \mu[t-2]$ は平均0、 $SD\sigma_\mu$ の正規分布に従うと考える。

$$\mu[t] - \mu[t-2] = \varepsilon_\mu[t] \quad \varepsilon_\mu[t] \sim \text{Normal}(0, \sigma_\mu)$$

$$\Leftrightarrow \mu[t] = \mu[t-2] + \varepsilon_\mu[t] \quad \varepsilon_\mu[t] \sim \text{Normal}(0, \sigma_\mu)$$

- 上記の式は、2つ前の時点の値に、平均0、 $SD\sigma_\mu$ の正規分布に従う確率的な変動が加わり、現在の値になるという意味である。
- 一方、**観測モデル**では、 $\mu[t]$ に平均0、 $SD\sigma_y$ の正規分布に従う観測ノイズ $\varepsilon_y[t]$ が加わって $Y[t]$ になる、と考える。

$$Y[t] = \mu[t] + \varepsilon_y[t]$$

- 前項によりまとめると、本件で使用するモデルは

$$\mu[t] = \mu[t-2] + \varepsilon_{\mu}[t]$$

$$Y[t] = \mu[t] + \varepsilon_Y[t]$$

$$\varepsilon_{\mu}[t] \sim \text{Normal}(0, \sigma_{\mu})$$

$$\varepsilon_Y[t] \sim \text{Normal}(0, \sigma_Y) \quad \text{※} T : \text{時点の数}, \quad t : \text{そのインデックス}$$

となる。この4式を簡潔にすると

$$\mu[t] \sim \text{Normal}(\mu[t-2], \sigma_{\mu})$$

... **モデル1**

$$Y[t] \sim \text{Normal}(\mu[t], \sigma_Y)$$

- なお、はじめの $\mu[1], \mu[2]$ については情報がないので無情報事前分布とする。

前項のモデル1式（左）とStanコード

$\mu[t] \sim \text{Normal}$

$(\mu[t-2], \sigma_{\mu})$

$Y[t] \sim \text{Normal}$

$(\mu[t], \sigma_Y)$

```

data{
  int T; //T=整数値。整数は...-2, -1, 0, 1, 2...という数。この場合、T=データの行数
  int T_pred; //予測値もデータに含まれていますよ。T_predをRコマンドで8と指定。
  vector[T] Y; // []は配列を表しており、Y[1],Y[2],...Y[T]のT個の変数がある
}
parameters{ //サンプリングしたいパラメータは①Tの平均値、②平均値のSD、YのSD
  vector[T] mu;
  real<lower=0> s_mu; //muのsd
  real<lower=0> s_Y; //Yのsd
}
model{ //今回、1つ前の値に影響されるのではなく、数値はSST前の値(2つ前)に回帰するという仮説なので、T-2とした
  mu[3:T]~normal(mu[1:(T-2)],s_mu); //2~Tまでの値は、平均値が「1~T-2までの平均値」、sdがs_muの正規分布に従う
  Y~normal(mu,s_Y); //Yは平均mu,sdがs_Yの正規分布に従う
}
  ※以下略

```

結果 1

	mean	se_mean	sd	2.5%	25%	50%	75%	97.5%	n_eff	Rhat
mu[1]	2.11	0.00	0.05	2.01	2.09	2.12	2.14	2.19	1780	1
mu[2]	2.13	0.00	0.06	2.00	2.10	2.14	2.17	2.21	723	1
mu[3]	2.08	0.00	0.04	2.01	2.06	2.08	2.10	2.16	2326	1
mu[4]	2.05	0.00	0.04	1.98	2.03	2.04	2.07	2.13	2299	1
mu[5]	2.07	0.00	0.04	2.00	2.06	2.07	2.09	2.16	2223	1
mu[6]	2.02	0.00	0.04	1.95	2.00	2.02	2.04	2.11	1723	1
mu[7]	2.07	0.00	0.04	1.99	2.05	2.07	2.09	2.16	2838	1
mu[8]	2.02	0.00	0.04	1.94	2.00	2.02	2.04	2.11	2295	1
s_mu	0.07	0.00	0.04	0.01	0.04	0.06	0.08	0.16	968	1
s_Y	0.05	0.00	0.04	0.00	0.02	0.04	0.06	0.14	391	1
mu_all[1]	2.11	0.00	0.05	2.01	2.09	2.12	2.14	2.19	1780	1
mu_all[2]	2.13	0.00	0.06	2.00	2.10	2.14	2.17	2.21	723	1
mu_all[3]	2.08	0.00	0.04	2.01	2.06	2.08	2.10	2.16	2326	1
mu_all[14]	2.02	0.00	0.14	1.72	1.95	2.02	2.09	2.29	4611	1
mu_all[15]	2.07	0.00	0.16	1.73	1.99	2.08	2.15	2.41	4944	1
mu_all[16]	2.02	0.00	0.16	1.68	1.94	2.02	2.10	2.33	4494	1

モデル2

心理療法後に得点下降、後日元の得点付近に回帰(得点上昇)し、心理療法後にはさらに下降する形を、季節変動性 $R[t]$ を用いて表現。

$$Y[t] = \mu[t] + R[t] + \varepsilon_Y[t]$$

ここでは、上昇と下降の和、つまり $R[t], R[t-1], \dots, R[t-(n-1)]$ の和は常に小さい値となると考える。
⇒今回は近似的に和を0とし、その分散は σ_R とした。

$$\begin{aligned} \Sigma^{n-1}R[t-1] &= \varepsilon_R[t] \quad \varepsilon_R[t] \sim \text{Normal}(0, \sigma_R) \\ \Rightarrow R[t] &= -\Sigma^{n-1}R[t-1] + \varepsilon_R[t-2] \quad \text{として、以下のモデルを考える} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \mu[t] &= \mu[t-1] + \varepsilon_\mu[t-1] & \varepsilon_\mu[t] &\sim \text{Normal}(0, \sigma_\mu) \\ R[t] &= -\Sigma^{n-1}R[t-1] + \varepsilon_R[t-2] & R[t] &\sim \text{Normal}(0, \sigma_R) \\ Y[t] &= \mu[t] + R[t] + \varepsilon_Y[t] & \varepsilon_Y[t] &\sim \text{Normal}(0, \sigma_Y) \quad t \geq 1 \end{aligned}$$

↓ (置き換えなどにより簡略化)

$$\begin{aligned} \mu[t] &\sim \text{Normal}(\mu[t-1], \sigma_\mu) \quad t \geq 2 \\ R[t] &\sim \text{Normal}(-\Sigma^{n-1}R[t-1], \sigma_R) \quad t \geq 3 \\ \varepsilon_Y[t] &\sim \text{Normal}(\mu[t] + R[t], \sigma_Y) \quad t \geq 1 \end{aligned}$$

モデル2式 (左) とStanコード

$\mu[t] \sim \text{Normal}$
 $(\mu[t-1], \sigma_\mu) \quad t \geq 2$

$R[t] \sim \text{Normal}$
 $(-\sum^{n-1} R[t-1], \sigma_R) \quad t \geq 3$

$\varepsilon_Y[t] \sim \text{Normal}$
 $(\mu[t] + R[t], \sigma_Y) \quad t \geq 1$

```
parameters {
  vector[T] mu;
  vector[T] R;
  real<lower=0> s_mu;
  real<lower=0> s_R;//季節変動性
  real<lower=0> s_Y;
}

transformed parameters {
  //mu+R(平均と季節変動性)の値を結果として出力
  vector[T] y_mean;
  y_mean = mu + R;
}

model {
  mu[2:T] ~ normal(mu[1:(T-1)], s_mu);
  for(t in 3:T)
    R[t] ~ normal(-sum(R[(t-2):(t-1)]), s_R);//sumはΣ
  Y ~ normal(y_mean, s_Y);
}
```

結果 2

	mean	se_mean	sd	2.5%	25%	50%	75%	97.5%	n_eff	Rhat
mu[1]	2.12	0.00	0.12	1.89	2.07	2.11	2.16	2.33	2279	1.00
mu[8]	2.03	0.00	0.14	1.80	1.99	2.03	2.07	2.23	1402	1.00
R[1]	0.00	0.00	0.13	-0.23	-0.04	0.00	0.05	0.22	1800	1.00
R[8]	-0.01	0.00	0.14	-0.23	-0.04	0.00	0.04	0.22	1587	1.00
s_mu	0.10	0.01	0.14	0.01	0.03	0.06	0.10	0.35	184	1.00
s_R	0.10	0.01	0.16	0.01	0.03	0.05	0.10	0.48	186	1.00
s_Y	0.09	0.01	0.11	0.01	0.03	0.05	0.10	0.37	149	1.00
y_mean[1]	2.12	0.00	0.12	1.91	2.09	2.12	2.15	2.32	3783	1.00
y_mean[8]	2.02	0.00	0.11	1.83	1.99	2.02	2.05	2.23	4821	1.00
y_pred[1]	2.03	0.00	0.27	1.60	1.95	2.02	2.09	2.45	4192	1.00
y_pred[7]	2.03	0.01	0.44	1.28	1.90	2.02	2.14	2.83	4728	1.00
y_pred[8]	2.02	0.01	0.48	1.21	1.89	2.02	2.15	2.89	4503	1.00
mu_a[1]	2.12	0.00	0.12	1.91	2.09	2.12	2.15	2.32	3783	1.00
mu_a[8]	2.02	0.00	0.11	1.83	1.99	2.02	2.05	2.23	4821	1.00
mu_a[9]	2.03	0.00	0.22	1.69	1.97	2.02	2.08	2.36	4023	1.00
mu_a[10]	2.03	0.00	0.26	1.59	1.95	2.03	2.10	2.48	4680	1.00
mu_a[11]	2.03	0.00	0.29	1.53	1.94	2.03	2.10	2.53	5000	1.00
mu_a[14]	2.02	0.01	0.40	1.39	1.92	2.03	2.12	2.68	4396	1.00
mu_a[15]	2.03	0.01	0.42	1.32	1.91	2.03	2.13	2.81	4527	1.00
mu_a[16]	2.03	0.01	0.45	1.26	1.90	2.02	2.14	2.86	4749	1.00

モデル3（左）とStanコード

- 得点の減少は、最初が大きく、徐々に小さくなる（治療効果は徐々に減少することを表現したい）

= 大きな季節変動は少なく、小さな季節変動が大半

⇒ 正規分布ではなく、

対数正規分布を想定

$\mu[t] \sim \text{Normal}(\mu[t-1], \sigma_\mu) \quad t \geq 2$

$R[t] \sim \text{Log_Normal}(-\sum^{n-1} R[t-1], \sigma_R) \quad t \geq 3$

$\varepsilon_Y[t] \sim \text{Normal}(\mu[t] + R[t], \sigma_Y) \quad t \geq 1$

```
model {
  mu[2:T] ~ normal(mu[1:(T-1)], s_mu);
  for(t in 3:T)
    R[t] ~ lognormal(-sum(R[(t-2):(t-1)]), s_R); //
  季節変動性に正規分布ではなく、対数正規
  分布を想定
  Y ~ normal(y_mean, s_Y);
}
```

結果 3

	mean	se_mean	sd	2.5%	25%	50%	75%	97.5%	n_eff	Rhat
s_mu	0.06	0.01	0.07	0.01	0.02	0.04	0.07	0.27	54	1.01
s_R	0.11	0.02	0.17	0.01	0.03	0.06	0.13	0.59	50	1.02
s_Y	0.06	0.01	0.07	0.01	0.03	0.04	0.07	0.27	56	1.01
mu_all[1]	2.12	0.00	0.10	1.97	2.10	2.13	2.15	2.28	2000	1.00
mu_all[2]	2.17	0.00	0.09	2.03	2.14	2.17	2.19	2.34	872	1.00
mu_all[7]	2.06	0.00	0.07	1.93	2.04	2.06	2.08	2.18	1070	1.00
mu_all[8]	2.03	0.00	0.08	1.88	2.01	2.03	2.06	2.15	621	1.00
mu_all[9]	2.03	0.00	0.11	1.82	2.00	2.04	2.07	2.24	1448	1.00
mu_all[10]	2.03	0.00	0.14	1.74	1.99	2.04	2.08	2.31	1683	1.00
mu_all[11]	2.03	0.00	0.17	1.67	1.98	2.04	2.08	2.36	1877	1.00
mu_all[12]	2.03	0.00	0.19	1.63	1.98	2.04	2.09	2.41	1919	1.00
mu_all[13]	2.03	0.00	0.21	1.56	1.97	2.04	2.09	2.47	2000	1.00
mu_all[14]	2.03	0.01	0.24	1.51	1.97	2.04	2.10	2.53	1989	1.00
mu_all[15]	2.03	0.01	0.25	1.46	1.96	2.04	2.10	2.54	2000	1.00
mu_all[16]	2.03	0.01	0.27	1.45	1.96	2.04	2.10	2.59	2000	1.00

WAICによるモデル比較

> compare(waic1,waic2,waic3) #waicの比較.昇順に並べ替える

	elpd_diff	elpd_waic	se_elpd_waic	p_waic	se_p_waic	waic	se_waic
waic1	0.0	-53.0	0.0	259.8	0.0	106.0	0.0
waic2	-46975037.4	-46975090.3	0.0	46975297.8	0.0	93950180.7	0.0
waic3	-332553161.4	-332553214.4	0.0	332553165.1	0.0	665106428.8	0.0

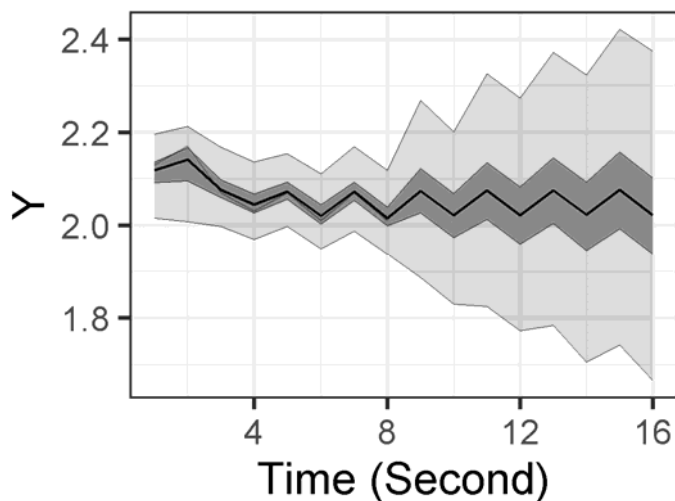
- WAICの値が最も低いモデル (=最も良いモデル) は、モデル1 (数値はSST前の値(2つ前)に回帰するという仮説)

モデル1図 (予測含む)

最良モデルを用いて本件データ+
予測を表現すると右図

$\mu[t] \sim \text{Normal}$ $Y[t] \sim \text{Normal}$
 $(\mu[t-2], \sigma_\mu)$ $(\mu[t], \sigma_\gamma)$

- 8期先(倍の期間集団療法を実施した場合)の認知された自己効力得点の95%確信区間は1.68 ~ 2.33。
- 初回の95%確信区間は2.01 ~ 2.19。



余談と反省

- SSTの効果の有無のみを判断する場合、最初の値（1期目）と最後の値（8期目）を比較して、差の95%確信区間などを算出するとよい。
- モデル1とそれ以外のWAIC値が違いすぎる。モデルの設定が悪いと思われる。上手な設定を行って比較できればよかった。
- 元論文に使用尺度の記述統計がなかった ⇒ 事前分布を設定できなかった。ベイズを有効に使用するために、事前分布の設定が可能な計画を立てたい。
- ggplotパッケージを上手に使いたいけど使えなかった。

中途退学防止に関わる研究に向けて

福岡大学 教育開発支援機構
紺田広明

1

福岡大学の概要①

- 建学の精神
 - 思想堅実、穏健中正、質実剛健、積極進取
- スローガン
 - 「人をつくり、時代を拓く」、「アクティブ福岡大学」
- 組織
 - 9学部10研究科（人文、法、経、商、理、工、スポ、医、薬）
 - 3つの附属病院、2つの附属校

2

福岡大学の概要②

- 学生数（2016年5月）
 - 学部：19524人、大学院192人
 - 入学生の64%が福岡県出身、91%が九州
 - 日大の九州版、街中で石を投げれば福大生にあたる、OB/OGが25万人以上
- 教職員
 - 教員：1411人（うち病院勤務：484人）
 - 職員：2560人（うち事務職員：608人）

3

現在の職場

- 教育開発支援機構
 - FD、学習支援、教学IRの3室を中心に、教員3名、職員5名の教職協働で教育改革に取り組む組織
- 2016年5月に教学IR室を設置
 - 室長教員（兼務）1名、室員職員（兼務）1名
- 教育改革につながるデータを提示する業務
 - 定型業務（ファクトブック等）と非定型業務（リクエスト等）

4

中途退学を考える背景

- 文部科学省の本格的調査が始まり、各大学は退学率を概ね公表するようになってきている。この主な理由の1つは、退学が大学教育の質や大学経営において重要な問題であり、大学評価の1つの指標として退学率が扱われるため
- 今年度の文科省の将来構想委員会では、学修成果の可視化の観点のほかに大学教育の質に関する情報として、入学者選抜の状況、留年率などとともに、退学状況を情報公開することが各大学に義務付けることが検討されている
- この背景には、2004年の学校教育法の改正で、認証評価が導入、また2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」において、大学教育の質の維持や向上の保証については、一義的には当該大学の責任においてなされる必要性が示されています。
- このような状況において、退学率は、大学の教育や学生支援の質を反映した、その大学の評価を端的に示す具体的な数値として扱われ、大学として退学予防とその効果検証が求められている

5

中途退学の現状①

- 高等教育機関における退学に関して、2007、2012年度に文部科学省の本格的な調査（大学・短期・専門高等約1100校を対象）[1]
 - 高等教育機関における退学者数は、6万3千人（07年度）から7万9千人（12年度）に増加
 - 退学率（年間）においても、2.41%から2.65%に増加
- 民間の調査（回答率は88%の664校）[2]では、卒業までの退学率は7.1%と報告。
 - 国の調査結果とは異なり、2014年調査の8.1%から減少傾向にあるとされる。一方、大学入学後1年次での退学率（年間）は1.8%であり、こちらはほぼ横ばい

6

中途退学の現状②

- 設置者別では、国立大2.9%、公立大3.9%、私立大学で8.2%と、私立大学で高い傾向
- 入学定員別に見ると、5.5%（3000人以上）、6.9%（1000～2999人）、8.5%（300～999人）、9.6%（300人未満）となっており、入学定員が少ない大学で卒業までの退学率が高い傾向
- 学部系統別（私立大）では、経済・経営・商は8.8%、工学系10.5%、薬学系11.8%が高くなっています。
- 別の民間の調査[3]においても卒業までの退学率は8%（2014年調査）であり、ほぼ同様の結果が示されているが、入試方法別での退学率では、一般（センター入試含む）6%、指定校推薦9%、附属・系列校からの推薦7%、AO入試16%と、AO入試で高いとの報告

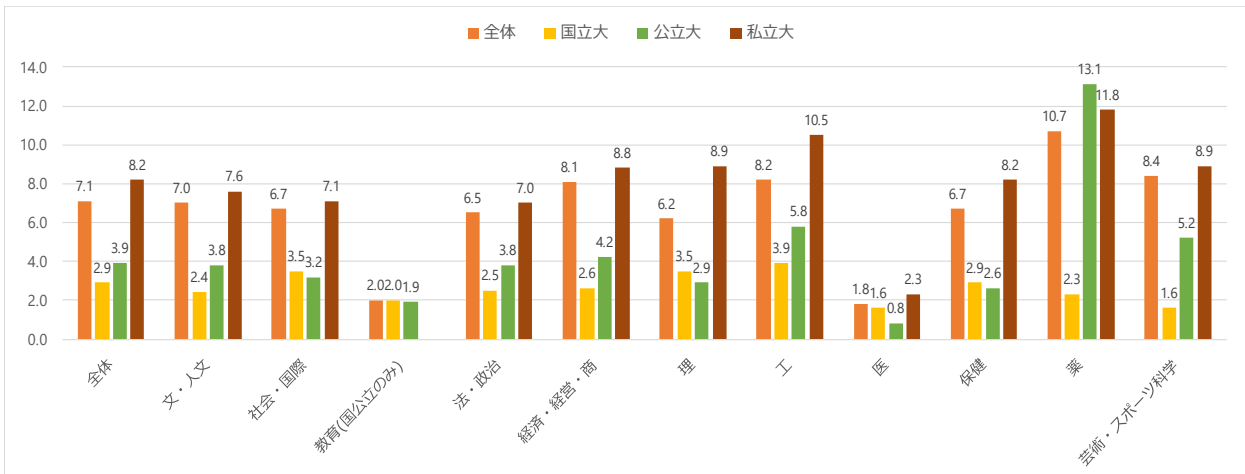


図 系統別・設置者別での卒業までの退学率
(朝日新聞×河合塾共同調査「ひらく日本の大学」2017年度調査報告から引用して作成)

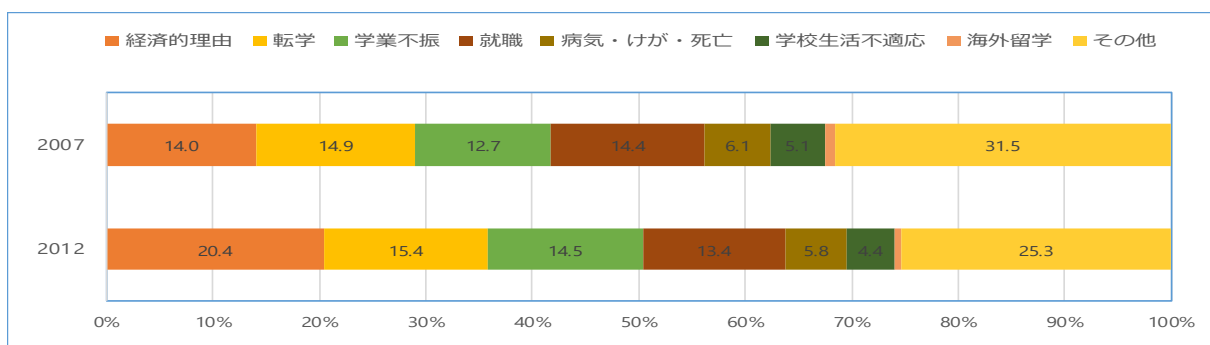


図 退学者の退学理由の割合
(文部科学省「学生の中途退学や休学等の状況について」から引用して作成)

中途退学する理由

- 上記の文部科学省の調査から、退学理由に関して図を示します。
 - 「経済的理由」による退学者の割合が「その他」を除いて最も多く、20.4%（2012年度、以下同）
 - 次に多く挙げられる退学理由としては、「転学」15.4%、「学業不振」14.5%、「就職」13.4%となっています。
 - この結果は、必ずしもネガティブではない退学理由があることを示しますが、「その他」の割合が多く、多様な退学状況であることを示唆すると考えられます。
- 200人以上の中退経験者に対するインタビューによると、大学・専門学校中退者のほとんどは「どこにでもいる普通の若者」とされ、高校を中退した生徒たちの多くが非常に厳しい家庭環境にあることとは対照的とされています[4]。

9

中途退学への対応

- 退学への対応策の個々の事例として、各大学は、入学前教育、学生相談、クラス担任制、初年次教育での授業支援等の充実を図っている[7]
- 例えば、読売新聞[8]によると、松本大学の退学率は、全国平均より14%（2006年度）と高い値であったが、8.9%（2014年度）に全国平均並みになった。その対応は、退学者の多くが、推薦などの早く進学が決まった学生だったことから、入学予定の高校生を3回集めて、学生生活や大学での学び方などを先輩学生と語る機会を設けた。さらに、キャリアコンサルタントによる個人面談を行い、教職員が時間割の作り方を教えることが影響した。
- 同記事の近畿大学では、退学率12%の学部があったが、対策の結果、全国平均並みになったと報告されています。学部の先輩学生を交えたグループワーク中心の入学前学習を取り入れ、また数年前から親がスマートフォンで出席状況や成績を閲覧できるようにしたことによる
- こうした退学における対応は、これまでの退学状況からリスクの高い学生群を検討、大学の学びとのミスマッチの軽減を目指す。その対応の成果は長期的に辛抱強くみる必要があり、大学としては一定の資源を割く必要性がある

10

中途退学に関わる研究①

- 中途退学に関わる研究として例えば、
 - 入学前や1～2年次のデータから在学率の予測 (Bingham & Solverson, 2016)
 - 出身高校や入学時の社会経済的変数などから成績不良の学生を予測 (Guarín, Guzmán, & González, 2015)
 - 日本においては、ベイジアンネットワークによる大学生の中退行動のモデル化 (白鳥, 2016)
 - 教育達成モデルに基づく退学行動の研究 (鎌田・井上, 2016) など
- 退学へ至る要因を、学生の性別、態度、コンピテンシーなど個人の属性に求めるモデルに基づいている
- 個人の属性だけでなく、社会における大学環境変数においても広く要因を検討する。そして、少数の推定においてもベイズ推定に基づく適切性を有している。
- これらの点から、本研究は、複数大学のデータを用いて、大学の環境要因を含めて、時系列での統計的分析を行うために、これまでの退学に関わる研究では十分に取り扱いできていない内容を検討したい

11

中途退学に関わる研究②

- 一方で、退学の発生頻度は学生全体に比して少数であるために、なぜ退学率が増えているのか、あるいは関連が推察される他の変数との統計的な関連を明らかにすることは容易ではない
- 例えば、退学率は大学評価の判定の間で有意な差が見られなかったことが報告されています[5]。その理由として、退学率自体が一般的に低い値であるために差が見られなかった可能性が指摘
- 大学の学習・生活環境と退学率の各種の大規模調査を対象とした研究において、生活支援や学習支援に関する変数が、退学率と有意な相関を持たなかったとの報告[6]

12

中途退学防止に関わる研究へ向けて

- 大学における退学率を規定する要因について検討し、退学防止モデルを提案する。近年、大学の退学率は上昇傾向を示しており、高等教育の質の確保に対して重大な問題を投げかけ始めている。退学率は、年次や大学で異なると考えられ、大学の教育環境や社会環境への大学の対応などが影響していると推測できる。一方、これまでに統計的にこうした要因を解明している研究はなく、本研究は今後の研究を切り開くパイロットスタディとして企図する
- 研究方法としては、1) テキストマイニング：退学経験者のインタビューデータをテキストマイニング、2) フィールドワーク：大学の現場での退学リスク評価の現状と課題に関する聞き取り調査、3) 大学・時点間の退学データの構築、最終的に、4) ベイズ統計等による計量的分析：ベイズ推定により退学率を適切推定し、要因分析を行い、退学防止モデルを構築する。

13

研究計画①

- **第1段階【テキストマイニング】：退学経験者のインタビューの二次分析から、退学者側から見た時代や大学の環境としての退学要因を探索する**
 - この予備的調査の目的は、大学における退学率を規定する多様な要因を検討するうえで、両者の観点から有用であろう要因を絞り込み、退学分析の精度を高めるためである。次の段階への準備であるため、既存のインタビューデータの二次分析で行うこととする。NPO法人「NEWVERY」が、高等教育機関（大学・専門学校）での退学の実態を把握するために、2008年5月から翌年10月にかけて高等教育機関の退学者約100名へのインタビュー調査を実施している。このデータを使用して、テキストマイニングを行い、大学の教育環境や社会環境への大学の対応に関わる部分に焦点を当てて抽出
- **第2段階【フィールドワーク】：大学の現場での退学リスク評価の現状と課題を明らかにする**
 - 国内大学の現場では、退学の生じやすさをどのような変数において捉え、どう評価しているかを中心とした基礎的なデータの収集をする。ここで、大学の現場は、大学の多様な側面からデータ蓄積とその分析を行う I R（Institutional Research）を調査対象とする。

14

研究計画②

- **第3段階【大学・時点間の退学データの構築】：退学率の要因の検討を可能とする大学・時系列データセットの作成**
 - 大学ごとの退学率は、これまでのところ公的機関の調査では公表されていないが、読売新聞社の調査「大学の實力」において発表されている。2008年以来、毎年調査が行われてきており、およそ9割の大学が回答しており信頼性は高いと考えられる。このデータを中心に大学数500校の10年間にわたる大学・時系列でのデータセットを構成する。
- **第4段階【ベイズ推定等による計量的分析】：ベイズ推定により退学率を適切推定を行い、大学と時代に関する変数の要因分析により、退学率に影響を及ぼしている時代と大学の状況を明らかにし退学防止モデルを構築する**
 - まず、ベイズ推定を行い、退学率の適切推定を行う。ここでは、大学の近接性や規模などを検討して、大学における共通枠組みを決定して、退学率の適切推定を行う。次に、この退学率のベイズ推定値を指標として、大学と時代に関する変数との関連性について要因分析。この推定は、時点間の連なりによる類似性による悪影響を回避することで、学習支援の退学率への影響などの注目しているパラメータをより精確に推定することを可能とする。この結果から、退学率に影響を及ぼしている要因を明らかにして、退学防止モデルを構築を目指す

15

まとめ

- 退学率が高いことが、必ずしも大学教育の質の悪さを反映するものではないであろう
- 高校卒業生の約半数が大学に進学する状況において卒業時の質保証を強化することは、退学率が高まる可能性もありえる。また、あくまで1つの指標にすぎない
- 一方で、退学は、その後のキャリア形成に大きな影響が明らか。大学での退学は、退学者自身にとってネガティブな要因になることが指摘されています。大学等中退者は、卒業者に比べて20代での無業や失業のリスクが高く、就業している場合も非正規雇用比率は同じ教育段階の者の2倍[9]
- 以上のことから、退学について考えることは、入学を許可した学生をいかに支援するのか、どのような能力を身に着けた学生を社会へと送り出すのか、という大学の教育全般に関わる課題であり、研究することで今後活かさればと考える

16

引用文献

- [1]文部科学省 (2014). 学生の中途退学や休学等の状況について
- [2]朝日新聞×河合塾共同調査「ひらく日本の大学」2017年度調査報告 Kawaijuku Guideline 2017, 11, 2-25.
- [3]読売教育ネットワーク「AO入試6人に1人は退学!?～「大学の實力2015」から(5)」
<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/yomitoku/contents/ao-61-5.php> (2018年8月25日
閲覧)
- [4]山本繁 (2013). 学生の中退とは何か—そのメカニズムと理由, 対策実施上の課題— 大学教育
学会誌, 35, 20-24.
- [5]渋井進・金性希・林隆之・井田正明 (2012). 学習成果に係る標準指標の設定へ向けた検討：国
立大学法人評価における評価結果報告書の分析から大学評価・学位研究, 13, 1-19.
- [6]姉川恭子 (2014).大学の学習・生活環境と退学率の要因分析 九州大学大学院経済学会経済論
究, 149, 1-16.
- [7]河合塾 (2015). 退学・除籍者数を少なくする取り組み Kawaijuku Guideline 2015 特別号
- [8]読売新聞 退学率10%超「要注意」 (2018年7月19日)
- [9]労働政策研究・研修機構 (2015). 大学等中退者の就労と意識に関する研究 JILPT調査シリーズ
138.
- ・福岡大学教育開発支援機構 (2018). 教学IRによるテーマレポート：退学の現状と対応 きこう
だより 12 17

応用心理測定研究会 第2回

会場: 京都学園大学太秦キャンパス N202
日程: 2018.11.24

StateとTraitの区分 —Authenticityの測定を例として—

清水 和秋

関西大学社会学部心理学専攻

存在と時間 Martin Heidegger (1927)

a) being → 伝統的な心理学の構成概念
→ 構造 → 妥当性の検討

b) becoming → 時間軸上での構成概念

生涯発達 life-span development

自我同一性 ego identity

Erik H. Erikson (1959, 1968)

Identityについて

identityの訳語としては「主体性」「真の自分」「自己の存在証明」「自己確認」などのようにさまざまな言葉が使用されてきた。現在の定訳は「同一性」あるいは「アイデンティティ」。

この同一性: 二重形成プロセス (溝上, 2016)

◇自己同一性:

齊一性: 自分について自分も他人も同一の人と認めること、

連続性: 昔の自分も今の自分も一貫して同じであること、

帰属性: 自分自身は何らかの集団に属し、それと一体感をもっていること

◇**自我同一性**: この自己同一性が自我の統合的・総合的機能によって保たれている程度

(中西ら、1985,pp.2-3)。

3

「同一性は、理論上、自己の単一性、連続性、不変性、独自性の感覚を意味するのみでな、一定の対象（人格）や一定の集団およびその成員との間で、是認された役割の達成、共通の価値観の共有を介して得られる連帯感、安定感に基礎づけられた自尊感情(self-esteem)および肯定的な自己像を意味している（遠藤1981,p.12）」

測定:

Marcia(1966)の半構造化された面接の方法 (中西ら、1985; 鑪ら、1984)

青年期を対象として、職業の選択とイデオロギー的信念（政治的態度と宗教的態度とからなる）域における同一性の状態を、探求(exploration)の経験（探求の経験とは、一般的には危機すなわち役割の試みと意思決定をおこなう期間における体験）と関与(commitment)（関与とは、職業選択やその役割あるいは生活設計への積極的関与の意味）との2つの発達過程をあきらかにするための基準から、**同一性を4つの地位**として判定しようとしたものである。この探求の経験を危機(crisis)とも表現している。

4

同一性の研究の広がり

三保・清水(2012)、三保・青木・福井・清水(2014)

- Hart et al.(1987)は、探求と関与だけではなく、独自のものとしての自己感覚の出現と時間を越えてつながりのある自己とを、ジェームズの論及から引用している。
- Stryker(1987)とMcCall(1987)は、役割同一性を強調している。役割は、仕事、配偶者であること、親であることなどに関連する。ところで、同一性は、内在化された役割期待とも考えることができる。そして、役割同一性は、特定の役割を遂行する者として存在するあるいは行動する自分自身を考えるとということにおいて定義することができる。このような諸役割のいずれを重要なものとして、それに関与するのかということに、社会的文脈は影響を与える。このため、自己の内容には、役割同一性が含まれるし、また社会の役割構造が反映される。
- Gecas & Mortimer(1987)は、自己概念に、同一性と自己評価とを含めることによって、エリクソン以来の諸概念を統合して取り扱うことの可能性を示唆している。彼らは、同一性の下位カテゴリーに、役割同一性、特質同一性そして実存的同一性を、そして自己評価の下位次元に、自尊感情、自己効力感、authenticityを設定している。

5

authenticity

辞書的意味

- 1 (作品・書類などが) 本物であること
- 2 (供述などの) 信憑(しんぴょう)性
- 3 (ドラマ・小説などの) 現実味, 迫真性 など

- 真正さ
- 自己の本当さ・本来性 (伊藤, 2007)

Authenticityは「自分に対して感じる自分の本当らしさの感覚の程度」とEriksonの考えを紹介し、「一義的に定義されており、これによりIdentityのような多義性に迷い込むことなく、実証研究や理論構築が進められるという利点をもっているように思われる (P.50)」としている。

- “Sense of Authenticity” 「本来感」 (伊藤・小玉, 2005)
この尺度を使用した研究例 (三保・青木・福井・清水, 2014)

6

「本当」や「らしさ」 伊藤(2007)のTable1-1-1 (P.24)

- real 1a 真の, 本物の, 本当の(genuine); 偽りのない, 心からの(sincere); 全くの,
b <収入・賃金などが>実質的な, 事実上の
2 a 実在する, 現実の, 実際の; 客観的な
- true 1 a 真実の, まことの, 真の 本当の, 事実どおりの
b [the~) 真なるもの, 真実.
2 本物の, 正真正銘の; 正当な, 適法の; 本質的な
3a 忠実な, 誠実な, 変わらない<to>; <人が>あてになる, 確かな,
b (嵐などが)変わらない, 定まった.
4a 正確な, 寸分違わない, 真に追った, 厳密な;
b (声など)正調の;
- genuine 1 本物の, 正真正銘の 純粹の, 真の
2 誠実な, 心[衷心]からの, 本当の
- authentic a 信すべき, 確実な, 典拠のある, たよりになる; **真正の**, 本物の

注 それぞれの定義はリーダーズ英和辞典第2版(1999)より引用した。

7

authenticity 再考 哲学書より

・ 存在と時間 Martin Heidegger(1927) 本来性／非本来性 authenticity or inauthenticity

◇轟(2017)前書きより: 「この**本来性**と非本来性は『存在と時間』全編を貫く根本的な区別だが、同書に少しでも目を通した経験のある方はみな、多かれ少なかれ、これが何を意味するか悩まされたのではないだろうか。」

◇浅野(2006, p.673)

「**本来性**すなわち現存在の本来的あり方は現存在の実存にある。おのれ自身についてはもとより、その周りのすべてに対して、各自的あり方をしていいる現存在を中心に経験され、ことが運ばれている。**本来性**においては、おのれ自身すなわち、この「私」が主人であり、主体である。

ところが、平均的日常性になじみ親しんでいる人びとは、平均的な日常性の示すように、おのれ自身としてのあり方を徹底しようとはしない。すべてが平均化され、事件は治まり、平常な日々に戻っていく。人々は、世間話に興ずるか、さして意味もない言葉を交わしているが、好奇心はそれなりに旺盛(ニュースへの関心、新奇なものへの傾向)、しかし世上的ことはたいてい曖昧のうちに過ぎ去っていく。

いうまでもなく、平均的な日常性の「誰か」、すなわち主人、主体は「世間」(**das Man**)である。そこにおける現存在は本来性を失っている。頹落に陥っている。これが現存在の**非本来性**である。

現存在は本来性を回復しなければならない。」

浅野 章 (2006) 『存在と時間』における「本来性」について 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 No.7, 665-676

轟 孝夫 (2017) ハイデガー『存在と時間』 入門 講談社現代新書

8

authenticity 再考 Heidegger(1927)を引用している心理学の実証的研究

• Grégoire et al. (2014, p.346)

Being **authentic** means taking responsibility for one's decisions and respecting social norms and other individuals. According to this perspective, someone who is **authentic** is ethical and exhibits integrity. This perspective involves judgments made by other people to determine to what extent the individual is authentic.

Existentialist philosophers, such as Heidegger (1962) and Sartre (1948), wrote extensively on **authenticity**, linking the concept to the human need to maintain a personal balance between individual will or responsibility and collective expectations.

使用尺度: Authenticity Scale (Wood et al., 2008)

(Grégoire, S., Baron, L., Ménard, J., & Lachance (2014). The Authenticity Scale Psychometric properties of a French translation and exploration of its relationships with personality and well-being. Canadian Journal of Behavioural Science, 46, 346-355.)

9

本来感の測定 (伊藤・小玉, 2005)

- 1 いつも自分らしくいられる
- 2 いつでも揺るがない「自分」を持っている
- 3 人前でもありのままの自分が出せる
- 4 他人と自分を比べて落ち込むことが多い
- 5 自分のやりたいことをやることができる
- 6 これが自分だ、と実感できるものがある
- 7 いつも自分を見失わないでいられる

伊藤 正哉・小玉 正博 (2005). 自分らしくある感覚 (本来感) と自尊感情が well-being に及ぼす影響の検討 教育心理学研究, 53, 74-85.

10

Authenticity Scale (Wood et al., 2008) 3因子 EFAとCFA

• self-alienation 自己疎外(感)

*は逆転項目

*10. Other people influence me greatly.

*7. I feel as if I don't know myself very well.

2. I dislike people who pretend to be what they are not.

12. I am in touch with "the real me."

• accepting external influence 外からの影響の受容

6. I feel that I am doing the things that are right for me.

4. I can be myself in my day-to-day activities.

3. I have to hide the way I feel inside.

*5. I usually do what other people tell me to do.

• authentic living 本来性的生活

11. I usually laugh because other people are laughing.

9. I feel free to express my emotions to others.

*8. I think it is better to be yourself, than to be popular.

1. I make my own choices in life.

Wood, A.M., Linley, P.A., Maltby, J., Bahousis, M., & Joseph, S. (2008). The authentic personality A theoretical and empirical conceptualization and the development of the Authenticity Scale. *Journal of Counseling Psychology*, 55, 385-399.

11

trait authenticity and state authenticity Lenton et al. (2013)

• trait authenticity ← authentic personality (Wood et al., 2008)

• state authenticity ← authenticity inventory

The first part of the survey included 12 items assessing the frequency of experiences of authenticity and inauthenticity and strength of motivation to experience authenticity or avoid inauthenticity.

• To assess frequency, we asked participants (a) whether (yes vs. no) they had ever experienced (in)authenticity; (b) to rate the general frequency of (in)authenticity's occurrence (1 = very rarely, 7 = very frequently); and (c) to make a more concrete frequency estimation (1 = never, 10 = at least once a day, with relevant labels in between).

• To assess motivation, participants indicated (a) how much they value attaining authenticity (or avoiding inauthenticity; 1 = not at all, 7 = very much); (b) how important it is that they experience authenticity (or avoid inauthenticity; 1 = not at all, 7 = very much); and (c) how much effort they put into experiencing authenticity (or avoiding inauthenticity; 1 = none at all, 7 = the most possible).

Lenton, A. P., Bruder, M., Slabu, L., & Sedikides, C. (2013). How does "being real feel The experience of state authenticity. *Journal of Personality*, 81, 276-289.

12

分人 平野 啓一郎 (2012) 私わたしとは何なにかー「個人」から「分人」へー 講談社現代新書

すべての間違いの元は、唯一無二の「本当の自分」という神話である。

そこで、こう考えてみよう。たった一つの「本当の自分」など存在しない。裏返して言うならば、対人関係ごとに見せる複数の顔が、すべて「本当の自分」である。

「個人 (individual)」という言葉の語源は、「分けられない」という意味だと冒頭で書いた。本書では、以上のような問題を考えるために、「分人 (dividual)」という新しい単位を導入する。否定の接頭辞 in を取ってしまい、人間を「分けられる」存在と見なすのである。

分人とは、対人関係ごとの様々な自分のことである。恋人との分人、両親との分人、職場での分人、趣味の仲間との分人、……それらは、必ずしも同じではない。

分人は、相手との反復的なコミュニケーションを通じて、自分の中に形成されてゆく、パターンとしての人格である。必ずしも直接会う人だけでなく、ネットでのみ交流する人も含まれるし、小説や音楽といった芸術、自然の風景など、人間以外の対象や環境も分人化を促す要因となり得る。

一人の人間は、複数の分人のネットワークであり、そこには「本当の自分」という中心はない。

個人を整数の 1 とするなら、分人は、分数だとひとまずはイメージしてもらいたい。

私という人間は、対人関係ごとのいくつかの分人によって構成されている。そして、その人らしさ（個性）というものは、その複数の分人の構成比率によって決定される。

分人の構成比率が変われば、当然、個性も変わる。個性とは、決して唯一不変のものではない。そして、他者の存在なしには、決して生じないものである。 (前書きより)

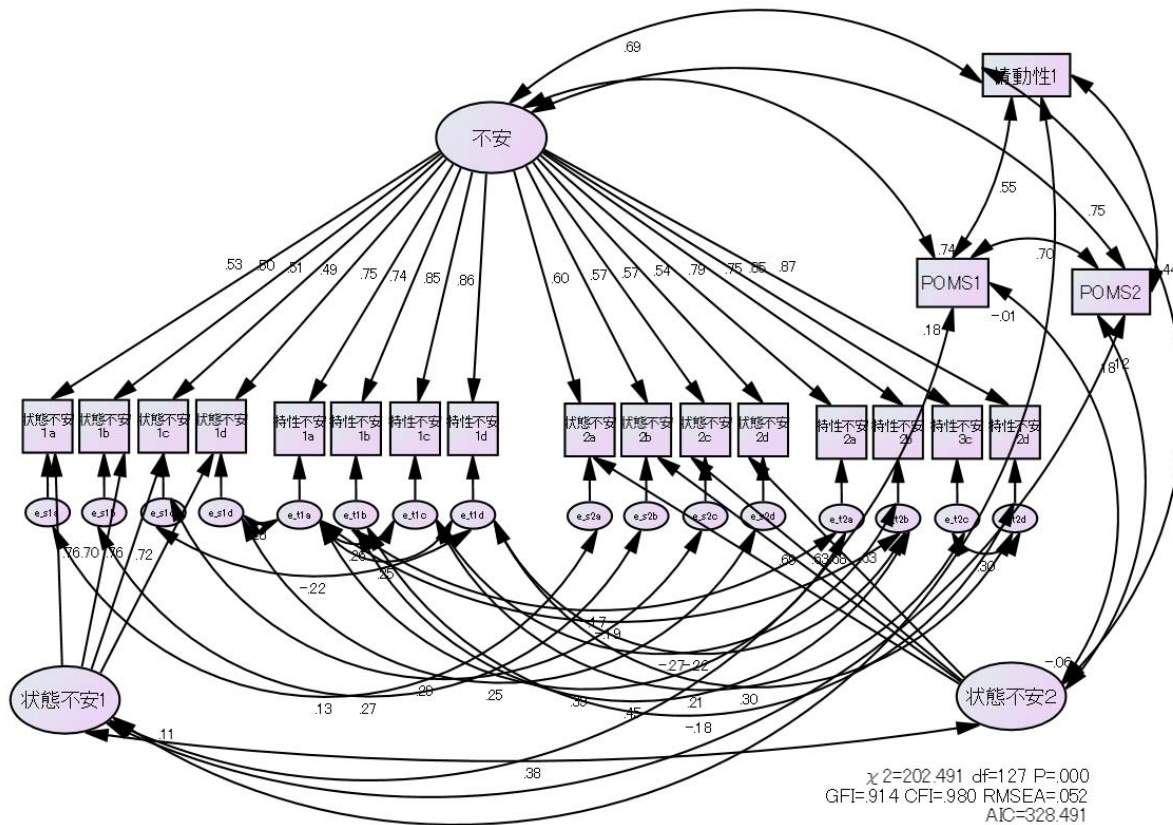
13

Still-Burning Questions Fajkowska & Kreidler (2018).

- What Is the Nature of Traits? Are They Real?
- What Is the Relation Between Traits and Behavior?
- Are Personality Traits Stable or Changeable?
- What Is the Relation Between Trait and State?
- What Are the Descriptive and Explanatory Powers of Traits?
- What Is the Function of Personality Traits?

Fajkowska, M., & Kreidler, S. (2018). Status of the Trait Concept in Contemporary Personality Psychology: Are the Old Questions Still the Burning Questions. *Journal of personality*, 86, 5-11.

14



最後に

- 日本人のidentity?
- Role-identity \leftrightarrow 分人

役割同一性は、特定の役割を遂行する者として存在するあるいは行動する自分自身を考えるということにおいて定義することができる。

社会的文脈は影響を与える。このため、自己の内容には、役割同一性が含まれるし、また社会の役割構造が反映される。

分人とは、対人関係ごとの様々な自分のことである。恋人との分人、両親との分人、職場での分人、趣味の仲間との分人、……それらは、必ずしも同じではない。

- 本来感と本来性 (/非本来性)
- 心理学の「本来感」は特定レベルでいいのだろうか。

Gecas & Mortimer(1987)：同一性の下位カテゴリーに、役割同一性、特質同一性そして実存的同一性を、そして自己評価の下位次元に、自尊感情、自己効力感、authenticityを設定している。

- “Sense of Authenticity” 「本来感」
変化していくものと考えた方がいいだろうか。

- 特性と状態の区分：心理学研究の新しいステージへ

地域愛着を育むキャリア教育による地元志向への効果

人間環境大学 看護学部 宮田 延実

1. 地方創生に向けての動き

未来の担い手となる子どもたちに地方創生を託そうと国は様々な施策を打ち出している。その一つとして、地域を理解し、地域に愛着を持つ子どもの育成や、職場体験活動などのキャリア教育が挙げられる。「第9回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等文部科学大臣表彰」(文部科学省, 2016)において、受賞した小学校は、郷土愛を軸としたキャリア教育を教育活動の中核に据えた実践であった。推薦理由は、地域が推進している「ふるさと体験学習」及び総合的な学習の時間の取り組みにおいて、ふるさとへの愛着や誇りに思う教育を積極的に推進していることであった。

この実践のように、地域愛着型のキャリア教育の目的は、子どもたちが地域への愛着を深めるとともに、地域のよさを知り、地域の人々が様々な仕事に就き、働く姿を見いだすことができようすることである。ここには、子どもたちの職業観・勤労観を培い、将来は、ふるさとに貢献しようとする気持ちを高めることが期待されている。

2. キャリア教育は地方創生につながるか

しかしながら、「キャリア教育の実践によって、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく」とするキャリア発達(中央教育審議, 2011)が促進されると、地元に残らず、地元を出て活躍したいという意識も高まるのではないだろうか。小中学生のキャリア発達のレベルは、夢や希望、憧れる自己のイメージを獲得し、進路の暫定的な選択に動く時期である。たとえ、地域への愛着が深まっても、夢や憧れ、自己の進路を求めて地元外に目を向けていくことは十分考えられる。先の実践校の成果から、小中学生に対して地域愛着型のキャリア教育を行うことによって、地域への愛着が深まり、地域貢献の意識が高まることは実証されてきた。しかし、地域愛着を深めるキャリア教育を受け小中学生が地元に残り、地方創生を行う人材育成につながっていくかについては、さらなる検討が必要である。

そこで、本研究では、保護者や地域住民をゲストティーチャーとしてしばしば招聘し、一緒に職業体験を行う地区の小中学生を対象に、地域に愛着をもつことによって、地元へ貢献し、地元で就職をしていく可能性を質問紙調査により検討する。

3. 研究の方法

質問紙の内容 地域愛着に関する質問として「地元愛」「地元暮らし」「地元貢献」に関する3項目、キャリア形成意識に関する質問として「希望職業」「学力向上」「目標実現」に関する3項目の計6項目を設定し、4件法で回答を求めた。

調査対象者 保護者や地域住民をゲストティーチャーとしてしばしば招聘し、一緒に職業体験を行う A 県の小学生(第4学年～第6学年 351名)と中学生(第1学年～第3学年 352名)である。調査時期は2015年である。

4. 結果

各質問項目の平均値 小中学生の平均値を t 検定によって比較したところ、小学生の平均値は、次の質問項目で中学生に比べて有意に高かった(表1)。それは、地域愛着についての質問項目の「自分の住んでいるこの地域が好きだ」 [$t(601)=8.29, p<.001$], 「大人になってもこの地域で暮らしたい」 [$t(625)=5.98, p$

<.001], 「学校で学んだことは地域に役立てられる」 [$t(627)=7.18, p<.001$]であった。キャリア形成意識では「自分の目標は計画を立てて実行している」 [$t(620)=5.94, p<.001$], 「大人になってやりたい仕事がある」 [$t(604)=7.66, p<.001$]は有意差があった。「今より勉強ができるようになりたい」は有意差が無かった。 [$t(629)=0.31, ns$]

表1 質問項目における小中学生の平均値

		全体	小学生		中学生
地	自分の住んでいるこの地域が好きだ	3.25 (0.92)	3.54 (0.77)	>	2.97 (0.96)***
愛	大人になってもこの地域で暮らしたい	2.50 (1.07)	2.75 (1.08)	>	2.26 (1.00)***
着	学校で学んだことは地域に役立てられる	2.79 (0.97)	3.05 (0.96)	>	2.52 (0.91)***
キ	今より勉強ができるようになりたい	3.65 (0.70)	3.64 (0.73)		3.66 (0.67)
リ	自分の目標は計画を立てて実行している	2.56 (0.95)	2.78 (0.98)	>	2.34 (0.87)***
ア	大人になってやりたい仕事がある	3.17 (1.09)	3.49 (0.93)	>	2.85 (1.15)***

()は標準偏差 *** $p<.001$

モデルの構築 地域への愛着が深まれば、生まれた地域に暮らし、学んだことを地域に生かしたいと思いに転じると考え、初期モデルでは「自分の住んでいるこの地域が好きだ」から「大人になってもこの地域で暮らしたい」と「学校で学んだことは地域に役立てられる」にパスを引いた。さらに、地域愛着の強い子どもは、大人になってこの地域で暮らし、地域に仕事があるかないかは別として、そこで仕事に就きたいと思うと考え、「自分の住んでいるこの地域が好きだ」から「大人になってもこの地域で暮らしたい」と「大人になってやりたい仕事がある」にパスを引いた。

キャリア形成意識についての3項目間では、将来、就きたい職業があれば、勉強への意欲やそのための目標の実行につながると考え、「大人になってやりたい仕事がある」から「今より勉強ができるようになりたい」と「自分の目標は計画を立てて実行している」にパスを引いた。その結果、適合度の指標である RMSEA は 0.075, GFI は 0.988 となった。そこで、修正指標を参考にしつつパスを加え、推定値が有意ではないパスを削除していった。その結果、RMSEA は 0.010, GFI は 0.998 となった。適合度指標の RMSEA を 0.05 以下, GFI を 0.95 以上とする基準から、この全体モデルの当てはまりは極めてよいといえる。全体モデルを小学生と中学生のグループに分けて分析を行った結果、図1に示すようにパス係数に違いが見られた。

「自分の住んでいるこの地域が好きだ」と関係する項目 「自分の住んでいるこの地域が好きだ」から出ていたパスは、次の5項目に到達していた。それは、「大人になってもこの地域で暮らしたい」「学校で学んだことは地域に役立てられる」「今より勉強ができるようになりたい」「大人になってやりたい仕事がある」「自分の目標は計画を立てて実行している」である。これらのうち中学生はすべて有意でプラスのパス係数であった。小学生は「今より勉強ができるようになりたい」へのパスのみが有意ではなかった。

「大人になってやりたい仕事がある」と関係する項目 小学生では「大人になってやりたい仕事がある」に到達するプラスのパス係数は、「自分の住んでいるこの地域が好きだ」「学校で学んだことは地域に役立てられる」から出されたパスであった。しかし、「大人になってもこの地域で暮らしたい」から到達するパス係数はマイナスであった。また、「今より勉強ができるようになりたい」「自分の目標は計画を立てて実行している」と「大人になってやりたい仕事がある」は、それぞれが双方向のパスで結ばれ、互いに促進し

合う関係であった。

中学生では、「大人になってやりたい仕事がある」に到達するパスは、小学生と同様に「自分の住んでいるこの地域が好きだ」「学校で学んだことは地域に役立てられる」から出ているパスであった。「今より勉強ができるようになりたい」と「大人になってやりたい仕事がある」は双方向のパスで結ばれていた。

6. 考察

小中学生の地域愛着とキャリア形成意識の実態 小学生と中学生の各質問項目の平均値を比較して分かったことは、小中学生ともに

「今より勉強ができるようになりたい」という学力向上への意欲は高く、中学生は他のすべての質問項目の平均値が小学生を下回っていたことである。年齢が上がるにつれて、自尊感情が低くなるとの指摘が多いことから、中学生は小学生に比べると地域愛着やキャリア形成意識などの回答も肯定的ではないことがうかがわれる。ただ、学力向上については、「勉強ができるようになりたい」と多くの中学生が考えているのである。これは高校受験の影響があると考えられる。「勉強」の中身は受験学力であるのか、社会で生きていく学力であるのかは定かではない。

次に着目したことは、小中学生ともに学力向上への意欲は高い割に、自ら計画して目標実現に努めようとする意識はそれほど高くなかったことである。勉強ができるようになりたいが、それを実現させる手立てや実行力に欠けるという実態があるのではないだろうか。

他方、地域への愛着は強いのだが、大人になって地元で暮らそうとする気持ちはそれほど強くないことも着目すべきことである。項目平均値2.5から考えると、将来地元で暮らそうとする小学生は全体の半数よりやや多く、中学生では全体の半数より少ない。年齢が上がるにつれて地元を離れようとする傾向がある。地元を離れて何を求めようとするのであろうか。

地域愛着の教育が及ぼす効果 これまで地域に対する愛着はあっても年齢が上がると地元から離れていく傾向のあることが分かったが、ここでは、地域愛着型のキャリア教育にどんな効果があるのかを考察する。

図1のパスモデル図によると、「自分の住んでいるこの地域が好きだ」といった地元愛は、地元暮らしと地元貢献を促し、将来の職業イメージをもたせ、学力向上と目標実現への意欲を高めることに役立っていた(小学生は学力向上へのパスは有意ではない)。これらのことから、地域の愛着を深めるキャリア教育は、小中学生の地域愛着を深めるだけでなく、キャリア形成意識を高める効果があると考えられる。

では、なぜ地域の愛着を深めるとキャリア形成意識まで高められるというのであろうか。この点については、多くのキャリア教育の実践者や研究者が報告している。例えば、浜田市小中連携キャリア教育推進事務局(2013)は、自分の将来と日常生活とのつながりを理解し、今の学習の意義を認識することにより、目的を持って学ぶようになり、学力が向上すると述べる。また、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議

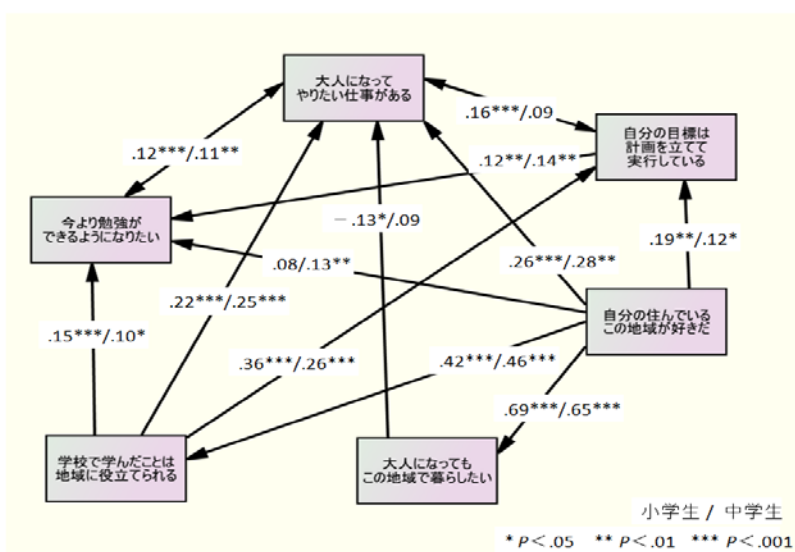


図1 パスモデル図

会(2016)は、社会を間近に感じられることで、学力や学ぶ意欲が向上するとしている。

このように、社会と関わり、そのつながりから学ぶ意味を理解するようになれば、学ぶ意欲がたかまり、学力の向上が期待できると考えられる。

地元で希望職業を見いだせない小学生 大人になって地元で仕事に就くという子どもが育つなら、地方創生の可能性が高いが、果たしてどうであろうか。パスモデル図から、小学生では「大人になってもこの地域で暮らしたい」は、「大人になってやりたい仕事がある」を抑制していたことが示された。このことから、将来地元で暮らそうとする小学生は、大人になってやりたい仕事があることを抑制していたということになる。小学生は、将来やりたい仕事があると地元で暮らそうとしないという解釈ができる。地元では小学生の希望する職業が見つからないということであろうか。中学生のこのパスは有意ではなかったことから、中学生は地元で暮らすことと、大人になってやりたい仕事とは別問題ということであろう。

地域に愛着をもつことで、地元を大切な場所と認識し、地元で暮らそうとする思いは強まる。しかし、大人になってやりたい仕事は、小中学生のキャリア発達のレベルから考えると、夢や憧れをもった職業に目が行きがちであり、その探索先は、地元ではなく、テレビやインターネットなどのメディアの世界である。

つまり、地域愛着を深めるキャリア教育は、小中学生が地元を愛し、地元で暮らしたいと思うようになる効果はあるが、地元で憧れの職業や目指すモデルが見つからないと、このキャリア発達の段階では、地元就職を希望する小中学生は、多くないと考えられる。だからこそ、キャリア教育コーディネーターの鳥田(2016)の述べるように、地域の特性や必要な人材の発見、地域の職業人とともに働く意味を考え、地元で仕事ができることなどに気付く機会を通じて、地元で愛着を持った子を育てる地域に密着したキャリア教育のプログラムが必要であることを述べている。

若者の地元就職の可能性 地元のよさを理解し、地元で貢献する気持ちはあるが、地元で憧れの仕事を見いだして就職しようとする思いは、小中学生の段階では、あまり多くないと言わざるを得ない。やがて、小中学生も若年になって就職活動を通して、自己分析や業界・企業研究を通じて視野を広げ、キャリア発達を遂げていく。こうした具体的場面において、平尾・田中(2016)は、地域愛着は一見、地元への就職を増やす方向に働くと思われがちだが、必ずしも彼らは地元の会社だけを見ているのではないと指摘する。また、地域愛着が深まったにもかかわらず、地元を出て仕事に就きたいというのは、ある意味でキャリア発達が進んだ証拠であると述べている。しかしなかには、地元志向の親の意見によって地元就職を決める若者も存在し、地元か地元外かは就職活動の過程で揺れ動きがあるという(杉山, 2012)。地域愛着が深く、地元で貢献する気持ちを抱いたまま若者に成長し、職業選択の岐路に立ったとき、地元就職の可能性は高くなるのではないだろうか。このような若者の職業選択の状況を想定すると、小中学生のうちに地域愛着を深める教育を進めていかないとすれば、若年となったときの地元就職の選択肢を一層狭めることにもなる。

引用文献

- 中央教育審議会(2011)。「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」
- 浜田市小中連携キャリア教育推進事務局 (2013)。「キャリア教育だより」
- 平尾元彦・田中久美子(2016)。「就職活動を通じた地元志向の変化」, 山口大学教育機構大学教育 13, 65-71.
- キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会(2016)。「よくある質問(キャリア教育)」キャリア教育総合情報サイト
- 文部科学省(2016)。「地方創生を担う人材の育成について」
- 鳥田由美子(2016)。「地域にキャリア教育が浸透していくことを願って、キャリア教育コーディネーターってどんな人?」ワクワクキャッチ vol.2, 河合塾
- 杉山 成(2012)。「大学生における地元志向意識とキャリア発達」, 小樽商科大学人文研究 123 巻, 123-140.

応用心理測定研究 第2号

平成30年11月24日 発行

発行 応用心理測定研究会(代表 清水和秋)
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学社会学部清水研究室
mail: shimizu@kansai-u.ac.jp
tel.06-3638-0737
